



SHANDAA : In My Lifetime

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学僻地教育研究施設 公開日: 2010-04-11 キーワード: 作成者: フィスタラー, ビル, 後藤, 守, 金澤, 克美, 加藤, 富夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00009659

SHANDAA: In My Lifetime

ビル・フィスタラー (編)
 後藤 守 金澤 克美 加藤 富夫 (共訳)

まえがき

1980年の夏、私は、ユーコン大河の支流、Black川の川岸にある小さな村(ユーコン砦から約60マイル東にある)、Chalkyitsikを訪れた特筆すべき経験をした。北極圏から、わずか2、3マイル北にあるその村は、アラスカ奥地で発見されている他の多くの村とそんなに変わってはいない。

しかし、その村の小屋で、この人こそがただものではないと言えるある住人と話を交わした。その女性の名は Belle Herbert と言ひ、他の誰よりも長期に渡って、後にアラスカ州となるその准州地方の住人であった。それで、アラスカの、もしかするとアメリカ全土においてさえも最高齢の現存する住人の一人であるのかもしれない。

村の記録では、彼女の誕生について不明となっている。州当局の人口動態統計に基づく推計ではもっとも早くて1854年、1861年から1870年代になりそうである。Herbertの誕生日を正確に特定することはできないが、彼女は1860年代から1880年代に起きた歴史的出来事について、日付を今でもはっきりと記憶している。我々の実に多くの者にとって、昨日の食糧雑貨店での買物リストを記憶することでも困難である。いわんや一世紀以上前に起きた出来事を覚えておくことは、實際上不可能である。その意味で、Herbert夫人は彼女の注目すべき長生きの秘訣ばかりではなく、他の理由からも興味をおぼえ、尊敬に値するものである。

アラスカの歴史の観点からすると、彼女は白人によるアラスカ奥地の調査の幕開けとほとんど同時に生まれたことになる。1847年に Hudson's Bay Companyによって、北部ロシア領アラスカにおける最初の駐在地として Fort Yukon が設けられたとすれば、Herbert夫人がおそらく彼女のいた地域に初めて白人がやって来るのを目撃したと仮定し

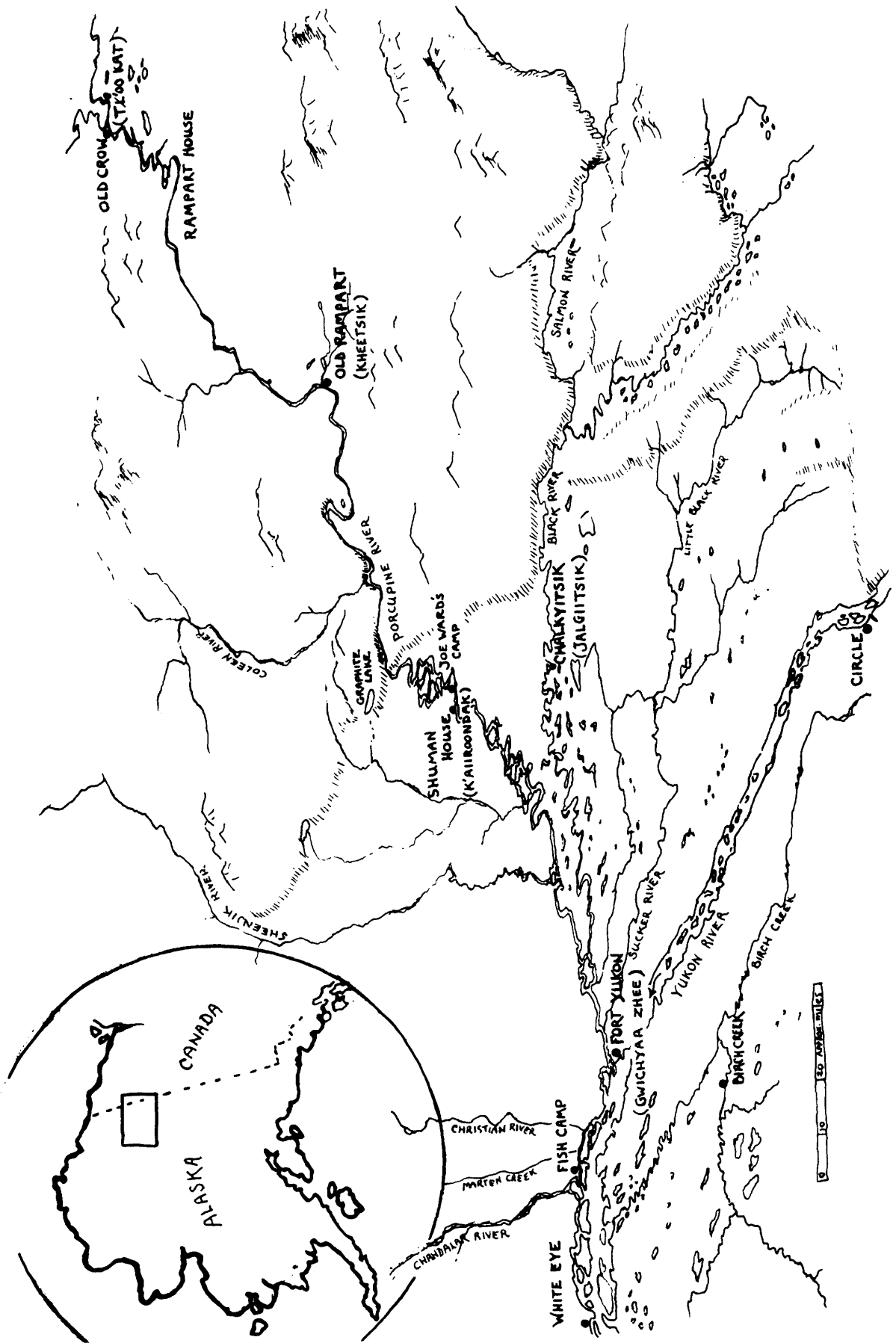
ても差し支えない。母国ロシアから William Seward という州長官によってアラスカが購入されたとき、彼女は若い少女だったはずだ。1872年に Sitka 近くのアラスカ南東で初めて金が発見された時は若い娘であり、1898年に Yukon 近くの Bonanza Creek そして Nome でのゴールドラッシュ時には成熟した女性となっていたのである。彼女は、州の記録された歴史のほとんどを生きている。最も重要なのは、しばしば記録されなかった州の歴史、そして美しいが厳しい環境で生き抜くための日々の苦闘を経験してきたことである。彼女が育った地方では、辛い仕事は道徳ではなく、短い夏の再生を楽しむために食べ、暖かさを保ち、長い冬を生きることが必要だったのである。

中国のような社会では、長老を尊敬し、もっている知恵と彼らと与えることのできる教訓のため彼らを国の宝として扱っている。多くのアメリカ人と同様にアラスカの人々もしばしば我々の過去を十分知らず、過去の失敗をくり返している。Belle Herbert は、我々に極北の困難な生活の識見をすべて提供することを約束する明晰な女性である。我々も彼女の記憶していることをよく知ろうとするのはよいことである。なぜなら彼女の知識は、いったん分かち与えられると永遠に残ることができるからである。しかし、彼女がこの世からいなくなると、人跡未踏の荒野、未知の地方での生活の記憶も不幸なことに永遠に消え去ってしまうのである。彼女は、本当に消滅しかけている真のアラスカ住人の最後の人間である。

Jay S. Hammond アラスカ州知事

序

Belle Herbert は、Black川のほとりにある Chalkyitsik 村に住んでいる Gwich'in Athabaskan の女



性である。彼女は、彼女の長い人生のすべてをこの地方で過ごしている。矛盾する誕生日の記録によれば、彼女は105才から127才の間の年齢である。彼女の息子は、1964年に68才で死んでいるので、Belleはたぶん120回以上の春を経験していることになる。(敬意を表するため、社会的文脈のなかでGwich'inの名前が使われることはめったにない。Yukon 平野の人々は Belle と呼んでいるので我々もこの本で彼女をそう呼びたい。)

私は、何年間か Fort Yukon に住んだことがあり、人々が Belle と彼女の話について話題にしているのを聞いた。1979年秋、Alaska Humanities Forum は我々に Belle が語る彼女の生活の記録シリーズを作るための資金を提供した。私は、彼女と話すために Chalkyitsik を何度か訪れた。この本の記述は、そのときの録音をもとに筆記されている。

この本をつくるに当たって、異なったパートで多くの人々が携わっている。Chalkyitsik の Alice Moses は、記録作成に当たって、Belle と私の通訳として働いた。彼女は Belle の話のなかで“私の孫”と言われている人物である。Katherine Peter はテープの記録から Gwich'in の原文を筆記し、その資料を訳した。彼女はまた、Belle の語る地域や出来事についての専門的な知識を与えてくれた。Fort Yukon の Dinjii Zhuu Enjit 博物館の Virginia Alexander は、初期のフィールドワークにおける Humanities Forum の資金援助のプロジェクトを支援した。Alexander 夫人もまた、各々の原文の注釈に歴史的背景を与えて、大きな支援をしてくれた。アラスカ歴史研究会は、原文と解説の仕事に資金を調達してくれた。アラスカ僻地 Community Action プロジェクトは、写真家 Rob Stapleton の支援をしてくれた。ノース航空は、Chalkyitsik の往來の輸送をしてくれた。Fort Yukon 市は、プロジェクトに追加援助してくれた。アラスカ・ネイティブ言語センターは、編集、植字、印刷資金の援助をした。

この記述は、Belle が語った順番に、最小限の編集がされて掲載されている。語り手の思いが込められているので、原文には語や文以上のものがある。例えば、話しているとき、語り手が一息付いた場所は意味や、感情が付与する上で大切である。それらは、話の歩調を示しているのである。その話は、どちらかの言語で声を出して読むべきものなのであ

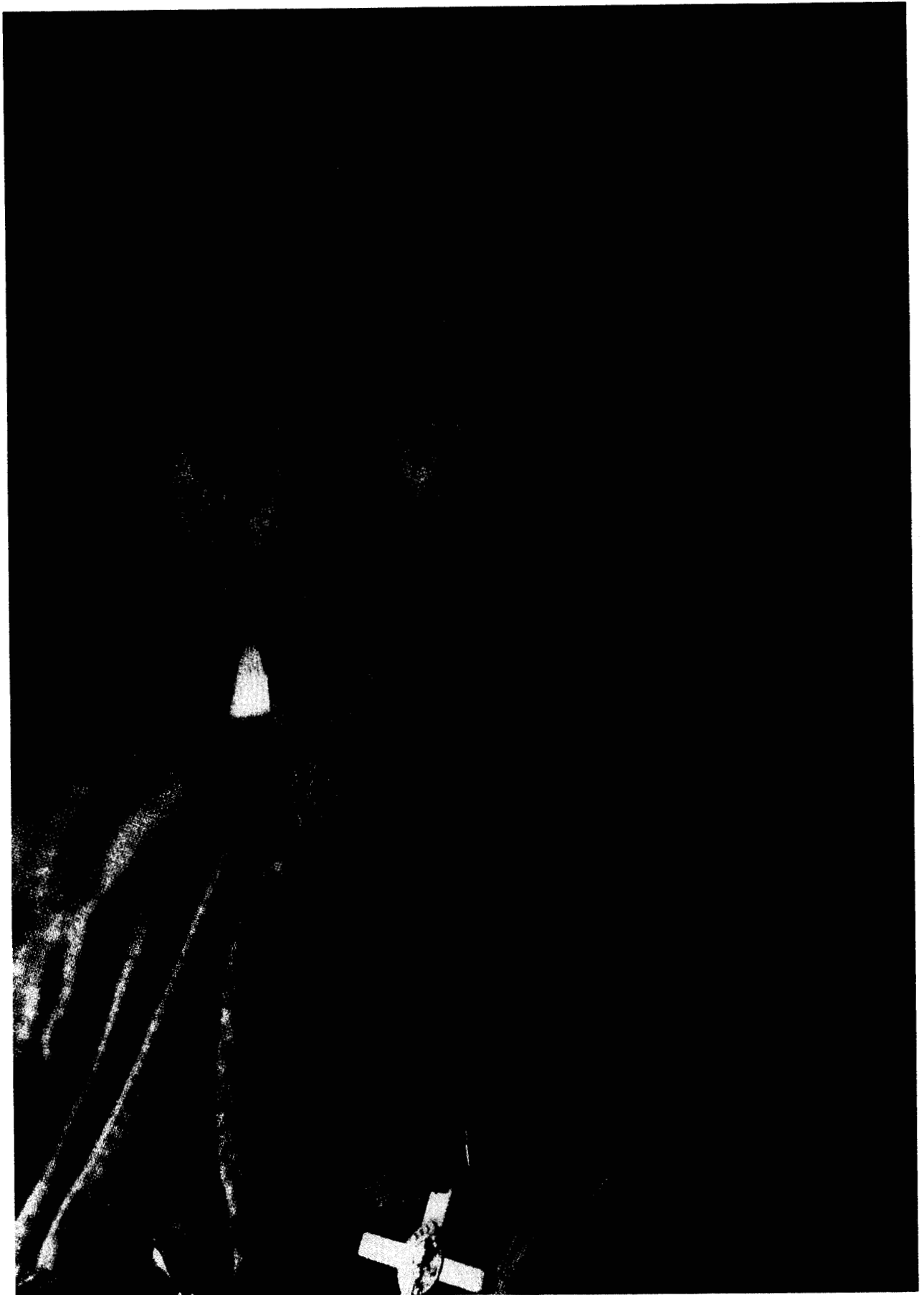
る。あたかも呼吸するかのように読み手は短く各行の終わりで、休止するべきである。行間に広い間隔があるときは、休止はより長いはずである。このようにして読めば、作家としての印象よりも語り手の印象がより強くなっていくのである。

Bill Pfisterer

目 次

- まえがき Jay. S. Hammond アラスカ州知事
 地 図
 序 Bill Pfisterer
 1. ムース狩り
 2. 昔の生活；皮のテントと衣類
 3. 昔の生活；狩り
 4. 子どもの頃の旅
 5. Porcupine 地方での旅
 6. ムース狩り；病気
 7. 昔の衣類
 8. 昔の生活
 9. 旅行；結婚；悲劇
 10. Porcupine への旅
 11. Graphite 周辺の旅；まじない師の治療
 12. 葬式の風習
 13. 皮なめし；兎の捕獲；昔の料理
 14. 昔の家具と布の到来；じゃこう鼠狩りと銃の到来
 15. 昔の狩り
 16. 結婚；その当時と今
 17. Belle の結婚
 18. 白人の到着
 19. 病気の治療
 20. 家族の歴史と昔の生活
 21. 兎の皮の毛布
 22. 家族の歴史
 23. ある有名な人達；キリスト教の伝来
 24. 宗教；魚のわな；飛行機の飛来；どのように若者は妻を手に入れたか
 25. もう一つの結婚話；昔の皿と料理
 26. 昔の生活；森の人々；宗教の伝来

訳者あとがき



1. ムース狩り

Belle は Shuman House に住んでいたときに、夫 Joe Herbert と行ったムース狩りについて語る。Joe Ward の住む場所は Shuman House から約 1 マイル上流にあった。Ellen は Ward の Athabaskan 妻であった。Joe Ward は、英国生まれで 1911 年に Porcupine 地方にやってきて、1970 年に 90 才を越えて亡くなるまでの間アラスカにとどまっていた。

“ムースがここでも眠ったようだね。
あ！ムース
ここで眠ってた
らしいよ。” 私は彼に言った。
そう言っても
彼は私の言っていることを聞いているようには見え
なかった。
彼は前方に歩きだすと、突然沈んだ。
湖の岸辺の低い所に
一塊の柳が
生えていた、そして、
土手になっている所に彼は
腰を降ろした。
そら、あたり一面小さな柳だ。
その柳が生えていない一角で私はしゃがんで
そして座った。

小さな柳のそば
そこに
いくばくかの草が
水面からのぞいていた。その上に一匹の大きなムースの角、
でも、頭は見えていない。
さてさて
いつも皆はこの辺で狩りをしてきたのさ、だから
私は誰かがムースの角を置いていったと思ったよ。
だけど
たとえそうでも、私は彼に何も言わなかった。
彼はそっちの方を見回している。
それから
ほらね
とうとう長い時間をかけて
彼はついにあれを見たのさ。
彼はこんな風に私を突いて
あれを指さしながら、こんな具合にしたのさ。
ああ、それから、私らはひらすら待っていた。
そして、ついにその大きな角が微かに動いたんだ。

ああ、そら！そら！ちょっと動いて止まった。
それから、出てきて、頭を突き出したのさ。
それから
再び奴はゆっくり向きをかえたんだ。
そして、水のなかで動き始めた。
それから
そいつは、長い間耳をすましていたよ。
そうこうするうちに
土の上にひざまずきながら、
彼はわきに銃を抱きかかえて
ポケットの
たばこに手をのばした。
ムースが私らの前に立ち上がった！
ああ！そのとき
“どうしてお前さんは銃を降ろしたのさ？”と、私
は彼に言ってやった。
それから、彼は私の話を聞いていた。
そして、しばらくの間、私たちは待っていたのさ。

まるで浅瀬でもあるかのように、奴の肩が突き出されたとき、
その時、“今だ！”と私は彼に言ったんだ。
それから、彼はそれを撃った、そのムースを、水の中にいる…
私らは歩いた
ほんのちょっと
そっちの方へ
そして、よく見える場所へ出てきた。
私は彼がムースを撃つのを見ていたのさ、だけどそこでは奴が横切って泳いでいくのを目にしたのだった。
“ムースが横切っていくよ”私は彼に言った。
そこで私らはその方向へ下った
カヌーの方へ。
それから、彼は私とカヌーを漕いで湖を横切った。
その湖を横切るのは長い道程だったよ。
それから、ムースがいたんだ、柳に隠れて。

奴はもう撃たれていたよ。

それから、
大きなじゃこう鼠〔muskrat〕のトンネルづたいに彼は私とカヌーを漕いだ。そして、
ムースが隠れている間に
彼はカヌーを押し出したのさ。
それから、奴があっちへ歩き始めたときに、
私は言った、“撃って！”二度目に、そして最終的に彼は撃ちとったのさ。
それから、
彼はカヌーを後にした。
彼はムースの半分の皮をそぎ、足を切り落とした。
私らは帰った。
カヌーのそこへ、そして
すぐそこで野宿したのさ。
さて
次の朝、彼はそれを残らず解体した。
そして、彼が帰りの旅の用意をしている間
私はその肉全部を川岸に運んだよ。
そして、とうとう
全部終わったのさ。
それから、もう一つ運ぶものが残っていたんだ。彼は私をそこに連れて行き、
それを背中に乗せて運び、それから、
川岸に降ろした。
ああ！私らは本当に一生懸命働いたよ。
それから、
彼は筏を作った。
この間、Ellen と他のものは

私らが随分帰ってこないもんだと心配していたよ。
それから
彼は筏を組み立て、その上に
肉をいくつかのせ、
いくつかをカヌーにものつけた。
そして、また
私らは川岸に肉をおいてきたよ。
その後で、私らはカヌーを漕いで戻ってきた。
それから、私らは上陸した、
Joe Ward の住みかのすぐ近くに。
ああ！Ellen が川岸越しにちらっと私らを見たよ。
そして、Joe Ward は私らを投げ入れたのさ
全部の食べ物と一緒に大型ボートへ。
彼らは戻ってきたばかりらしかった、
戻ってきたばかりで
Joe Ward は大型ボートで残りの肉を取りに行った。
それで
それから
ああ、孫よ！
再び
私らはもう一度そこへ狩りに出発したのさ。
そして、まもなく
彼は、もう一匹ムースを撃った。
私らは歩き回り、
私は土蔵の隠し場を作ってしまったおいたんだ、それから
秋に辺りが凍り始めたときに、私らはそれを持ってきたのさ。
その頃、Henry はいつも私らと一緒にだったんだ。
これでおしまい。

2. 昔の生活；皮のテントと衣服

Belle は、皮のテント（13章でもっとよく描写されている）を話題にする。それは、丸屋根の枠を作るのに曲がった柳の骨組みか、順番に支えに乗っている二本の並んだ大梁に支えられた松の柱からできていた。これは、縫い合わされたたくさんのカリブーの皮で覆われていた（Robert McKennan の“The Chandalar Kutchin”（北アメリカ北極学会の専門論文集 No.17, 1965年）を参照せよ）。昔の生活で使われた料理の方法は、24章でさらに描写されている。7章ではもっと詳細に伝統的衣類について描写している。

さて、ちょっと話そう。
昔の人々がどんな具合に身支度していたかをさ。
ああ
男は一生懸命働いていないよ。

男っていうのは！
女だけが頑張って働くのさ。
さて、そう
皮の家の枠の上に

棟木があった。
 それらのうちの10本は底に並んでいた。
 あそこの屋根の柱のように。
 そして
 もうひとつあった
 あそこに
 そして、その大きな皮のテントは
 毛のついた獣の皮で覆われていた。
 それらは、昔は半分に折りたたむことができた。
 そして、トボガン（小型のそり）で運ぶことができたのさ。
 丸太があった。
 両端に、
 一本は前の方に、そして、この位のもう一本は後ろに。
 丸太で
 家は建っていた。
 それから
 全部の柱はそっちの方へ広がっていた。
 そして、二、三本の細いロープで一緒に束ねられていた。
 そして、皮もまたそれに縛りつけられていた。
 彼らは皮を骨組みにしばった。
 そして、その中央、
 お前のちょうど前方が炉の場所だった。
 両端の二本の棒の間に土が積まれていたよ。
 そして、私らはその上で火を起こした。
 そして、
 私らが作った炉の上に、
 一本の細い鉄の柱があったよ — あれはどこで作られたものだったのかねえ？
 それに
 木の掛け鉤、
 掛け鉤が紐でしっかりと縛りつけられていたのさ。
 そして、そこに
 私らは丸い入れ物をかけたよ、すぐ上に
 炉のね。
 それから
 女達は
 毛皮のズボンも身に付けていたし、
 毛皮のアノラックも着けていた。
 そして、毛皮の
 手袋
 上に縁飾りの付いた

それをはめていたのさ。

...

まず、女達は自分達のをそりに縛りつけた。
 女達は子どもに服を着せた。そりにものを縛りつけた後で、
 小さな子がそりの荷台に乗った。
 そして、上の子達は前を歩いたのさ。

それから

女達は
 自分の持ち物を持った
 持っているもの全部をさ
 テントの柱までもだよ
 そして、それをトボガンに縛りつけたんだよ。
 時には、二匹の犬がいたもんだ、時には、三匹、
 時々二匹、時々三匹。

トボガンを引く犬がいても
 女達はそりをおさなくちゃあならなかった。
 そして、こんなようにして
 女達は、そりで旅し、
 野営地に着いた。

男達は

朝、まだ暗いうちに出かけて行った。
 彼らは、決して女達を助けなかった。
 たとえ、赤ん坊を抱えていたとしても、
 女達はテントを立てることになっていた。
 彼女らは雪を掘り出した。
 彼女らは雪を掘り出した。
 丸いテント柱を立て、
 それに皮を覆いをかけた。
 その後、女達はロープでくくり、
 出て行った、
 倒木を捜しにね。
 切り株に土がついているのを。
 炉に作るのにこの土を使ったんだよ。
 それから、彼女らがちょっと火を起こして後で、子ども達は
 火のまわりに古い服を持ってきて広げた。
 それから
 それからまた
 女達は出て行って、木を切って縛った。
 たとえ、女達が赤ん坊を抱えていたとしてもだよ。
 彼女らは、それをこの位の長さに切った。
 それから

彼女らはそれで火を起こしたんだよ。
こんな具合に彼女らはしていたのさ。
それから、彼女らはみんな中に入ってきた。
彼女らは男達が、すぐにやって来ることを期待していた。
そして、火の上の丸い入れ物に食べ物を入れた。
それから、食べ物…
そのころは、私らはお茶すら知らなかったよ。
それから
男達が帰ってきた。
やっとそのときにね。
当時はそんな風だったんだよ。
ああ！
男達は女達をそのころ苦しめていたよ。

時には、彼らは何かを捕らえてきた。
彼らが包みを持って帰ってきたとき、子ども達が騒がしく駆けこんできた。
時には彼らは何にも捕まえてこなかった。
こんな具合に男達は食べ物の狩猟に関わっていたのさ
彼女らが野営の仕事をしている間にね、
私らは本当に貧しかった。
辺りに服の切れ端なんかもなかったよ、
ただ毛皮だけさ。
昔は、こんな具合だったのさ。
本当に、
私らはその当時は貧しかったんだよ。

3. 昔の生活；狩り

貿易の品々が入って来る以前の昔の食べ物について Belle は語る。使用されていた矢じりの種類（15章でさらに討論されている）、そして、仕掛け罠について語る。彼女はいくつかの金の発見を話題にする。発見の年代は Dawson 1897年、Circle 1893年、Tanana 1902年、そして、Talkeetna 1906年である。昔、人々が使っていた矢は編んだ腱が付いたかばの木で作られていた長い矢だった。幅広くなった弓の先端には初めは石が付けられていたけれども、Belle の時代にはおそらく貿易で得られた鉄が付けられていたのだろう。彼女が語っている矢の先は、二つの並行な先端をもっていた。Belle が話題にする仕掛け罠は明らかに小さな獲物に使われたものらしく、餌を取りにくる動物の上に落ちるように一本の丸太が置かれたものだった。大きな動物用のものもあって、それは台のような丸太全体が上から落ちてくるものだった。

Alice：彼らはお茶に何を使っていたの？

彼らは多少肉を食べて、
それから、その汁を
飲んでいただけさ。
他に何か
彼らは飲むことができたろうか、
彼らが貧しかったときに？
私らは白人について知ることさえなかったんだ。
私自身は、この辺りに白人が最初にやってきたのを見たよ。
皆が Old Rampart と呼んでいるあそこに、たった一人の司祭がいたよ。
そして、一人の長がそこにいた。
これが、私らが聞いたこと全部だよ。
そして、
遙か遠くに

Dawson に開拓地があると聞いたよ。
そして、人々が出かけていく Tanana (Fairbanks) は
私が知っている頃にできた。
そんなに前のことではなかったよ、
それができたのはね。
そして、
彼らが Tanana で金を当てたとき、それは最後の金の発見だったが、
それを Talkeetna と呼んでいたと思うよ。
それは、私の生涯で起こったことでもあったよ。
Dawson で
そして、Circle で金を掘り当て、そして、その後で
彼らはその金の鉱脈を当てたのさ。
そして Dawson の
金の発見、その時から
私らは目にし始めたのさ

白人を。
 そして、
 Circle で金を掘り当ててから、蒸気船が使われ出したんだよ。
 それ以来、私らは多くの白人を見かけたのさ、いつでもということはないけどね。
 ここらに店ができたのは間もなくだよ。
 でも、私らは時々見たんだ、
 これよりも前に白人をね。
 彼らが、下流で金を発見したときが、
 白人が立ち寄り出したときだったのさ。
 その時、
 私らは本当に貧しかった。
 でも、私らは生き延びた。
 私らの家族が私らを世話してくれたし、持ち物もあったよ。
 でも、私らは本当に
 とても貧しかった、その時にね。

Alice : 昔の生活について話しているんだけど、彼らが当時どんな具合に小さな獲物を殺したか話して。

矢で、
 私らはムースでさえも矢でしとめたさ。
 おお、孫よ！それらの矢には
 鋭い矢じりが付いていた
 ナイフの幅ぐらいのね。
 そして、強い男が前肢の下のところに命中させた。
 そして、また兎用に
 彼らは作った
 小さな骨の付いた矢じりを。

それから
 夏には、
 矢が
 矢があった、
 幅の狭い、
 幅の狭い骨を使った矢じりの付いた矢、
 彼らはそんな矢を作っていた。
 彼らは矢の先端に並べてそれらをくっつけた。
 彼らは、それをかも用に使った。
 彼らが、飛んでるかもさえも射るなんて信じられる？

その当時はこれがよく使われていたよ。
 でも、今は私らは砲弾を使っている。
 それらの矢の先端は
 ナイフのようだった、
 それらはナイフと同じ大きさで、そして
 それらには
 端に鋸の歯のようなギザギザが付いていた。
 それを使って、
 私らはムースを殺したのさ。
 その頃には
 罠はなかったよ、
 でも、あったんだ、
 木の罠が、
 仕かけ罠が、
 それを人々はよく使ったもんだよ。
 彼らは木の罠を仕掛けた、
 罠を作るのに、
 彼らは並べて二本の丸太を置いた、
 彼らは並べて二本の丸太を置いた、
 そしてその奥のほうに餌を置いた。
 それから、彼らはもう一本の、こんな風にとがった棒切れを
 その上に置いた。
 その上に上下に広がった棒切れがあった、
 そして、こう延びる棒切れ、
 そして、その上にあった棒切れ、
 そこに、
 動物がやってきて
 餌をつかみ取ろうとしたとき、
 その動物の上に全てが落ちてくるのさ。
 そして、このようにして
 彼らは小さな獲物を罠によくかけたもんだよ。
 私の孫よ、ずっと前、
 彼らはこのように本当にとっても遅しく働いたもんさ、
 こんな具合に、でも、
 近ごろじゃ、人々はそんなに遅しくない、
 いいかね。
 本当に
 最初は
 ずっと初めはね、
 白人が
 私らのとこへやってきたときは、
 私らは白人からの援助が必要のようだった。
 そして、物はそんなに早くやってこなかったよ。

私らのいくらかは、まだ
今でも、貧しく暮らしているけど、

人々は私らに金を送り続けているよ！
そう、それで十分なのさ、私の孫よ。

4. 子どもの頃の旅

子どもの頃について語って欲しいと求められると、Belleは父親がいない一家がした困難な旅について語る。その時、母親は重い目の病を患っていたのだと言う。その時、Belleは11才か、12才だったらしい。彼女は、母親を母親の持つ杖の先端を握ることによって導き、もう一方の手で犬がひっぱるトボガンをごらつかないようにした。親類と夏を魚猟で過ごした家族は、Fort Yukonに行った。そこで、冬を過ごし、有名なCh'eeghalti'の最後の日々を看病した。Ch'eeghalti'は、Cwich'inの言い伝えではよく知られているカナダ出身の人物であった。彼の息子Roderickは彼をFort Yukonへ狩猟の旅に連れてきた。その年老いた人物の病気はカナダに戻ることを不可能にした。カナダでは、彼の一家の女性達によって看病されることができただろうに。Fort Yukonの人々は、彼が1900年以前に死亡したと記憶しているが、教会の1900年以前の記録はないので、正確には彼の亡くなった日はわからない。Roderickには、三人の娘がいた。そして、Belleが話題する彼の孫Richardとは、Richard Martinである。Ch'aadzahti'の息子とは、Gabriel Johnで、1960年に亡くなっていた。そして、私たちはCh'aadzahti'の亡くなった正確な日付を発見することができないでいる。Circle地方での最初の金の発見は1893年だった。

Alice：あなたが小さくておかあさんと一緒に暮ら
していた頃のことを語って、と彼が言っ
ています。

ええと
私の母さん
私の母さんは、私らを養い、私らはしなくちゃなら
ない雑用が少しだけあった
ほんの少しだけね。
私は母さんが失明したときのことを話すよ。
ええと
孫よ
私の母さんだけが私らの世話をしていた。
私には四人の
弟がいた、
そして、私自身、
そして、母さん、
私の兄さんと姉さんはどこかよそで暮らしていた。
そして、その当時
母さんの目は痛んでいた。
たとえそうでも、
私らは横切って行ったのさ
あっちの方へ、Fort Yukonからね。
さて、お前はその山並みを知っている、
Circleに伸びている。

そっちの方に、冬の間中…
その時は
彼らがCircleで金を発見したときだよ。
それから
村が始めてそこにできた、
その時に。
いずれにしろ、
Hot Springに行く途中に
そこに
私らがやってきた。
そして、Circleのどこでは、
人々が権利を主張しあっていた、
あそこで。
おお！
いたのさ
三人の子どもを —
四人の子どもを —
私が世話していたんだ、そして、母さんの世話もね。
私らは、たった二匹の犬しかもっていなかった。
それから
私は片手で母さんの杖をつかみ、もう一方でトボガ
ンをつかんでいた。
それから
私らは川を上ぼり、そして、
Yukonに着いたときに、私らの姉さんの家族が下

りてきていると聞いた。
 それで、私は彼らに会いに行き、彼らと一緒に下りてきたのさ。
 その時から、暖かくなっていき、
 母さんの目は、
 ちょっと良くなっていた。
 ああ、孫よ、
 そのころは、
 洪水があったんだ。
 辺り一面が洪水に見舞われ、
 大きな松さえ越すほど水が増えた。
 ほとんどすべて水の中さ。
 たった二つのボート、
 そして、そこに皆が群がった。
 そう、それから
 私らは下流に向かった。
 それから
 そこで
 Cicle の近くで、
 母さんは、
 私の叔父の William Pilot のかみさんと暮らした、
 そこで、魚猟をしながら、
 そして、私らはその辺りで暮らしていた。

その後で
 彼らの捕まえた魚を分けた
 魚は少なくなかった。
 その年の夏の間中そうしていた。
 それから、秋がやってきて
 暗くなってきた。
 暗くなったが、氷はまだはりださなかったよ。
 そして、母さんはかばの木の皮のカヌーしか持っていなかった。
 そして、お前は覚えているだろう
 あの Charlie Jonson を？
 彼の父さんはその時再婚したんだ。
 それから
 それらの人々は落ちぶれ出したのさ、
 そうらしいよ、
 彼のかみさんがまだ生きているうちにね。
 ええと、それからね、Fort Yukon の東、
 “17マイル”という所に — お前、聞いたことがあるね —
 そこに足を止めたんだ。

ぬかるみが川にもやってき始めた。
 さて
 母さんは一そうのかばの木の皮のカヌーを持っていた。
 そこで
 ちょうどそこに私の叔父は
 地下の隠し場を作ったよ。
 そうして、私らは魚と私らの他のちょっとの持ち物を持ってゆき、
 それらをそこに入れたのさ。
 それからボートを川に漕ぎ出した。

私らが Fort Yukon に着く前に暗くなった、
 たとえそうでも、私らは Fort Yukon の方へ向かった。
 ボートで川沿いに進みながら、
 私の叔父はちょっとしたボートを持っていた、
 ね、そうだろう。
 暗闇のなかで、Fort Yukon に私らは着いた。
 そして、私の兄さんは
 長いロープを取り出して
 それを棒切れに結びつけ、土手に投げた、でも、それは土手まで届かなかった。
 やっとのことで、彼らはそのロープをつかまえた。
 さて、
 その頃に、あれが起こったんだよ。 —
 Ch'eeghwalti' については聞いているね。
 彼らはその老人を連れてきていたらしいのさ。
 彼はとても良く知られていたよ、
 まじない師として、
 そして、彼の世話をするものは誰もいなかったんだ。
 それで、母さんが彼の世話をしたのさ。
 そして、また
 Roderick についても耳にしたことがあるかい？
 そう
 Richard
 彼らの父さん
 彼らの母さんの父さんが Roderick と呼ばれていたよ。
 ええと
 彼らは彼 (Ch'eeghwalti') を連れてきた、
 そして、その冬、彼は死んだ。
 その同じ冬に
 Gabriel がこの辺りに住んでいた。

誰かが彼の父さんを撃ったって、私らは聞いた、その冬、彼の父さんを誰かが撃ったとね。
それから
しばらくして
その冬が過ぎ去った。
春が通り過ぎ
6月
私は女になった。
さて
母さんの目は本当に悪くなっていた。
そして、それから

遙か下流から
老婆が
川を上ぼってやってきた。
そして、
彼女は母さんの目を治した、
そして、ついに彼女の目は良くなったようだ。
そういう理由で
彼女は年をとっても、目が良く見えていたのさ。
ああ！
今はこれで十分だ、孫よ。

5. Porcupine 地方での旅

この話の出来事は、Belleの結婚当初に起きたものに違いない。彼女は、自分の夫、それに夫の親類が住んでいた一連の場所を描写する。Fort Yukonから彼らはBlack川の上流に行き、そこで冬狩りをした。それから、彼らは下流に行き、おそらくはるばるFort Yukon迄下り、そこで、伝染病が広まっているのを目にしたことだろう。これは、1900年少し後で、その地方のとてもたくさんの子供達の命を奪い去った。ジフテリアの伝染病かもしれない。彼らは、Old Rampartに移動して、長い間そこに留まり、それから、初めてShuman Houseの上のPorcupineにあるJohn Herbertの住み家に移り、それからGraphiteへ移動した。彼らはShuman Houseを出たり入ったりし、それから、Chalkyitsikに移った。そこはJoe Herbertが学校や教会のある定住型の村をつくろうと努力して長になったところである。人々が学校や教会、また商いのための駐在地の利点を生かして定住し始めたとき、今日のアラスカの非常な奥地の村は人々の定住する中心地となったのである。

Alice : 彼らはあなたが大きくなる時のことについてもっと聞きたがっている。

それは、憶えていないよ。
私が孤児だったとき、
私は本当に貧しかった、
それだけさ。
さて
それは忘れてしまったから、そう、
私が本当に若かった頃の話をしてしよう。
年老いたときの冬については私は語っていないよ。
私は子どもだった、
それが、私が語ろうとしていることさ。
私が若かったその時
私が本当に若かったとき
それは今私がお前に語ろうとしていることだよ。
さて、私は話した、
三つの話をね。

でも、私が本当に若かった時のことについては、
さて、
私が子どもだった時のことは、
私は本当にそれを憶えていないんだよ。
それだから、
私が憶えている時のことから話そう。
私らは、ほら、あそこ、下の方（Fort Yukon）
に住んでいた、そして、そこから
Black川に旅したのさ。
全て人々は
上流に旅したんだ。
Black川の。
年寄りできえ。
そして、私らは冬の間中ずっとそこにいた。
冬の間中。
そして、
雪が解けたとき、ボートで下ったのさ。
私らが、ボートで下って、そして、

そこで降りた。
 孫よ、その時
 全部、
 人々は病気だったよ。
 全部の人々が病気だったけれども、
 子どもだけが死んでいった。
 そうだよ、孫よ、そこから行ったんだ、
 Old Rampart まで、
 そして、そこに住んだのさ、
 かなり長い間ね、
 私らはそこに住んだのさ。
 私らは、そこを離れて、そして、
 かなり下流の方
 それは John Herbert の住み家だった、
 そして、そこにいた
 長い間ね。

 それから、そこから
 私らは Graphite に移動した
 そして、私らはそこに住んだ、
 長い間。
 孫よ、それからそこから私らは上っていったんだ、
 カリブーの後を追って、
 私らは山でカリブーを狩猟したのさ。
 それから
 ついに
 私らはそこを離れて、そして
 Kaiiroondak (Shuman House) に行った。
 ああ！それから
 孫よ、私らは旅したんだ、
 あちこちを。
 その山のこちら側を越えて
 私らは辺りを歩いた、そして
 ついに到着した、
 白人の住んでいるところに、
 そして、遙か遠くにも
 もう一つ他の山があった、私らは歩いた、
 そこらを、またね。
 そう、それから
 私らは東に向かって、

それから
 ついに、孫よ
 私らは犬だけを使って
 全部やったのだよ。
 言っておくけどね、私らは多くの苦痛を味わったの
 さ。
 その時
 まだいなかった
 その辺りに白人は。
 それから
 私らは私らの住み家 (Shuman House) にいた。
 そして、ついにここにやってきた、
 人々が住んでいるところにね。
 学校はなかった、
 そして、教会もなかった。
 そう、それから
 私らはお互いに訪問し合い、ついに、
 新年がきた。
 それから、お前の祖父さんが言ったんだ、
 “造ろう
 ここに校舎を”
 それで
 私らが校舎を建てた後で
 その下の方に
 その片方の場所に
 彼は彼らにつくろうと言ったんだ
 庭をね。
 そう、彼らは言われたことをしたのさ。
 そして、その後で
 私らは学校の近くに住み始めたのさ、こんな風に
 できていったんだよ。
 そこには、庭もまたあるよ。
 時がたって、ついに出来上がった
 大きな校舎と大きな教会が
 並んで建っている。そして、お前の祖父さんのこと
 ば通り
 町がここにできたのさ。
 今、
 私が話していることが数年前のことなのだよ。

6. ムース狩り；病氣

この話はいくつかのエピソードから成っている。最初は, Belle が Shuman House で夫か義兄(弟)(何故か初めの叙述で“お前の義兄(弟)”と呼ばれている)と一緒にムース狩りをしたことについて話す。“6マイル”はその地域にあるいくつかの地名である。二つ目のエピソードでは, Belle が自分の猟について話す。その同年の後半, Joe Herbert は Fort Yukon に旅して肺炎にかかった。彼を診た医師は Grafton Burke だったらしい。その土地の医師 Colin Tsal (White Son の息子, 彼は Beaver で1920年に死亡)もまた彼を診察にやってきた。Belle は Shuman House に夫と戻った。Wards の助けをかりて, 彼を犬ぞりで Fort Yukon の病室に運ぶ手伝いをした。そして, 彼は治療を受け良くなった。Belle は William Loola の死(1961年6月)によってこのエピソードの年代を突き止めている。William Loola は彼女が“私のじい様”(尊敬のことは, 実のところは彼は彼女の父親の妹の息子だった)と呼んでいる人物だ。William Loola は長い間 Fort Yukon で牧師の助手をしていた。

むこうの Shuman House に
私は住んでいた,
そして, そこで
私は滞在し, 辺りをお前の義兄(弟)と一緒に旅したのさ。
それから
彼と私は狩りに出かけて行った。
そして, 彼はムースをしとめた,
彼はムースをしとめた。そして,
前方に, ずっと前からの隠し場があった。
それで, 彼はしとめたムースを切り
そして, そこで私らは野営をしたよ。
その次の朝
再び
一匹のムースがやってきて, それも彼はしとめた。
さあ, 二匹のムースだ。
ああ! 孫よ
彼がそれを細かく切ったので
私はそれを処理できたのさ。
それから, 私がそれを隠し場に入れている間,
彼もまた全部を入れた,
その肉を
そこにね。
それから
彼は投げた
私に向かって一本のロープを
そして, そのロープで私は肉をひっぱりあげたんだよ。
それで, 私らはそこに全部の肉を入れた。
それから帰途についた。
私らが家に着いたとき,

そのとき
彼の子どもがそこで生活していた,
6マイルと呼ばれた場所に,
彼は私を一人残していった。
彼は Fort Yukon に行ったのさ, ボートで。
おお! 孫よ
二日間が過ぎた頃
三匹のムースがそっちの茂みから出てきたんだよ。
ああ, 孫よ
私はちょっとカヌーを漕いで横切った —
私がカヌーを横切りながら漕いで行くと,
二, 三本のはひろはこ柳があった,
まばらに生えたね
ちょうど一塊になって
すぐそこに
ちょっとした運搬路があった。
それから
雄のムースが降りてきて
水の中に入って, 体をかがめて, 辺りを見下ろしたよ。
ムースはちょうどそこに立っていた
隠れて
そして, それからムースは歩き出した。
その間, 雌と子どもが私が最初に見たその場所にま
だいたよ。
そう, それから
私はもう一度, 運搬路ごしにそれをたたいた。
そして, 私はそこに座って, それを待った。
私はそれを見ることができた
前後に動くのを, そして, その背中が前後に動くの
をね。

ついに私はその背中をめがけて撃った。
 ムースは撃たれても、このように動いたんだ（手を動かす）。
 私にはもう一度撃つ時間がなかった。
 それは茂みの中に消えた。
 ああ、孫よ
 それから
 一日か、二日後に彼が帰ってきた。
 彼はそれが通った跡を調べて、撃たれているようだと言った。
 でも、夏だったので、それで
 私らはそれを追跡できなかった。
 その後で
 私らは戻って行ったよ。
 その秋
 ああ、孫よ、葉が落ちる頃、
 また、
 6 マイル辺が凍りついた頃、
 再び彼は私をそこへ連れて行った。
 Elen は私と一緒にだった。
 彼はちょうど隠し場を作っていた、
 砂の中に、そして、鉤で私らは釣りをして、
 もし魚が連れたなら、それを入れた。
 それから
 その次の朝
 彼は犬で Fort Yukon へ向かった、
 辺り一面が凍ってから。
 ああ、孫よ
 彼がそこに着いたとき、彼は風邪をひいてしまったんだよ。
 彼は自分がひどい風邪をひいていたことを知っていたけど、彼は戻り始めた。
 彼は実のところ
 肺炎だった。
 その頃
 Salmon 川の河口のところにちょうど
 白人が住んでいた、
 Mary Tsoo について聞いているかい？
 彼女は彼と結婚していて
 犬達は
 彼をそこに連れて行った、そうらしいのさ。
 それで、彼らは彼を中に入れてやり、彼の世話をしたんだよ、

そのニュースが駆け回り、
 私らのとこまで聞こえてきた、
 私はたまたまそれを聞いたんだよ。
 それで、それから
 私はそこに行った、
 その場所に、
 そして、私の義兄（弟）の Alexander 家の人々はそこにすんでいたのだが、
 その人々全員が
 私と一緒にやってきた。
 そこに住んでいる、
 いくらかの人々がいた
 緊張の事態だった。
 それから
 誰かが医者を呼びに行った。
 その次の朝
 私らは私の義兄（弟）が住んでいるところへ彼を連れていったんだ。
 とうとう医者が着いた。
 でも
 その薬は
 合わなかった、それで
 誰かが薬を求めて出かけて行った。
 ああ、孫よ
 私は本当に思ったんだよ、私の亭主は見込みがないんじゃないかとね。
 しかし、また一方では
 その医者が
 誰かに薬を取りにやってくれた。
 彼らは彼に薬を与え始めた、そして、こうしているうちに Colin Tsal が
 Ida の父さんだが、
 彼はちょっとしたまじない師だったよ。
 それで、私は彼と相談したんだよ、
 そして、彼は私に言ったんだ、“それが私がやってきた理由さ”
 私は彼が亭主に何かしたかどうかわからない。
 彼は本当に
 弱っていた、でも、回復した。
 それから
 彼の具合が良くなったとき、
 私の弟 Moses と私は
 彼をそこに連れ戻したのさ。
 でも、彼にとってはそれは大変なことだったよ。

それで、Joe Ward に
降りてきてもらおうとした。
Joe Ward に
ついに
彼に頼んだ、そして
彼と彼の妻は
彼と一緒にやってきた、私は亭主を運ぶことにして、
実行した、
私自身で彼を運んだ。
私は使った
五匹の犬を。
それから、孫よ、私の義兄（弟）と彼の妻だけが
私と一緒に旅した。
私が何もできなくなったときにはいつでも、彼は助
けてくれた。
こうしている間、私の息子は Fort Yukon で家を
修理していた。
ああ！
ついに私たちはそこに彼を下ろした、
そして、それから Loola が死んだ！
雪が解けていた時だった。

それから
医者の治療によって彼はついに良くなっていった。
それから
私のじい様も病気になった。
そして
雪が解けた後で、じい様が死んだよ。
この時には、私の亭主は良くなっていた。
後で、私らは家に帰ったよ。
ああ！
孫よ
たくさんの労働をした。
私は長い道程をかけて彼を運んだ。
白人と彼の妻が
私と一緒にだった、
私がこうしているときにね。
雪は足の上まで吹き積もっていて、
私にとって歩くのは大変なことだった。
それは難儀な仕事だった、
私自身の大仕事
それは私にとってとても難儀なこととなったのさ。

7. 昔の衣類

夏の服は、毛が付いていないカリブーの皮でできていた。そして、冬用の服には保温のために毛が残されていた。Belle が話題にしている足先の付いたズボンは彼女が若い頃には、流行遅れだったに違いない。ズボンもシャツもビーズで飾りが付けられていた(貿易商がやって来る前には、染めた山荒らし羽軸が付いた)。シャツの裾のところ全部にふさが付いていた。描写されている精巧に仕上げられた犬の引き具は、カナダから取り入れられたらしい。それらは、今日使われている、平べったい皮紐で作られた種類のものでなく、首の所でもり上がり、“警笛”の形に似たパッドの入った固い馬の首輪に似ていた。Belle がこの話を語ったとき、彼女は首輪についていたような小さな鈴を取り出して鳴らした。

私が若かった頃のずっと前の話をするよ。
男はイギリス風(カナダ風)の服を着ていたよ。
そして、男は
半ズボンをはいていた、
このくらいの長さの(手で示す)。
それらにはカリブーの皮の紐が付いていて
それで腰の辺りを縛っていたんだよ。
そして、それには飾りが付いていた、
ここのまわりにね(手で示す)、
ビーズでね。
そして、それらは呼ばれていた、

Ch'idreetaih thal, ズボンとね。
その時
鹿の皮の靴(モカシン)もまた
tth'aa と呼ばれる、一種の筋で縫われていた。
その種類は
編み込まれたものだった。
それら
彼らが履いていたものは
大型の冬用の鹿の靴だった。
そして、その上に彼らは着けた、
ズボンを(あるいはすね当てを)。

そして、一部の
 年寄り足先の付いた毛皮のズボンをはいた、
 そして、それらにはこのところにビーズが付いて
 いた。
 足首のところにビーズが付いていた、
 彼らが身につけていた足先の付いたズボンには。そ
 して、
 パーカー、あるいはシャツにもまた
 肩のところ全部にビーズが付いていたよ。
 そして、背中全面には
 ふさのへりが付いていた。
 そして、それから下の方にも
 このようにまたふさのへりが付いていた。
 そして、それに、彼らはまた
 先のとがったフードも付けていたのさ。
 そして、彼らがそれに帯を巻いた、
 幅ひろの編んだベルトで（カナダからはいつてき
 た）。
 犬達のために
 彼らは皮でできた引き具を作った。
 その引き具の首の革紐には
 上のところに小さな金属が付いていて、
 上のちょうどこのとこ
 そして、その上のとこに彼らは小さなより糸の玉を
 付けた。
 そして、そこに結んだ、
 たくさんのリボンね。
 彼らは四つの色を使っていて
 全部のリボンを結んだ、ちょうどそこに
 首の背の上のところに。
 そして、また
 引き具には
 だいたいこの大きさの
 おお！たくさんあった
 このような一本の横木があった、
 そして、首のまわりにね、
 小さな鈴があった。
 横木のところに小さな丸い鈴があった、
 ちょうどそのようにね。
 他のは
 首のまわりにあった。
 垂れ下がった毛布
 このくらいの長さの（手で示す）
 犬の毛布は

犬にかけられていた
 そして、より糸で飾りが付いていた、
 その縁全部に。
 それからビーズ
 も、また
 外側と内側に縫い付けられていた、そして
 しまいには犬の毛布
 古いタイプには
 ちょうど全面が輝くようになっていた、
 彼らはその全面にビーズをつけたのさ。
 そして
 その警笛にはたくさんのリボンが付いていたのさ。
 それで
 犬にそのような犬具を付けてやる時は、
 ちょうどじゃんじんと鳴ったのさ。
 本当に聞きものだった。
 そして、トボガン
 そのトボガンはハンドルの付いていないものだった。
 それには覆いの皮がなかった。
 彼らは煙でいぶし、なめしたムースの皮で袋を作っ
 て
 中にもものを入れたのさ。
 その上に彼らが使った毛布は
 注意深くたたみ込まれ、上に置かれた。
 そして、それから物を下にぶら下げた。
 トボガンの上で
 私らはロープでこのようにした、
 私らはこのようにした
 それを押さえつけるものはそれだけだった、
 それにはハンドルがなかったからね。
 皮のカバーがなかった。
 そして、彼らは犬を手助けした、
 犬に十分な力がないとき、棒で押してね。
 その頃、女達もまた
 ビーズの付いた皮のズボンをはいていた。
 私らは作った
 長い袋をね
 私が言ったように、いぶした皮からさ。
 ああ！
 孫よ
 犬の引き具でさえ煙でいぶされ、なめされた皮で
 できていたんだよ。

彼らは柔らかいいぶした皮からトボガンのカバーも作った、
 彼らはトボガンのカバーを作ったのさ。
 それは本当に
 大変な仕事だった、
 彼らが皮をなめすのはね、何度も言うけど、孫よ。
 私はそれについては語り尽くせないよ。
 ええと、女もまた
 大きな毛皮のズボンをはいていた、
 ビーズの付いたね、
 それらを彼女らは着ていたのさ。
 そして、彼女らはまた
 毛皮のパーカーも着ていたよ、
 このくらいの長さのね。
 毛皮のパーカーは
 ちょうどこのように作られていたんだよ、
 私が言ったようにね。
 それらはいつも同じだった。
 その裾の端のまわり全部が
 いぶした皮の縁だった。
 そして、この下のところにビーズがぶら下がって
 いて、
 そして、両側から、そして背中からぶら下がって
 いた。

そして、先のところに
 結びつけられたちょっとしたより糸が付いていた。
 時にはずっと下の方までと裾の回りに
 ビーズが付けられていた。
 この部分にも（手で示して）
 ビーズが縫い付けられていた。
 こんな具合にしてね。
 そして、この回りを
 千枚通しと
 そして、カリブーの皮で
 彼らは裾を縫った、そして、彼女らがカリブーの皮
 をひっぱりあげると
 ちょうど袋のようにして包み込んだのさ。
 ああ！孫よ、人々の服の着方はしばしばちょっと変
 わってた。
 夏でさえ
 彼らは皮のズボンをはいていたものさ。
 それらには足先が付いていた。
 手に入るもの以外には利用できるものがなかったの
 さ。
 そうだよ、孫よ、時代は
 とても厳しかったんだ、そして
 人々は奇妙に服を身に付けていた、こんな具合だっ
 たのさ。

8. 昔の生活

Belle は、かばの木の皮で覆われた差し掛け型の一時的なシェルターである、“木の皮の家”を話題にしている。“赤いテント”は、黄土で着色された旅行用のシェルターであった。“カナダの毛布”とはおそらく“ハドソン湾毛布”として知られている貿易による毛布であろう。

そう、いたのは
 カナダ人だった
 上流に
 Old Rampart の
 そして、一人の長だけがいたと思う。
 私はそれを一度見たんだ、
 私がとても小さかったとき、私は良く記憶していな
 い、
 私は辛うじてそれを憶えているだけさ。
 ああ！
 さて、それから
 夏には

何人かの人々は
 木の皮の家を作った
 自分達のために。
 その頃とても大変だった。
 時にはただ皮のテントの家があっただけさ。
 そして
 その皮のテントの家は赤く塗られていた。
 その頃はとても大変だった。
 そして、時々私らは“カナダの毛布”を目にした。
 時々、私らは夏の間でさえも毛皮の毛布を使った、
 毛の抜け落ちた服も。
 ええと、私は枕を見たことがなかったよ。

毛の抜けかけた、ただのカリブーの皮が
 そこここに毛が残っているのが
 おいてあった、それだけだよ。
 私らがもっていたわずかな服、
 私らは使っていた
 枕として、頭の下にあてて
 本当に
 貧しかった、
 そして、私はあまりよく憶えていないんだよ、
 私は本当にその当時のことをしらなかったんだよ。
 その当時に比べて、私らは今日とてもよい生活をして
 いるよ。
 私は
 それについて話すことさえ好まない
 とってもね、
 でも、私らの友達がここに
 長い道程を旅してきたのだから
 私はそれについて話すよ。
 人々は本当にそのとき多くの困難を受けていた。
 私らが小さな子どもだったころ、
 本当に
 とても貧しかった。
 私の父さんの親類が
 私らの面倒を見ていた。

母さんの親類は Fort Yukon に住んでいた、
 でも
 私らは彼らにそれほど面倒をかけなかったよ、
 母さんはひたすら私らを養うために働くだけだった、
 そして、やっと手に入れた
 私らのために2、3枚の服をね。
 それから
 私らはもっていた
 皮の毛布をね、
 彼女は皮を入手した、
 他の人々が皮を手に入れるところで
 だったのさ
 そして私らが着てたのがそれさ、私はそう思うよ。
 私らは兎の皮ももっていた。
 私らはその頃こんな風にしてたのさ。
 さて
 近ごろじゃ
 私らはそんな身寄りのないものを見たことがない。
 もう決してない、
 私らが再び貧乏になるなんて事はね、だって、人々
 はこの辺りにいる私らを福祉というもので面倒見て
 くれてるからね、
 だから、私らは何も不足してないよ。
 でも、昔はね、私らはとても貧しかったのさ。

9. 旅行；結婚；悲劇

この話の中の出来事は、1910年から1920年の間に起こった。Ward 夫妻は1914年1月に結婚し、Sam Herbert は1919年6月にJenny と結婚した。最初のエピソードは Graphite Point の北にある山で起こったことらしい。“新年の射撃”は祝賀行事の一つのライフルを発射する古い習慣に触れている。話題になっている Paul Herbert は Belle の夫の甥だった。Nena Peterson で、その人の Gwich'in 族の名は“chickadee (アメリカコガラ)”を意味する。最後のエピソードで語られている子どもと白人の死は確認がとれていない。

あるとき
 また
 私らはそこに上って行った
 そして、Joe Ward は私らと一緒にだった。
 ああ！孫よ
 ちょうど
 クリスマス前だった
 そのときは。
 私らはクリスマス付近に上って行った、そして、
 その山で新年を過ごした。

ああ！
 孫よ
 たくさんのカリブーがいた、そして彼らはただ撃ち
 続けていた。
 元旦には、彼らは銃を撃つのを止めて過ごしたもん
 さ、
 とてもたくさんの
 カリブーがそこにいたから。
 ええと、孫よ、それから
 その冬

私の義理の娘が下流からやってきた。
それは“偉大な伝道者”と呼ばれた Jenny のため
だった。
そのとき
そこで
元旦に
彼らはたくさんのカリブーを殺した。
ちょうど Ellen と私がそこに上っていた。
…いつも、彼らはそれらのカリブーを野営場へ運び
続けていた。
私はそれらを切り裂いた
ぜんぶ
そして、
私は骨を打ち砕いて獣脂を作った。
それから
私はカリブーの皮をきれいにした、
そして、その場所は白いカリブーの皮で一杯になっ
た
それに雪靴用の紐で。
そのとき
えーと
私は Charly Crow の一番小さな娘を育てていた。
彼女は
Noah の母さんだった、
彼らは彼女を
私に育てさせた、彼女が小さかったときにね。
育てたのは私さ。
でも、Ellen は自分で暮らしていたよ。
それから、孫よ、全員が
Fort Yukon に降りて行った。
山には私ら以外は住んでいなかった。
それから
ついに
私らはすぐそばで銃の音を聞いた。
それから
私らはそっちの真下で銃の音を聞いた。
こうしている間に
私は病気になってしまった。
私が病気だったとき
私らだけだった、
私は病気になった。
ああ！孫よ
とうとう
夜が明けてしまったらしい。ついに私らは銃の音を

聞いた。
ついに、その朝早く
私らの野営地に
やってきた
Paul Herbert,
John Herbert の息子が
そして
むこうから
Nena Ch'idzigaak が。
それから
しばらくの間、彼らは私らと一緒にいた。
それから、彼らは Fort Yukon へ旅立ち、そして、
残していった、
私の育てていたその子、そして、私を
あそこに、その山に
彼らが全員離れていった時に。
とうとう
彼らが Fort Yukon から帰ってきた、それは
昼間は暖かくなり出した頃だった。
それはとても悪いことだった。
それから
その後で
Ellen と私は
その山を歩き回り始めた。
そして
たくさんのカリブーがいた。
そいつらはすぐ近くさえ歩いていた。
それで、私は四匹のカリブーを撃った。
ええと、それから
私はその頭を引き裂いて
あらば骨を半乾きにして
そして、骨の髄の獣脂を作った、
また、骨の髄は
私だけが準備をした、そして
たくさん食べ物があった。
それら全部を
私らは山から下ろした。
そのような物を
私らは全部下ろした
Fort Yukon へ。
そして、そこで
私らはインディアンアイスクリームさえ作った。
ああ！孫よ
そのとき

Ellen は
 私らから離れていき、
 そして
 Ellen は
 ひどい病気にかかっていた。
 ああ！孫よ
 彼女は明らかに、月経があったのだ。
 私らが旅している間
 彼女は雪の固まりの間にたおれ、そして、出血し始めた。
 それで私らはやっと
 彼女を連れて行った
 村まで。
 しかしながら
 彼女は治った。
 ああ！孫よ
 彼女は本当に哀れな姿になった。
 それから、その後で
 私らはポトラッチ〔贈答の儀式〕をひらいて、
 そして、そこにとどまった、
 かなり長い間ね。
 こうしている間に私の息子は Circle に行ってしまった、
 そして
 彼は Jenny と結婚するつもりだったようだ、
 そして、私らが入ってくるというのを聞いて、
 彼は Circle に出発した。
 その娘は
 明らかに
 もう一度結婚したがっていた。
 それで
 彼女は私の息子を追った。
 でも、John Horbert の息子
 Paul Herbert はその考えを好んでいなかった。
 彼は私らが到着するのを我慢強く待っていたよ。
 ついに
 彼は下りてきた、
 そして、玉突き場の家に泊まりにいった。
 それで、私は彼に会いにいった、
 そして、彼は私と家に帰ってきた。
 そのとき、本当に
 私は、みなし児を排除したいとは思っていなかったよ。それが理由さ。
 私らが彼だけを残していったね。

後で彼女は私の世話を本当によくしてくれたよ。
 孫よ、
 私の義理の娘は本当によく私の世話をしてくれた。
 もし、彼女が一人だったら、彼女は気にならなかったさ。
 さて
 彼女は下流地域の言語 (koyukon) だけで話していた、そして、時々彼らは彼女に英語で話しかけた。
 彼女は私らを理解できるようになった、
 たった一冬で彼女は私らを理解できていた。
 もしかしたら
 彼女は前からそうだったのかもしれない。
 それで、私らは安心できた。
 ついに Joe Ward と Ellen が結婚するときにやってきた。
 最終的に
 Ellen は
 また
 白人とも結婚したのさ。
 そう、そのとき二つの大きな村はそんなに離れていなかった、
 そして、私らはいつでもみんなで一緒に Shuman House で過ごしていたよ。
 その当時
 それはちょうど一つの大きな村のようだったね。
 ええと
 私はあそこが今どんな具合か知りたいよ。
 それは彼らの両方に起きたのさ。
 怪我をしたんだよ。
 それから私の義兄 (弟) の
 私の子ども —
 それは、彼の子ども、彼の息子が
 死んだ、
 彼はひどい病気になって、私らは彼を真夜中にすぐ下ろした、私らは彼に何も言う時間がなかった。
 それから、孫よ
 そのとき
 月曜日の
 夕方
 彼はラジオを聞くために座っていた、そして、それについて聞いた、
 彼らはそれについて話しをしていた。
 下に住んでいた私らは聞いた
 私らの孫が

生き延びていないということ。
その白人は、本当に悲嘆にくれていた、ということだよ。
そして、そのような中で、彼はちょうど彼の仕掛けたわなのところへ戻って行った。
そして彼はわなを見に戻って行った、そして、雪の吹きだまりを下りていき、彼は腰の回りに犬の鎖を付けていたんだ、と私は考えるよ。
それで犬達は彼をひっぱったんだ
その吹きだまりの中を
犬は吹きだまりの中をひっぱって、そして

彼はすぐに死んでしまった。
その夜、誰かがそのニュースを彼に伝えるために下りてきた。
それから、彼を迎えに飛行機が来た、でも
その鎖は腰の所で彼を切っていた、彼は白人だった
それであれだけ生きられた。
一日中彼らは彼を手術していた
…でも
ついに
そのとき…彼の生命ははるか彼方に行ってしまったよ。

10. Porcupine への旅

Belle は彼女の家族について描写する。彼女には四人の兄弟（Robert あるいは Chief Robert, Erick, Moses, そして, William）と、そのときにはすでに結婚していた姉（Eliza）がいた。彼女の父親は Belle が小さかった頃亡くなったが、カナダ生まれの Loola 家と結婚によって関連づけられた。Belle の父親の死後、一家は Teetsik の彼の親類の近くに移った。Belle は、William Loola が Charley Crow をどのように治療したかを憶えている。Charley Crow と名づけられた人が少なくとも二人はいる。一人は1947年に亡くなっていて、100才を越えていたというので、これは同じ人だったのかもしれない。一家は Teetsik でその冬を過ごして、それから Tl'ookat（地図参照）へボートで旅した。彼らはさらに遠くの下流へ旅した。Belle は、New Rampart に開拓地はなかったと記憶しているが、Salmon Trout 川の河口の Old Rampart のところには一つあった。ここからエピソードの日付として Hudson's Bay Company が Fort Yukon から Old Rampart へ移った1869年から、Old Rampart から New Rampart, あるいはその境にある Rampart House へ移った1889年の間が考えられる。Old Rampart でしばし過ごした後で、一家は Chandalar 地方、即ち Neets'aii へ行った。それについては21章でもっと述べられている。

私の父さんでさえも死んだ。
これが
私で、
そして、私のすぐ下は弟だった、
その子は父さんが死んだとき生まれたんだ。
私の前にはたった一人の子どもがいた、父さんが死んだとき、私はとても小さかったからそれを知ることさえなかったよ。
父さんは Circle で死んだ。
それで私らはそこから下りて
そして、定住したのさ、ここに。
そのとき、父さんの姉さんがまだ生きていて、
そして、彼女には、
二人の女の子と二人の男の子がいた。

ところで父さんの姉さんは
Loola 家の一員だった。
彼らは父さんの親戚だったよ。
その当時
そのとき
彼らはそれらの人々を Kheezhii と呼んでいた。
その理由によって、私の叔父達は
母さんをこちらに行かせた。
そして、そこから
私らは山へ旅したんだ。
私がとても
小さかった
そのときは、
後になって

私はそれについて話したんだ、そしたら Vasdik が“あなたはどのくらい小さかったの？そのとき”と尋ねたんだよ。
 私はお前にそのずっと前のことについて話しているんだよ。
 それから私らは上って行った、Teetsik に
 上の方に
 Ni'inlii と呼ばれる場所があって、そこに Charley Crow が暮らしていたのさ。
 互いに向き合った二つの芝の家があった、そして、一方に伝道者 Loola が住んでいた。
 そして彼自身はもう一つの芝の家に住んでいた、それは彼が気がふれたころのことだったよ。
 彼は気がふれた。
 彼がそのようになった最初の頃に彼を私は見たよ、私が彼を見たのはその一回きりのことだった。
 私は完全に自分一人きりで暮らしているときの彼を目にしたことはなかった。
 孫よ、伝道者 Loola は彼のために祈願したが何もよいことはもたらされなかった。
 とうとう彼は
 彼のために何か
 叫びながら祈願して
 そしてそれで
 彼はついに
 よくなって、ふたたび元に戻ったように見えた。
 彼がそんな状態のとき私はそこにいた、でも、母さんは、私らをそこにいかせようとしなかった。

私はその最初のときだけ彼を目にしたのさ。
 そこから私らは移動して
 そこで冬を過ごした。
 私らはそこにその冬の間中いた。ついに、その上流で雪が解け出した頃、それから
 私らは川の方へ行き始めたのさ。
 そして
 私らがムースを殺したときにはいつでもその皮をとっておいて、
 それで私らは皮のボートを作る事ができたんだよ。
 それから
 私らは川へ下りて行った、

雪解けを待ちながら、そこでその春を過ごすためにね。

その間、彼らはボートのカバーを縫った、ボートのカバー用に。
 彼らは作った
 その骨組みを、そして
 それをその皮で覆った。
 彼らは上の縁の回りにそれを結びつけたよ。
 そのようにしたんだ
 私がそんなに大きくなっていないときのことだよ。
 それから彼らはボートで下って行った、
 ちょうど
 Tloo kat と呼ばれる場所へね、
 そして、そこにはたくさんの人々がいた。
 彼らはたくさんのカリブーを殺していたよ。
 丸い家があり
 それら全部につきがあたりっていた。
 Tloo kat と呼ばれる場所は、Old Crow を過ぎた所にある。
 そこから私らは下流へ移動した、
 でも当時 Old Crow はまだ築き上げられていなかった。
 そこから彼らは下り続けて
 New Rampart と呼ばれるところに着いた、
 そのときそこには村はなかったよ。
 そして
 彼らが Old Rampart と呼ぶところに
 その当時すでに村があったよ。
 たくさんの人々がそこにいた、
 伝道者、長、彼ら全部が
 そこにいた。
 それから、そこで
 母さん
 決めた
 その秋を過ごそうと、そして
 私の兄さんの Robert は
 まだ私らと暮らしていたし
 Erick もそうだった。
 後ほど
 彼らはついに私らから去って行った。
 彼らが大きくなったとき、彼らは私らから去った。
 私が今話しているその当時は、私は小さかったけどそれをよく憶えているよ。
 その後

時がたって
 私らは移動した
 向こうにね。
 他の場所にね。
 そこでまた
 私は男を見た
 前に Lindee'aahti' と彼らが呼んでいた男だかね。
 母さんは彼に私の小さな弟を与えたのさ。
 それから私らは離れて行った、
 弟はたいそう泣いていた。

私らは与えたんだよ
 その子どもを
 かって私のじい様にね、
 でも、彼はその子を母さんにかえしたんだよ。
 それから、そこから
 私らは先へ進んで、他のところにとどまって
 そして、またこの場所、ここにとどまったよ。
 私らは本当に決してこの場所から離れていたことは
 なかった。

11. Graphite 周辺の旅；まじない師の治療

この説明は、おそらく Graphite Point の北でのことになるであろう。冬にわなを仕掛けに行った時、Belle と彼女の家族は天然の石油の鉱床を発見した。Belle はこの話に Arctic 村の Anaazhrii (Gwich'in の訳では "Henry") と名づけられた人の死によって日付を与えている。少なくともその当時この辺りにはこの名前の方が二人いて、そのうちの一人は Elijah Henry の父親である。その冬、Belle は病気になって、Roderick、即ち Ch'eeghwalti' (14章参照) の息子の治療を受けた。Joe Herbert の兄弟である John は Roderick の娘と結婚したので、Belle はその結婚によって Roderick と親戚になった。彼女が Roderick と彼の妻のために用いた親族名称は尊敬語で shee'ii "私の父の兄弟"、そして、shitsuu "私のばあ様" である。

Gwich'in のまじない師は夢の中に出てくる霊的援助者から力を得ている。故に、vah di'ii "彼は夢をみる"(すなわち霊の援助者) という表現がある。gininlyaa という言葉は特にまじない師の夢を指している。普通はこれらの霊は動物か鳥であった。明らかに Roderick の援助者はまるはなばちであった。多くのまじない師は危害を加えることのできる力のために恐れられていたけれども、Roderick は人々を助けることだけに興味を抱いていたように思われる。

その冬、私らは奥地へ行った。
 そこに
 その山のもう一方の側に
 あったんだ
 小さな湖が、そして、そのそばに
 家があった。

それから
 お前の父さんの兄さん(弟)、
 John Herbert の
 息子
 Paul Herbert,
 お前の叔父があそこに住んでいた、
 そして、そこに
 彼らは道を作っていたよ。

そこに

彼らは道を作った、
 そして、彼はわなを仕掛けたんだよ、
 そして、私は彼と一緒にいった。
 そして、私が話していたその湖
 そこには
 雪がかぶっていた、
 そして、私らは料理をするのにその雪を手を取った
 のさ。
 それから
 それらはただ汚かったよ、
 石炭オイルのように
 それで
 私らは
 それを投げ捨てて、さらに取ってみたが
 それを溶かしたときには
 また、ただ同じようになるだけだったよ。
 その湖は

ちょうど石炭オイルのようだった。
 それで
 私らは他の場所から雪を取った。
 それから
 その奥地から
 私らはあちこち進み続けた、
 そして、とうとう私らは降りて行った、そう思うよ
 私の息子も
 そしてまた
 その義理の兄さんも。
 あそこに
 その山のもう一方の側に
 本当に大きな山
 私らが行ったその山のもう一方の側に。でも、ひどくもやがたちこめていた、
 それで私らは自分のまわりさえ見ることができな
 かった。
 とうとう私らは離れてしまったよ。

それから
 私らは下り始めた、そして
 そのニュースが広まった。
 それで保安官
 そして私の弟 Paul が
 あそこに上がった。
 冬が去った、
 ああ！

それから
 雪が解け、
 その後で
 保安官がそれを見に行った、
 でも、彼は調査したが無駄だった。
 彼はそれはその土地からしみだしてきたにちがいない
 と言った、
 その石炭オイルは。
 孫よ、そこは石炭オイルの発見が期待されると、彼
 らが話している場所だったらしいよ。
 それから
 人々はそれを発見しようとしたんだよ、
 それが、私の言っていることなのさ。

そのとき
 えーと

保安官だけが一人でそこに行った。
 Paul Solomon が彼と一緒にやってきた。
 彼らが戻ってきたとき、
 彼らは言ったんだよ、
 それはそのあたり一面にあるとね、
 そう彼は言ったのさ。

そのとき
 夏が終わった。
 もし彼らがそれを夏の時期に見たのであれば状況は
 良かったのだが
 でも
 彼らがそうしたときには、夏は終わっていた。
 それからその秋に
 それは狩りの
 季節、
 それから
 狩りの季節がやってきたとき
 それはまだ夏だった、でも、たとえそうでも私らは
 徒歩で戻った。
 そして、私の息子は私らと一緒にいった。
 彼は私らと一緒に行って、
 私らはまっすぐに旅をした、
 家のほうに。
 そして、こちら側に
 Joe Ward の路にあたった。

それから
 そこから私らははるか奥地へ旅立った。
 それから
 私らはある場所へ接近した。
 そこに
 ちっちゃな小川が流れ下り、そして私らは暗闇の中
 を通り過ぎた。
 ああ！孫よ、
 それから
 私らが野営をしようとしていたそのときに、
 見たのさ、
 雄と雌のムースが交尾しているのを。

ああ！私らは二匹の強力な犬を連れていた、
 そして、私は片手に一匹ずつつかんだ、
 彼らがこのようにしていたときに（ジェスチャーで
 示す）。

ああ！彼らは撃った、
そして、彼らは撃った、昔ちょうど信号を発したよ
うに、
大きな音をたててね。
一方、犬達は
すぐに私の足を引きずった、
でも、私は絶対に彼らを行かせなかった。
こうしている間に暗くなった。
ああ！
私らはすぐに近くさ見えなくなった。
長い時間が過ぎて、私の息子が帰ってきたよ。

でも
あまりに暗くて、彼らは見つけそこなった。
それで
彼は父さんのところへ戻り、
私らは野営した。
彼は再び離れて行った、
彼が石炭オイルの場所をもし発見できたらと、
あそこに
Graphite の後ろに大きな湖があった、
その山の尾根を下ったところにね。
その湖の末端のところに
路が上がってきている。
そして
私らがそこにいたとき、お前のじい様は、
私が彼らと離れないようだとおっしゃった、
それでね、じい様は本当に忙しくなったんだよ。
彼はちょうど決心したのさ、
私らが遠くに行くのは無駄だとね。
それで、彼は私らに戻したんだよ。
それから私らは前に話したその大きな湖に戻って
行った、
そして、その末端に
私らは休息をとりにきた。
私らはその岸辺をまわった、
そして、とうとう
Graphite を過ぎて
その方角に
その方角に
斜面を上った所に
小丘があり、そしてそこでお前のじい様は立ち止
まった。
彼はすぐそこで野営した。

ああ！
さて、長いぬかるみが
その川に沿ってある、
そしてそのぬかるみは
彼らが……と呼ぶ（聞き取り不能）丘に続いていた
そして、そこに
私らがその川のそばに出てきたよ。

それから
暗くなっていたので
私らはそこで野営した。
ああ！
雪が本当に激しく降っていた、
そしてその雪はぬかるんでいた
それにもかかわらず
私らは持ち物の用意をして
料理して、それから去ったんだ。
私らは川にそって歩いていた
そして彼は先頭を歩き、そして
ついに彼は我々の家が見えるところに出てきた。
それから、私らが着いたのは広大な草地だったよ、
そして上って行った、
私らの家へね。

ああ！孫よ
私らは家に着いた、そして
これが私の憶えていること全部だよ。

その後で
Joe ward と私の息子は大型のボートを川に下ろし
た。
彼らは医者のところへ行った、
でも
彼は“友達に会いたい”と言った。
それで、私のじい様は
それから
私をボートに乗せた。
彼は冬の間中家から離れたところにいた。
ああ！孫よ、私は長い道程を歩いた。
南のほうへ
彼は私を連れて、それから Yukon にも
カリブー狩りに行ったよ。
彼は私の兄さん Esaias と彼の身内と一緒にいった。
ああ！孫よ、彼はたくさんのカリブーを殺したんだ。

そして
そこに私は台状の隠し場を持っていた。
そこはカリブーだけで一杯だったよ。
彼はそこにそれを入れて、その後で家へいったんだ。
それから、彼は戻って行ったのさ。
それから
Esau Williams は私の世話をしていた、
そして、John Fredson, 彼を知っているね、
彼は二人に私の世話をするように言った。
こうしている間に私の息子は軍人になった、
彼はそのときにはかなり大きかったよ。
その当時
それから
Arctic 村の周辺に Anaazhrii と呼ばれた男がいた、
聞いたことがあるね。
その頃
彼は死んだよ。

ああ！孫よ
ついに
私は冬の間中そこにいたよ、
暖くなるまで、その当時私はこのようにしていた
のさ。

おやまあ
お前は Roderick について聞いていたんだ、彼は本
当に偉大なまじない師だったよ。
彼はすごいまじない師だったよ。
そして、彼の妻は私らの下流のところにいた、
彼らは彼女を Mary Tsoo と呼んだ、そうだろ、彼
女は白人と結婚していて、彼女は私らの下流のこ
所に住んでいたよ。

Roderick の妻は彼と別れていたらしい。
そして、ちょうどクリスマスの前に
戻ってきたんだ。
さて
William Salmon をお前は知っているね、彼は私
の兄さんさ。
彼の姉さんは Eliza
お前は彼女も知っている、
彼女は Roderick と一緒にいた。
私のばあ様が戻ってきたとき

私はあまり彼女に良い顔をしていなかったと思うの
さ。
私は沈んでいた
私はそう思うよ
彼女が着いたときにはね。
私のばあ様が
戻ってきたとき
私のばあ様が
戻ってきて、それから彼女は私の姉さんと私に会い
にやってきたんだ。
彼らは私を訪ねて
“孫よ
私らと戻ろう” と私に彼女は言った。
彼女は明らかに彼女の夫と私について話していた
よ。

それから
私らは本当に不十分ながらも、とにかく上った。

それから
私は叔父の家に着いた。
彼らは私の叔父のところに連れていった。
彼らは私に彼が私を説得するつもりだと知らせた。
途中で
あそこで
私らが半分ぐらい行ったとき
“孫よ
お前の母さんの兄さん（弟）が
お前の母さんの兄さん（弟）がお前を治療するよ”
彼女は私に言った。
ところで、私はその考えが好きでなかった。
私は好きでなかったけれども
私は彼らと一緒にいった。

それから
私は彼のところにやってきた。
“彼のところにおいき” 彼らが私に言って、そして私
はそうした。

それから
彼は話しさえしなかった。

そのとき
“私の叔父よ

あなたはキリスト教徒
そして、私もそうだ。
もし、あなたが本当に心から私を治療してくれるつ
もりなら、そうして”
私は彼に言った。
“わかった”
彼は言った。

それから
私はただ
彼が歌うだろうと考えた、
そして私に何かするだろうと考えた。
でも彼は私に言った。
“私は夢をもっている、でも私は悪いことをしてい
るのではない
父さんには、悪いことをした”と彼は言った。
“さて、とても良い夢をもっている人はそれだけ偉
大だ、そうなのさ”
まるであたかも彼自身がそうであるように話した。

それから
私は帰って行った、
自分の家に、そして
しばらくの間起きていてから
眠りにおちた。
子どもはすでに眠っていた
こうしている間に
私は音を聞いた、
大きなまはなばちのね、
私はまはなばちの音を聞いた、そして
私はあたりでそのブーンという音を聞いた。

孫よ、すばらしい幻想が私の前に展開した。
すぐ外で私は大きな男を見た。
まはなばちの姿をした、
彼の全てがそっくりだった。
彼はそれで存在を示していたようだった。
ああ！
彼は手で自分のちかくの何かをつかんだ、そして、
そこですぐ彼は外に出て行った。

それから
それから
私は眠った。

彼は次の朝早く私に戻ってくるように言っていた。
たとえ私が病気だったとしても、私は彼のところへ早
く戻って行ったさ。
そして、私のばあ様と私の姉さんがそこに座ってい
た。
それから次に
“お前は何か見つけたかい？”
彼はただ私にそう言った。
“私は寝ようとしていたとき、
物音がした
大きなまはなばちの。
そのとき、それはすぐ大きな男になり、彼は自分自
身をまはなばちの姿にしていたよ、
彼は手で何かにつかまっていた、私はそれが何だか
わからない、そしてそれから彼は外へ出て行った”
と私は語った。

“ほう！
お前はまじない師にちがいない”と彼は私に言った
それで
私は治療してきた
たくさんの偉大なまじない師をね、でも
彼らはそれについて何も見つけられなかった、なの
にお前は見つけた”
このように彼は私に言った。
孫よ
私は本当に
たくさんの苦しみを持っていた。
でも、その時から
主キリストの力が私に宿った。
私が分娩中に私の腸と子宮がつながって
それで子どもが私をひどく傷つけた、
このように医者達は言った、
そして、それで私はとてもひどい痛みの中にいたの
さ。
でも、彼に治療を受けて以来、何も
私を悩ますものはないよ。
私の叔父はとても
貧しい、でも
力が彼にはあるよ
男が彼のところへ歩いてきたとき、彼はただ
彼を上から下へ見た、笑いながら。
そして、彼がそうしたとき、彼らは言うのさ、彼は
失神するだろうと。

ああ！孫よ、本当に
冬の間中
私は不幸だった、
でも
叔父が私の治療をした、
そして、少し暖かくなったとき
彼は私を家に戻した。
そして、ちょうど今の私のように
たとえ医者に治療を受けなかったとしても、私はこの通りさ、
私は良くなった、そして私は今この通り元気だよ。
主キリスが私を助けた、そしてまた私の叔父が私を
そのように治療したのさ。
そうさ私のばあ様のおかげで

私はまだ生きている、彼女は彼女の叔父の家族の苦しみを見たくなかったんだよ。
ああ！
私は本当に、
醜かった、でも
私のばあ様は私を行かせてくれなかった。
そう、孫よ、私はいつも一人で働いていたよ。
私は沢山の苦痛を受けてきた、でも、私は本当によく憶えていないんだよ、でも、私たちの友達は私にその話をするように言った。
さて
それで終わりだよ。
私が語るつもりのことは。

12. 葬式の風習

Belle は伝道者がやってくる以前の死者の扱われ方についていくつか話す。彼女の青年期には明らかに広まっていたその高架の葬式の習慣は、斧が手に入るようになった後に行われだした(Mckennan1965: 60)。彼女が描写する棺は生皮でしばりつけられた割った丸太からできていて、柱で支えられていた。彼女はこの方式では死者と一緒にビーズが埋蔵されると描写している。葬式の供え物を盗むことの脅威を語ったアラスカの異なった地域でのたくさん話があるので、明らかにそのような葬式がなされたところではどこでも子どもにとって誘惑となっていた。Belle は高架の葬式の後に、そして土葬以前に火葬が始まったという。Mckennan と Osgood によると火葬は希な習慣で死亡に対する尊敬の印であった。考古学者が発見しているように、高架の葬式以前でさえも実際土葬が Gwich'in 地方では習慣化されていた。しかし、古代では死者は棺に埋葬されていなかった。

Belle は近代の葬式の形式は彼女が生まれたあたりから始まったように言う。そして Charley Crow の母親がキリスト教の葬式によって初めて埋葬されたと言う。Charley Crow は1859年あたりに生まれたにちがいない。同じ頃、伝道者は人々の極端な悲嘆の表現を思いとどめようとしだした。それはおそらくキリスト教の信条では死者はより良い存在となり、人々はその死を受け入れるべきだと教えるからである。伝道者が彼ら自身の文化とかけ離れていると考えるような悲嘆の見せびらかしやポトラッチなどといった多くの伝統的、土着の社会的形式はこのように思い止まらされた。

彼らは棺を作った
ここで
このようにして。

ええと
ここが底だ
そして、ここに
棒が立つ
四本の棒があって、角に一本ずつあった。

それから、彼らはそれを一緒に縛って
合わさった所で
彼らはロープでくくりつけた、
私は考える、他に何か
彼らが見えるものはあったのか、と。

さて
彼らはそこでそのように棺を作った、
その方法で
そこにまだ水がなかったときにね、

私の生きている時にね。
彼らは皮のロープを使ったよ。
彼らはカリブーの4つの縄を手に入れて
それらを組んだ。
時には5つ
あるいは時には6つ
彼らが組みたがる幅の広さよったのさ。
そうやって
彼らは横木に縛りつけたんだよ。
わたして
棺の横木の両端を
長い紐でくくり、それで
彼らは棺を吊るすことができたのさ、
高いところに。
それはあそこにあった
川の向こう側のかなり遠くにね、
私の生涯ではだよ。

そして明らかに
土に埋めるものもあったよ。
上部と
その中はビーズで半分埋まっていた。

それらの
細い
根
土手から下にぶら下がった —
私らが子どものとき、それを手にいれて
ビーズで紐を作って
両親にあげたのさ。
そして彼らはそれらを川の中に投げ入れた、
それが私がその種を棺を見たときだった。
そして、後に
彼らは死体を焼いた、
まだ彼らはそれらを埋めてはいなかった
土の中に。
これが私の知っている全てだよ。
彼らは知らなかったんだ
墓の掘り方や、その中にどんなように亡骸を置くか
ね、
そんな訳で彼らはこうしていたのさ。
ちょうど私が生まれる前は
彼らはそのようにしていたのさ。
私の孫の Esau William

そら
彼の母さんは
Shitsiindaa と名づけられた。
そして彼の母さんが
生きていた、そして彼女が死んだとき
彼らは土の中に埋葬し始めたんだよ。
彼の母さんの母さんはそこにいたよ
彼の母さんが死んだ時に、
彼の母さんの母さんは Ch'ighik Gwadhaa と名づ
けられた。
彼女が死ぬ前に
Charley Crow の母さんが死んだよ、
そして、彼らは彼女のために葬式をした、それまで
彼らがしたことのない葬式をね。
そのときから彼らは人々を埋葬したんだよ。

さて
彼のばあ様は
彼らが彼の母さんを埋めたとき、生きていた、
Esau
Williams は
とても長生きをしている
そうなんだよ。

孫よ、それから
彼らは大きな火を起こして
彼の髪を燃やした
そして、人々はその火の中に入って行ったよ。
彼らはその火の後ろでつかみ合っていた、
それはあたかも彼らがけんかしているようだったの
さ。

伝道者たちは
彼らがそうするのを妨げ、そして彼らはやめた。
人々がそうすることは本当は苦痛だと彼らは言っ
ている。

そこでは
Old Crow では
彼らはそうしていたと私は思うよ。
お前の叔父の Charley
知っているね、
彼の母さんは葬式をして

土に埋められたのさ。
 そんなにずっと前ではなくて
 Esau の
 お母さんの
 娘
 私の叔母の Fannie, 憶えてるね,
 彼女が小さかったとき私が話した老婆
 Ch'ighik Gwadhaa がいた。
 Charley Crow の母さんの母さんは私が話してい
 るうちの一人だよ。

彼女は
 死んだ
 そして、彼らは彼女を埋葬した
 そして、彼女に別れの言葉を述べた。

それから
 また
 Fannie も
 老婆の
 一番上の娘も葬式をして埋葬された
 その同じ場所にね、そして
 それから
 ずっと前にまた
 Shahnyaati' の妹,
 彼女の
 息子は結婚した
 私の叔母の Fannie とね。

さて
 彼の名前は William Ch'atthaiindee だった。
 彼の妹が死んだ,
 そして彼らは彼女を埋葬した。

そして
 彼女の名前は Vats'a' Khekwaii だった。
 老婆 Ch'ighik Gwadhaa の一番上の娘は
 そのとき
 結婚した
 Shanyaati' の息子の一人とね。

それから
 私の叔父は下流を旅して
 そこで死んだ

そして、私の叔母の Fannie は Viiluu と結婚した
 そして、彼らは息子をもうけた,
 Peter だよ。
 彼は向こうの若い婦人の父親となっている。
 Fannie が結婚した後で Peter が生まれた,
 そして、向こうの若い婦人が Peter の娘なんだよ。
 後で彼女は再び私の兄さんの Ginnis と結婚したん
 だよ、ね。
 そして、このようにして月日が過ぎ去ったのさ。

それから
 そのときから彼らはもう亡骸を焼かなくなった。
 私のばあ様
 Ch'ighik Gwadhaa の娘は葬式をして埋葬された,
 そして、そのときから彼らは亡骸を焼かなくなった。
 彼らは高架の葬式も同じようにしなくなった。
 私がかかなり小さかったときには、誰かがけがをした
 ときでも,
 何の関係もない人でさえもね,
 ずいぶん泣いたもんだよ。
 もし、今そんなことが起きたら、彼らはきっと自分
 達で殺したんだと思うよ。
 近ごろじゃ、人々は互いに殺し合うだけだからね。
 昔は、人々は自然の原因以外で死ぬなんて事はな
 かったよ。
 彼らはそこに住んでいる動物がするように生きてい
 たんだ、どのようにして動物は死ぬのだろうか?
 そんな風だったんだよ。

さて、孫よ
 秋は
 彼らが一つの場所にとどまっていられる唯一の時期
 だった、トボガンや雪靴を作るためにね。
 それから冬は
 春の雪解けまで、人々はずっと動き回っていた。
 長い冬の間中、暖くなるまでね。

ああ!
 孫よ
 彼らは冬の間中ずっと歩き回っていたんだ、弱って
 野営するまで、そしてカヌーを作るまでね。
 彼らはカヌーを作った後で、秋までカヌーで漕ぎ
 回っていた。
 昔はそんな風だったのだから

彼らは動物と同じように生きていた、ずい分病気に
かかったものだ
実際、でも
今日、私らはここで、一つの場所で暮らしている。
私らはただ一つ場所にとどまり、自分自身のために
働く、

私らはもう何もそんなにしなくてもいいんだよ。
ああ！孫よ
女はそのとき本当に沢山の苦痛を味わっていた。
私の生涯でさえもさ。
そら。

13. 皮なめし；兎の捕獲；昔の料理

皮なめしの道具については Katherine Peter (ANLC, 1980年) の“私の獣の皮のなめし方”という本に図解されている。ここで Belle が話している家は大きな皮で覆われた丸太小屋で、それらは普通二家族（したがって“互いに向かい合った”という表現になる）が住み、しばしば老人のカップルと彼らの娘と彼女の夫という二家族が住んでいた。芝の家もまた建てられた。Belle は、子どもと女が家族に食物を供給する大切な手段の兎の捕獲、そして、どのように兎や他の肉がなべなしで調理されたかについて話を進めている。

彼女らは骨のへらで皮の肉の付いた内側をきれいに
した、
その後、彼女らは鉄のへらを用いてね、
彼らはナイフでこすり落とさなかった — 彼女らは
それを持っていなかったよ。
鉄のへらで
彼らはそうしたんだ、そうして彼女らはなめしたん
だ
カリブーの皮をね。
そのようにしてね、毛皮も何も。
私でさえそのようにして毛皮の皮をなめしていた。
今日、私らは大きなナイフを持っているから、内側
をこすり落としていよ、
そんな方法でね、
その色の濃い所を切り離してそれを本当にきれいに
するんだ。
以前は彼女らは使っていたもんさ
その皮をきれいにするに骨へらをね。

そのときには
彼女らはナイフを持っていた
このように作られたやつをさ。
彼女らはこの皮のへらを deeddhoos と呼んでいた。
彼女らは皮から毛を切りとって、それからそれを凍
らせるために外に置いた、
それから彼女らは鉄のへらをつかったんだ。
後には
私らは皮を買うようにさえなった

店でね。
店ができからね。
ああ！孫よ、それはとてもたやすいことさ、
皮の仕事をすることはね、
それらの道具を使ってね。
毛皮の
ズボンと毛皮のパーカー
彼らが使った全部だった、そして
皮のテントもね。
本当に大きな皮のテントだった
それらは全部毛皮だった、そして彼らはそれを全部
なめした。
家族はとても大人数だった。
時には
それはとても大きかったので、いくつかの家族が、
一家族はここに、もう一家族はそちらに住むことが
できた。
きっとお前は考えているんだと思うよ、
それは本当はとても小さかったとね。
でも、事実それは一家族にはゆとりがある程だっ
たよ、外への入口もついていてね。
それから
時には、反対側にももう一つ家があった、そして時
にはそうではなかったけどね。
彼らは毛の付いた方をテントの外側にしていた。
彼らは三つの棒を立て
その上に雪を置いた、そして
その先に隙間があった、

煙が出て行くための。

真中に

二本の丸太が並んで置かれていてそれらの間が炉、
そして、後ろに棒がたたき込まれていた、こんなよ
うに

それから

大きな丸太の間に

小さなスペースがあって

その中心、そこからみんなは火を起こしたんだ。

さて、孫よ

その当時

兎をわなにかけていた人々は

人々は

足で兎を捕まえていた。

人々は足で兎を捕まえていたんだよ、

そして

ああ！孫よ、兎はちょうど空中に片足を吊り上げた
格好でぶら下がっていたんだ。そして、人々がこの
種のわなを使ったとき、兎は本当に多くの苦痛を味
わったもんさ。

彼女らはその内蔵をきれいにした後で

棒切れに結びつけ、そして、それから

灰の下に置いた

あおむけに横たえながら。

それから、彼女らはそれを泥で覆って、そのてっぺ
んに火をつけた。

少しした後で、彼女らはそれを取り出して、

灰をはらってきれいにした後で

彼女らはそれを丸太の上に放り投げてその皮をむい
た

それから

兎はあたかもゆでられたかのように白かったよ、

彼女らがその皮を裂いた時にね。

ああ！孫よ、何と興味深いことだろう、人々のこの
ような暮らし振りはね、そうだろう？

それから彼女らはみんなにそれを分け与えた。

それから

時には私らは肉をさして焼いた、

カリブーがたくさんあったときにね、片方ずつあぶ
りながらさ。

彼女らは焼き串を使った、

そして

それを肉に突き刺した、

そして火の前で焼いたんだよ。

ああ！それが調理されるとき、彼女らはそれを取って
食べたんだ、おいしくあたたかったよ。

14. 昔の家具と布の到来；じゃこう鼠狩りと銃の到来

じゃこう鼠は常に Gwich'in の人々のそれほど重要でない食料源だったが、その毛皮が価値あるものになつたとき、彼らはそれらを大々的に狩猟し始めた。Belle はじゃこう鼠を捕まえるのにどんな網、すくい網が使われたかを描写している。より近年では、人々はボートからじゃこう鼠を捕まえるのに22口径銃を使い始めた。Belle が触れている“鼻銃 nose gun”は確認できないでいる。それは“銃口装填銃 muzzle-loader”という英語の訳かも知れない。

そうさ

冬にはみんなは

擦り切れて毛がはみ出しているような

カリブーの毛皮に寝ていたのさ、

端と所々にかたまつた毛がついた

毛皮に寝ていたんだよ。

そんな具合だったのさ。

生活の楽ではなかった人達は

兎の毛皮を編み合わせた；

でも、毛が少なくなると

ちっとも暖かくなかった。

そんな物を着ていたんだよ。

床には、松の枝のマットの上に

毛皮を広げていた、

それが全部だったよ。

枕なんてなかった。

古着を束ねてそれを

枕がわりにしていたのさ。

そんなふうに

足のついた毛のズボンをはいたまま

みんな寝たもんさ。
私の生涯に起こったことを
今、話しているんだよ、
衣服とかそういう物をこの目で
見たんだよ。
ああ！
なかったんだよ。
そのときには布がね。
私が大きくなった後では着ている人を時々見たよ、
カナダ人から得た服をだよ。
ただ何人かの人だけね。
時には私は女を見たよ、
頭にネッカチーフをしたね
それで全てさ。
そんなに前ではないが
白人が
Dawson の周辺に
そして
Neets'it Gwich'in 地方の Circle で金が当てられて
そして、そのときから蒸気船がやってきだした、
そして、そのときから貿易の品々が入ってきだした
んだよ。
その当時でさえ
既製品のテントはなかった。
既製品のドレスもなかった、
ただ材料だけはあった、
それから
白いテントの生地、
ボルトの付いた。
それらもまた入ってきた、
それらの人々によって
私の人生の中で
起こったんだよ。
ああ！孫よ、私らは、貧しかった。
そうなんだ、
私らは本当に貧しかったんだよ。
そう、私らは今はありがとうと言うべきだよ。
私らは丸太小屋についてさえ知りしなかった。
でも、私が言ったように
彼らは金を掘り当てて、それで白人がやってくるよ
うになった。
そんな風にして私らはそれらのことについて習った
のさ。
本当に

そんなに前ではなくて、
つい最近、
私らはまた習ったんだ、
じゃこう鼠をわなで捕まえることについてね。
それらで私らは始めたんだ、
その地方の人みんながじゃこう鼠をわなで捕まえ始
めた。
棒に結んだ丸いもの、
彼らはそれをもって湖の岸にいったんだよ。

その湖には
じゃこう鼠のトンネルがあった — 泡でお前さんも
わかるよ。
彼らが棒を投げると、風がそれを運んだ、
そのトンネルのところにね。

ああ！
孫よ、このように私らはしてたのさ、
最後に私らは氷ごしに突いた。
森で私らは切った、
松の木を
私らはそれらをこの長さにして
片一方の端を曲げた、
私らはそれでトンネルを突いた。
すると私らはそれが現れる場所を確実に分かった。

それから
私らは棒を置いた、
両はじをくっつけて、
そして、それが現れる場所にね、
私らはまたじゃこう鼠用のすくい網も使った。
そのすくい網は
とても大きくて
魚用の網みたいに編まれていて、とても長くて、
それはトンネルに入れられた。

それから
トンネルの出口に
彼らは棒切れを二本突きさした、
そして
じゃこう鼠網はそれに結びつけられた。
彼らはその下に二本の柳の棒切れを突き出して、そ
れらの間にその網を置いた。その柳はここでちょっ
とゆすられた、

それはたわみやすい柳からできていたからね。

それから

鼠がそこにやってきたとき

私らはそれを引っ張った、

そして、そこには

じゃこう鼠がうずくまっていた。

私らは沢山のじゃこう鼠をこの方法で捕まえた。

これが私らがそれらをつまえた唯一の方法だよ。

しかし

夏の季節ではなかった。

彼らはそれを他にどのようにして捕まえることができたろうか — 時には彼らは矢を使った、でも、それだけさ。

あひるでさえただ矢だけで殺された。

そのとき、22口径やライフル銃はなかった。

彼らが鼻銃と呼んでいたものが、

私の人生で始めてやってきたものだった。

そして、

それらの二つが私の人生の中に始めてやってきた。

そのとき私は生きていたよ。

それでそのときに銃がやってきたのさ。

15. 昔の狩り

Belle が話題にしている初期の種類の子は、鳥や小さな獲物に使われた骨の先端がついた子である。ムースに使われた子は銃か石の幅の広い先端が付いたものだった。Belle は明らかにその鉄の子じりを知っていた。彼女は、人々がそれらを“強く打ったり平らにしたりする”事に触れているのだから。しかしながら、これは削られた石を描写しているのかもしれない。Belle が話題にするカリブーのわなは計画的な狩りではカリブーがしばしば追い立てられる特別に組み立てられた柵や、“囲い”の入口にセットされた。Belle はまた貿易業者がやって来る前は食肉として役に立つ動物だけが狩猟され、毛皮獣のミンクやてん、きつね、狼などは狩猟されていなかったと話している。

棒切れの子さえあった。

彼らは鋭い骨の子じりを作った。

ムースの前肢には

そらね、小さな細い骨の小片があるんだ、

彼らはそれを千万通しとして使った。

それは千枚通しで

一種の子さ

それはまた

時にはこのくらいの長さの薄い骨からも作られた、

人々はそれを子の先端に付けた、

彼らは子を作った、

その薄い骨で

一片あるいは時には二片のね。

そしてね彼らはそれを射るのに使った、

小さな獲物をね。

夏でも冬でも。

彼らはムースに異なった種類の子を用いた、

事実

それを用いて

彼らはムースのあばら骨を射た、

そのような方法で彼らはそれらを素早く殺した。

その当時

ムースを求めて

私らはあそこに行った、

木の群れを越えた方向に。

そこは私らが手に入れることのできる場所だった、

細い

松の木をね。

彼らはそれらを切って、多くの棒を作った。

さて

彼らはその子じりを強く打ったり、平らにして、その先端を幅広くした。

その

子じりはムース用だった。

彼らはそれでムースを射たものだという。

彼らはムースを射た、

肩だけを狙った、彼らは子をそれに命中させたと私はそう思うんだ、そして

そのようにして彼らはそれを素早く殺した。

しかし、カリブーには
人々は皮のわなを作った、そして
彼らはたいていそれを使った。
彼らが編んだムースの皮からそのわなは作られてい
て、彼らはいつもムースもわなで捕まえた。

カリブーが数多くいたときには彼らはたくさんこの
ようにして殺していた、
しかし、後には
彼らはわなに対する掟を作り、それで私らはそうす
ることをやめた。
今日でも私は何人かの人々はそうしていると聞くけ
どね。

現在では

現在風の生活をしている。
孫よ
私らはミンクを狩猟してなかったよ、
てんとか狐もね。
貿易商がいなかった、でも、今日では彼らがそれを
買うからね、彼らは狩猟しているのさ。
彼らは狼さえ狩猟していなかったんだよ。
彼らは小さな獲物も狩猟していなかった、
ただ食べるもの以外にはね。でも近ごろでは、
店がある、それで今日彼らはそれらを狩猟する、で
も当時はそれらを狩猟するどんな理由があったら
うか？
何も買うことはできなかったんだ、それで彼らはあ
んな生活をしていたのさ。

16. 結婚、その当時と今

Belle が“結婚する”ということについて話す時、彼女はキリスト教の儀式を意味している。伝統的な一夫多妻性、それは昔、裕福な男によって時々行われたが、例として彼女は、19世紀中頃から後期にかけて力を持った長の Shahnyaati' について語る。彼は今だに Gwich'in 地方で語られる沢山の話の対象となっている。いくつかの話では、Shahnyaati' と Ch'eeghwalti' はライバルだったと語られ、他の人々は Shahnyaati' が12人もの妻を持っていたと主張している。

誰も結婚しなかった！

本当に
結婚したい人々は
ただ一緒に住んでたもんさ。
どんな方法で誰が彼らを結婚させることができた
だろう？
伝道者はいなかった、
ここにはじめて伝道者がやってきたのは私の人生に
おいてだからね、はるか上流には伝道者がいた、そ
れだけさ。

それで
孫よ
別れる人は誰もいなかった、
彼らは本当によく互いの世話をし合っていたよ、
私は何人か妻を持つ男を見たよ。
ここに別の妻がいた、
ここにもう一人の妻がいた。

彼のテントは私の家と同じくらいの大きな内部を
もっていて、全部の女達が彼と一緒に住んでいた。

Shahnyaati' さ — お前は彼について聞いている
と思うよ —
それについて話をしよう。
ああ！孫よ、彼には沢山の子どもがいた、でも、そ
のテントは私の家より大きかったよ。

ああ！孫よ
彼には
二人の妻がいて、それから彼はまた若い娘とも結婚
していたようだよ。
私が彼を目にしたときには、三人の妻がいた。
後に
その後しばらくたって
私はその老人が結婚しているのを見た
私のじい様によってね、
それは William Loola さ。

彼は	そのとき
カナダ側の伝道者だった、	多くの人々が洗礼を受けずに死んだと私は思うよ、
そして、彼らがより遠くに移動したとき、彼はこっちの方に降りてきた。	よくわからないけどね。
そのために彼らの間に伝道者がいたらしいのさ。	牧師はいなかった、ね。
私が彼らが自分のためにそうしているのを見たのは	それが私が今話そうとしていたことの全てさ。
そのときのことだったんだよ。	

17. Belle の結婚

Belle の母親は Belle が年頃になる前に彼女の結婚を取り決めたので、Belle が実際に夫と住むようになる前に彼女の夫は一種の婚約期間を待っていなければならなかった。これは昔においては一般的な習慣だった。Belle は Ch'eeghwalti' と Ch'aadzahiti' の死（おそらくは1890年代初期、しかし、まだ確定されてはいない）によってこの日付を決めている。彼女は彼女が年頃になったときなされたことを述べている。アサバスカン地方のある地域における習慣のように小屋でなされるのではなく、Gwich'in の人々の間に一般的な風習に従い、家族の家の中にある種の幕の後ろに彼女は融離された。この期間、彼女はまたたくさんのタブー、特にある種の食べ物を食べることに對して、そして、おそらく水を飲むのに筒を使うということを守らなければならないことになっていただろう。彼女は時間を老婆の指導のもとで裁縫に費やした。この老婆を彼女は姉と呼んでいる。Belle は、またそのとき短期間やってきた女の伝道者と一緒に歌うこと、読むこと、編むことを学ぶ機会があった。彼女の母親は貧しい未亡人だったので、娘の結婚を祝うポトラッチの祝宴を開けなかったと Belle は述べている。Joe と Belle の結婚の儀式は英国国教か監督派教会で働いていて、アラスカとカナダ両方に旅している有名な Archdeacon McDonald によってとり行われた。

私が結婚しようとしたとき	彼らは John Shuman と呼ぶ
私はまだとても若かった、	そこに住んだんだと思うんだがね、
母さんは私に初潮がくる前に、すでに私のために男を選んでくれていた。	たぶん Old Rampart の辺りのどこかにね、
	そこから彼らは犬のために道を作っていた
	そしてそれが私がお前のじい様を初めて見たときのことさ、
ああ！	そこから
お前のじい様は、上流からやってきたんだ、ね。	彼は私の叔父と一緒に下りて行った、
私は彼をたった一度しか見たことがなかった、	二度ばかり
そしてその後で母さんは彼を選んだんだよ。	でもお前の叔父は
そうなったとき	そこか、どこかで生き延びていた、そして、朝には
私はまだ初潮さえむかえていなかった。	私と弟はたきぎを取りに行った。
それで彼は彼の兄と上流へ戻って行きそこにいた、	私は決して座ることはできなかった、
私が大人になるまで、そして、その後で	一つ場所に。
彼はやってきて、ここに住んだんだよ。	彼らが出発するとき、母さんは彼の真ん前にたっていた。
それから	
ああ！その夏に	彼女は私のために彼を選んだらしいのさ、私のじい
その人が	様と叔父がそのとき一緒に住んでいたけれどもね。
そこに	彼らは集まっていて、外で話をしていた。
母さんの兄弟が	

それで
私は彼がいいよ、と言ったと思ったんだよ。
それから彼は去った。
そう思うんだ、そして
私らは、たきぎの積み荷を引張りながら戻って行っ
た —
私らが何匹の犬をもっていたか忘れたよ。
ああ！私らはとてもはらがへってた、
それで私は本当に素早く中に入った、そして
母さんが話した。
“お前の叔父の Henry の家におりておいき”
彼女は私に言った。
そのとき、私の兄さんの
Robert もまた
結婚していた。
彼らもまたそこに住んでいたよ。
それで
私の父さんの兄弟が私にそれについて話すことにな
ってたのさ！

ああ！孫よ
私は今までにそんなことについて考えたことさえな
かったよ。

それで
私は従った。
私は下りて入って、中に入った、
私のじい様の
妻はいつも
よくしてくれたもんさ、でも彼女はその部屋の向こ
う側にただ座っているだけだったよ。
こうしている間、私のじい様はただ私のためにテー
ブルの上に食べ物置いていた。
そう、それから
彼は私に食べものを与え、そして
私は食べた。
私が食べ終わった後で
彼が私の横へやってきた。
“私らはお前のために夫を選んである。それについ
て何も考えることはない”これが私に彼が言ったす
べてさ。
ああ！誰かが私の顔を叩いたようだった。

ああ！孫よ

私が彼を前に見たと言ったのを思い出しておくれ、
彼らの父さんが彼と一緒に上がってきたときにね。
それで
彼らはそれから上流へ行き始めた。
私の義理の兄さん（弟）と
Nildhat Ti'の弟
彼は呼ばれていた
John Digin とね
お前は Mary Gwih'aa について聞いているね —
彼は彼女と結婚したのさ。

それから
Mary Gwih'aa の妹が、
死んで
彼らは彼女の子ども達を養っていた。
それでその婦人は
その小さな少女を育て、彼らは彼女を私の義理の兄
さん（弟）に与えたということらしい。

それから彼は戻って行ってそこに到着し
彼の兄さんと一緒に住んだ。
そこには赤ん坊がいて
その子は私の亭主の名前をとって命名された。

でも、その子は窒息した。
ついに
彼らが彼に私をくれと頼んだ後でこのことは起こっ
た。
さて
彼らが下りて行ったとき、彼らの父さんは彼らと一
緒だった。
それから私の母さんが一緒だった —
彼らは母さんと一緒に行った。
彼は母さんと一緒にそこを訪れていたと推測される
よ。
ところで、彼は伝道者だった、
私は彼が私にそのとき会ったんだと思う。
孫よ
もし事が素早く起こらなかったのなら —
“私は彼女を私の一番下の息子と結婚させただろう”
と彼は私について語った。

おお、そのかみさんが
待っていたよ、

彼女が誰かに出会うまで、私はそう思うよ。
 ああ！孫よ
 ちょうどそのとき
 そのときでもなお
 私は何が起こっていたのか知らなかった。
 私らは違う村でそれぞれ待っていた。
 そして、そこで
 Circleで
 私は彼がそこで何をしていたのかと思う。
 そのとき、私はお前の父さんが
 まだ、Mardowと歩き回っていたと信じている。
 彼は
 Mardowの犬のために道を作っていて、そこでは
 それらのうち二匹が進んでいた、
 早春
 暖かくなったとき
 そこは
 砂洲だった。
 そこには、そのとき
 向こうに、広大な砂洲があった、
 そして、その砂洲の上には入口が向かい合った二つ
 のテントがあった。
 彼女は
 母さんはテントを一つ持っていて、反対側に誰かが
 住んでいた。
 ところで
 私の姉さんは
 結婚していた、でも彼らは彼女とも一緒に住んでい
 た。
 そして
 そこの上の土手にちょうどこのような家があって、
 私の叔父と私のほかの姉妹が住んでいたよ。
 それから
 その日のうちに彼らはあそこに行ったと私は思う。
 私は一人で待っていた、
 そして、お茶と食べ物を用意した
 そして、私はそこに一人で座っていた、
 そして、誰かが入ってきた、それはMardowだ
 った。
 彼は他の側に座った。
 ああ！
 向こうに
 Circleに彼らが行ったと聞いた、
 昔はね。

私は何をするのかさえわからなかった、
 私は母さんの留守に全部準備を終えた、
 それで私は床に皿ふきんをおいてその上に彼らのた
 めの皿を準備した。
 Mardowは食べるために座った、
 二人ともそうした、
 そして、彼は言った、“私らのためにお祈りをして
 おくれ”と私にね。
 私は食前にどのようなお祈りを捧げるのかさえし
 らなかった、
 彼が私にそう言ったときにはね。
 私はただ彼を見ているだけで、笑うことさえしな
 かった、
 本当に
 私はそのように恥ずかしがり屋だった。
 それから
 その後で
 彼らはよく食べ、お茶も飲んだ。
 彼らが食べ終わった後
 私はすぐ皿を片付けた、
 私は皿を片付けて、きれいにした。
 彼らは、時間を無駄にしなかった、彼はすぐに去
 った。Mardowはね。
 そして、彼もまた
 ああ！
 そのすぐ後で
 私は再びお茶を入れた。
 そのとき母さんが
 家に戻ってきた。
 その後
 冬がまた過ぎ去った。
 その冬は
 Circleができた時だった。
 それから
 初夏にCh'eeghwlti'が死んだ。
 Charley Loolaと向こうの彼の家族と
 Mary〔Thompson〕、
 そして、彼女の子ども達全部はCh'eeghwlti'の子
 孫だよ。
 それで
 その同じ冬に私の叔父が死んだ、
 誰かがGabrielの父さんを撃った、それについて
 お前はきっと聞いているだろう。

その冬
誰かが Gabriel の父さんを撃った。
それから雪が再び解けた。
彼らは北の人々の系統だよ。
Ch'aadzahti' は
殺されたんだと彼らは言うよ。
私らはそこにとどまることにした。
それから
その雪が解けて
6月に
私は女になった。
ああ！
そのときそのおかみさんは
私に後ろに座るものを作った。
私の姉さん達は私に何か縫うものをくれた。

私は縫い物をたくさんしたよ。
彼らはやり方を私に教えてくれた。
昔は
彼らは若い女をそのようにしていたのさ、そして、
自分の手でこのときから物事をするようになったの
さ。
私の姉妹も私にそのようにしたんだ。
それから
こうしている間に
一人の女の学校の先生がボートで下ってきた、
多分一週間。
彼女は先生で
私もまた皆と教わった。
そのとき
私は白人のやり方で歌った、
私は白人のやり方で読みさえした。
それから
私は靴下の編み方さえ習った、
それはたった一週間のことだったけれどもね。
それから牧師が下ってきて、
そこにテントをたてた。
こうしている間にお前のじいちゃんがカヌーで下っ
てきたよ。
そのとき
私は彼についてただ聞くだけだった、それで終わり
さ。
母さんもまた私に彼について何も言わなかったよ。
ついに

あるとき、彼がやってきて私に尋ねた。
“皆は私がお前と結婚することになっているという、
いつ結婚しようか？”と彼は私に言った。
“私の母さんはとても貧しく、もし誰か私のために
彼女を世話してくれるなら、結婚は私にとって素晴
らしいことです”と私は言った。
そうそのときは、私はそれ以上何も言わなかった、
でも、もう時は私らが結婚するときになっていた。
孫よ、本当は
私はそうしなくなかった、でも、彼らは私に求婚し
続けた、それでついに私はそうしたよ。
私はとても無邪気だった、彼らが言ったことは私に
は何も分からなかったように思えるよ。
さて
それから
彼が私の面倒をよくみてくれそうだということがわ
かったよ、
私の貧しい母さんは
私をそこに置いていった。
私には身寄りがなかった、それで母さんは私のため
にポトラッチを開かなかった。
それから
私の亭主はそのときでさえ一人で歩き回っていて、
それで彼もまた、たくさんの物は持っていなかった
よ。
それは伝道者だった、
彼らが McDonald おやじと呼ぶ、その人が私らを
結婚させたんだと思うよ。
ここには牧師はいなかった。
それで私は彼が下流に行っていて、そうしたんだと
思う。
そのとき
年老いた人達でさえ結婚した、それは私の叔父がそ
こにいたときだったのさ。
William Loola はそのとき、その辺りでたった一
人の伝道者だった、
別の方角には伝道者がいるのかも知れないと私は思
うよ。
下流の
Fish Camp という所で私の兄さん達は暮らしてい
て母さんは彼らと一緒にだったので私らもそこへ行っ
た。
とうとう私は子どもを授かって、その子が歩き始め
たとき、私らは彼らから離れ、そっちのほうへ戻っ

ていったんだ。
 それが私がお前にちょっと前に語ったそのことだよ。
 それが私たちが彼らから離れたときだったんだ。
 それで全てさ。
 私ら二人がその斜面を越えて上ったり下ったりしていたときに、私が先日語ったそのことだよ。
 私らがここにやって来て
 私はここにまだいるよ。
 私は Fort Yukon には住んでいない、そして、そ

れが私の生き方なんだよ。
 私は多くの白人には会っていないよ、だから彼らが分からない。
 それで、言う所の Fish Camp にいるわけさ。
 そして、私らは絶対そこを離れない。
 そして、私らは白人を見たことがなかった。
 そうだったんだよ、
 そして、本当に
 私が白人のことばを聞いてもそれを理解することさええないよ。

18. 白人の到着

結婚一年目の1896年に Belle は子どもを授かり、そしてその子がまだかなり小さかったときに Koyukuk で(1899年か1907年に)金の採掘が始まった。彼らの開拓地に物資を供給した店や船と金に夢中になった鉞夫の到来について彼女は述べている。Belle が話題にしている“軍人婦人”は確認されていない。

Koyukuk ではじめて
 彼らは金を掘り当てた、私の子どもはそのとき歩いていたよ。

そして
 白人は
 次から次へと Yukon を下った。
 その後
 しかしながら白人はいなくなった。
 彼らが Dawson そして Circle で金を掘り当てる前にそこに白人がいたのかもしれない。
 この辺りじゃいなくて、一人すらいなくてね。
 その方向で彼らが金を発見したとき
 彼らはすぐそっちへ進んだ、それで終わりさ。
 時にはスキーをはいて。
 時にはただズック袋をはいて
 彼らは鹿革の靴を持っていなかった、
 そして彼はズック袋を縛りつけた
 彼の足に、歩くためにね。

あるいはただスキーで
 彼は背中に荷物さえつけず、ただ滑った、
 私は彼らがそのようにして路を滑り下りるのを見たよ。

その後で

蒸気船がやってきだしたのさ。
 蒸気船がそっちのほうへ行きだしたときにはそこには店もなかったけれどもねえ、
 この辺りに何か物があるなんてことがあったらどうか？
 そして、そのとき
 ここには店がなかった
 ただ蒸気船があっただけさ。
 でもついに
 店がたてられた。

彼らが Koyukuk で金を発見したので
 その後で外部の本当の金持ちの誰かが店を作った。
 その
 彼のために働く人がいたよ、
 そして、彼らと一緒に大きな軍人婦人もいた。
 彼の名前は Captain Ray さ。
 彼はそこにいたんだよ。
 店がたてられた時に。
 その当時は
 人々はほとんど餓死しそうだったときで
 その時のことについては前に話したよ、
 そのときに Ft. Yukon にその店ができたのさ。
 N. C. Company は、下流にあった、
 と思うよ、そしてまだあるよ、
 今は私は本当に年老いている、そして、その同じ店

もまだそこにあるのさ。
たった一つの店だったよ。
そして、彼らは蒸気船で貨物を積んで来たね、
たくさんの食物とか。
牛とか馬も
彼らは積んで来たよ。
さて
彼らは去っていこうとしていた、それで彼らは全部
牛を殺した。
彼らは馬をどこかへ運び去った、その世話をしていた
男がいた、
そのことについて聞いたことがあるかい？
そうさ、それは馬達がやって来たときのことさ。
そして、彼らは牛を全部殺したんだよ。
私が話している Captain Ray、彼が
その店をたてたんだ、
そして蒸気船でたくさんの食べ物を持ってきた、
彼はそこに滞在しようとしていた、

そこにとどまろうとしたそれらの人々は
全部死んだ。
彼らは外部の人達だった。
そして彼らは全部死に絶えた。
そう、Ft. Yukon にね、
そのときその川の真ん中に大きな丘があったもん
だ、
そして
それは今は全部なくなってしまったね。
ああ、孫よ！
そのときはとても貧困な時代だった、そして徐々に
白人がやってきたよ。
そんなにたくさんの人達はいなかった、でも
そこここに時折
彼らは回ってきた。
それは
そんな感じだったよ。
白人は、ただ、だんだんとやってきたのさ。

19. 病気の治療

放血は最も普通の医療だった。熱の利用と一種の鍼術もまた話題にされている。雪盲を患ったとき、瞼が切開された。Belle は彼女自身がこうしたことを経験したと語る。それから、彼女は出産時に女性達がどんな風に妊婦を助けるか語る。彼女は横たわって出産する現代の習慣が、かがみ込んだり、膝まずいたりする伝統的な方法より悪いと考えている。おもしろいことに、彼女のこの意見は現在のいくつかの産院から支持されている。Belle は赤ん坊がどのように細長い布で包まれ、かぼの木製の皮の揺り籠に入れられたかに話を進めている。

私が結婚した後
私はすぐに最初の出産を迎え、私がお子を生んだ
後に
すぐさま—
私が非常に若かったとき、その子を生んで、そして
そのときその子は死んだよ。

ああ、孫よ
私らはお互いのために何でもしたよ。
私らが怪我をしたとき
彼らは何とか皮膚を切り開いた。
彼らは切断した、
お前の舌の静脈さえもね、
それでさえ
彼らは切断した、
お前の胸のどこかが悪くなったとき

お前は準備して全ての用意をしなければならない。
そして
私らが目の痛みを感じたとき
彼らは目の中さえ切った、
そのように
彼らはその中を何かこわれたもので切った、そう
やったのさ。
彼らは血を出して、そしてそれで大丈夫ということ
なるのさ。
そして
私らは痛みを感じたとき、彼らは少し熱い灰を取っ
てきて、
私は彼らがそこに、痛みが起きているところに石を
置いたと思うよ。
そして全部そのようにしたんだ、

彼らがそうするときにはね、
 そしてお前は蒸気風呂も使うことができた、
 でも、そのとき入れ物がなかった。
 大きい洗い桶もなかった。
 そして、彼らが怪我をしたとき
 彼らは皮膚を切り開いて、血が流れでて、それで彼らはよくなったのさ。
 それが彼らのやり方だったのさ、そして
 彼らは医者なんて考えもしなかったよ。
 一人の女がいた、
 彼女は医者で、自分でしていることを本当によくわかっていて、誰かが腕を怪我したとき
 あるいは誰かが体を怪我したとき
 誰か他の人が針で腕を刺すことになっていた、
 彼らは端から端まで刺した。
 そして、その人はその後よくなっていった。
 私の叔母、年老いた Eliza、
 つまり Rose の母さんは
 本当に人を治療するのが上手だった。
 彼女は昔治療していた。
 孫よ、本当に
 誰かが皆を守っていた、と私は推測するよ。
 彼らは医者なんて考えもしなかった、彼らが人々を治療しそれらが彼らにとっての医者だったんだよ。
 本当に人々は
 時には死にかけていた、でも、彼らは
 その人達を回復させた、そう彼らは言うよ。
 私は見たことがなかったけれども。
 彼らが血を流しているのを見た。
 私でさえ人の目の中を切ったよ。
 私は彼を切り開いた、でも
 孫よ、今は
 私はその治療をできない、
 まったくね、だって
 私は目が見えないんだ、だから私はそうできないよ。
 ある
 貧しい
 若い男がそこに—
 Maggie David と呼ばれた女、
 彼女について聞いているね、
 Paul Solomon の
 妹の
 Maggie、ええと、彼女の息子の一人
 Ervin が

目の痛みを抱いた。
 そこに
 彼が Shuman House に到着した。
 彼は食事をした後で
 どこかにでて行った、
 そして彼は私に言った“あの子の目を切ってくれ”
 きて、私は目の中の切り方を知らなかった。
 そして、私の孫、
 John、彼は小さかった、
 私の息子の息子が
 私と一緒にいた。
 こうしている間に
 私は彼に言った“私はお前の目を調べるからね、顔をひき上げてはどうかね”
 そして私は枕を置いた、
 膝の上に、そして長い柄の付いた真っ直ぐの剃刀を持った、
 そして私が言ったように彼は目を処置した。
 刃のまわりには大きな血の固まりがあったよ。
 それから
 私が彼の目を処置している間、血がほとばしり出てきた。
 きて、私はもう片方も同じようにした
 そして私がそうしている間その子は目覚めていた。
 小さな John は
 かんを取って、そして、すばやく彼の下に置いた。
 彼の生暖かい血がこのように出てきた。
 きて
 私は彼に言った。“さあ、お眠りよ”
 そして
 一晩中
 彼は眠った。
 きて、次の
 朝、私はなめしていた皮を取り上げた、そして、その続きはそんなに残っていなかった、
 それで私は用意していた柱にそれを置き、それをこすり落とし始めた、そして彼は私の手伝いをした。
 私は彼をととても幸福にしたので、彼は私のために全部こすり落としたのさ。
 それが私が人の目を切ったときのことだよ。
 そして、Percy が足首をくじいた。
 ああ！
 孫よ、私はお前の足をさわって確かめたいね、私は。
 彼に言ったのさ、

小刀と棒切れを手に持ちながらね。
 私は股になった棒切れで彼の足の皮をひつつかみそこから切ったよ。
 ちょうど水を切るようにさ。
 “孫よ” 私は言った，“もう一方もね”
 彼はそうされるのが嫌だった。
 それで彼が見ていないときに私はそこも切った。
 孫よ、それは医者と同じような大仕事だった、私らがしていたことはね。
 彼はその後よくなったよ。
 それがその世代を通じて長い間私らがしてきた方法だよ。
 ああ！孫よ
 たくさんの女がいたさ。
 互いに世話し合うね、そらね、
 分娩のとき、彼女らの体を支えている人の前に座っている何人かの女がいた、そして、彼女らは私らにつかまることさえもしただろうよ。
 その間
 両腕で
 私らは彼女をしっかりと床から持ち上げていた。
 すると、子どもが生まれたのさ。
 Ahbit と呼ばている女の人は、
 このようにして生まれた。
 母親は死にそうだった、
 そうなんだよ。
 男でされ疲れてしまったよ。
 さて、私はそこに行って、
 中に入り、彼女の前に座った。
 彼女は分娩中で収縮が始まっていた。
 彼女は分娩中でちょうどこのようにしていた、
 こんな風に。
 彼女はいきんだが、収縮が止まった。
 彼女は私をひつつかみ、それから
 まもなく
 私が支えている間に赤ん坊が生まれた。
 私の腕はもう力が入らない程だった。
 それが私らがいつもしていたことさ。
 そうしていたのさ。
 近ごろじゃ、彼女らはただ仰むけに横たわっているだけで、だれも彼女らを助けない。
 その当時、女が分娩中のとき、そのようにして私らは彼女らを扱ったのさ。

私らが彼女らを持ち上げた
 私らの全部の力を込めて
 そして私らがそうしている間に
 赤ん坊が生まれてきたんだよ。
 そのようにしていたもんだったが、今じゃ、女はただ仰むけに横たわってそれで子どもを生んでいるからね。
 そして
 それは女の具合を悪くするらしいよ。
 みんな病人の手助けをしたもんさ。
 女達は全員交替でしていた、本当に
 彼女らは妊婦の世話を全部していた、そして、それは
 は
 妊婦にとって慰めとなった、彼女らが妊婦の世話をしたときにはね。
 彼女らは妊婦の尻を手のひらで持ち上げ楽にしてやったんだ、そらね。
 それが赤ん坊を生んだ方法さ。
 誰も私らを助けないときは、私らはただ仰むけに横たわっていた、そんな分娩は苦しいだろうと考えるがね。
 世話するその人々は
 全部まわりに集まった。
 孫よ、本当に、彼女らが仰むけに横になると彼女らは被るよ
 たくさん苦痛をね、私はそれがわかったから彼女らの今のやり方に賛成しないよ。
 私らが人の世話をよくしたときには
 そのこと自体が
 私らをこちよくした、
 でも今の女達はそのようにしていないね。
 ところで
 今、このあたりでさえ
 それは良い方法に違いない、
 私は彼女らに言ったよ、でも彼女はまだ外出しているさ〔病院で赤ん坊を生むためにね〕。
 それは神の行為さ
 私は彼女らに言うけど、彼女らはまだそうしているよ。
 そして、
 また
 私はたくさんそんな女達が苦しんでいるのを見るよ。
 その真っ直ぐな長くて細いバスケット

そして、ぼろ
 彼女らは丸い包みを作った
 そして、その中に
 彼女は柔らかい苔、兎の皮を置いた、そしてその中
 に彼女らは赤ん坊を入れた。
 そして
 彼女らは赤ん坊の上に何か暖かいものかけた、
 そして、足から首にかけて紐で縛った、
 そして、そのまわりに皮をかけて、包み上げた。
 それから
 子どもはそのような状態になっていて
 そして、彼女らはこのように手をしっかりと固定し
 た。
 赤ん坊が少し大きくなると
 手を動かせるようにしてやった。
 赤ん坊があたりを這い始めると、彼女らは今度はそ
 のバスケットに赤ん坊を入れたのさ。
 彼女らはとても暖かくしていた。

孫よ、たとえ旅していても赤ん坊は生まれてきた。
 時にはトボガンに乗っていても分娩が始まる、そう
 彼らは言うね。
 それは私の人生で起こったことじゃないけどね。
 それから
 彼女らが仕事で動きまわっている間に
 赤ん坊を生むこともあっただろう、でも
 彼女は一日だけ一人で休んでいたことだろうよ。
 こうしている間、他のものは離れて行った。
 そのようにしていたんだよ。
 たった一日だけ休み、それから
 彼女は毛皮のズボンの内側に赤ん坊を入れ
 そして、赤ん坊は
 彼女の服の中にいた。
 彼女は自分のそりを持っているときには、それを自
 分で引っ張ったのさ。
 ああ、孫よ
 そのころ生きていくのは本当に大変なことだったん
 だよ。

20. 家族の歴史と昔の生活

Belle は彼女の家族のいつもの永久的な住居である Shuman House の設立について語る。彼女が John Shuman と呼ぶその人はそこに初めて定住した“母親の兄(弟)”だった。彼が実のところ彼女の母親の兄弟だったのか、母親の姉妹の息子だったかどうかははっきりしない。もし、後者なら親族的言い回しで彼女が彼を呼ぶのだから、Belle の母親と同じくらいの年齢だったにちがいない。William Ch'atth'aiindee も、また William Shuman と呼ばれたが彼は John Shuman の兄弟だった。彼女はガソリンで動くボート、ろうそく、手提げランプの到来を記憶していて、人々が昔どのように家で明かりをつけていたか述べる。それから、彼女は伝統的な裁縫、料理について話し、冬の間、遊牧的な狩りの生活のなかでの女性の毎日の仕事について細かな描写を与えている。彼女は孤児の生活を記憶していて、彼女自身が養った孤児について語る。最後に、彼女はもう一人長生きした女性、そして、その女性の教会の仕事への奉仕はBelle が手本としている女性なのだが、その女性について語る。

私の叔父 John Shuman は
 初めての人ではなかった。
 その前に Nildhat Ti' の父さんが
 そこに定住していた
 そう彼らは言う。
 それ以前から、地球ができてからずっと何年もの間
 ずっと人々はそこに行き滞在している。
 そして、みんなが去った後で、そのときに私らがやっ
 てきた。
 それは私の叔父だった、

彼は Deetree John と呼ばれていた、
 それが彼の村だった、
 それで彼もそこに滞在した、そして、私らが来たと
 き、それは私らの村になった。
 そして、同じように地球ができてからずっと
 あそこに
 Simon [Francis] の住むところと呼ばれたところ
 も
 それと同じようだったさ。
 そこに彼らが Diikwai' Dhich'ii と呼ぶところも

ある。
そんな感じさ。
インディアンの定住地は全部そのように川にそってあるんだよ。

〔Alice が質問する〕
私ら二人がそこに着いたときは
彼らが大型ボートを持ち出したときさ。
そして、ガソリン
〔ランプの中で〕燃えているのも、
その時が初めてのことだったよ。

〔Alice が質問する〕
私らは犬だけと旅をした
それが私らにできた全てさ。
何年か後で
お前が生まれた後、その後ちょっとして
私らは犬を使うのを止めた。
それ以前は犬なしで歩きまわる方法なんてなかったよ。

〔Alice が質問する〕
その Old Crow の人々
Peel 川と呼ぶ辺りに住んでいる、
何人かの金持ちの白人連中は
食べたもんさ
私らの家でね。
彼らは外部に行っていた
と思うよ。
私はたくさんのそれらの金持ちの人々に食べ物を与えた、そして今は私はここではとても貧しい。
彼らは全員犬チームを持っていた、
彼らの全部がね、白人の女性でさえ犬のチームとともに旅してたよ。
孫よ、私らは本当にそのとき犬を使っていた、でも今は止めたよ。

〔Alice が質問する〕
その当時、彼らはかばの木の皮のカヌーを持っていた、
そして、大きなボートも

そしてまた大型ボート、その当時に
お前のじいちゃんは最初の人だった、
ガソリンで動く大型ボートを買ったのはね。
ああ！孫よ
本当に
彼は大型ボートがそこで売り出されていると聞いて
それを見に行き、それからそれを買っちゃったのさ、
それで皆は言い出し、大型ボートに乗せてこここへ連れて行けと言い出したのさ。
それがどんなものかって、ただだびっくりしたよ。
そしてお前のじいちゃんは葉巻だってふかしていたよ。
ああ！私らはただ
ボートに乗っているじいちゃんを見ているだけだった。
それから私らはまた
Victrola 蓄音機も持っていた、
あれをかけるやつさ。
ああ！孫よ、それは本当はかなりのものであった！
教会に行く人と同じ数だけの人々
それほど多くの人々が聞きに来たものさ。
彼らにとってそれは魅惑的だった。
これらのことはそんなに古く起きたことでないよ。
それから
それ以前はただろうそくがあっただけだった、
そしてそれ以前は
彼らは油を、
北部からあざらしの皮に入れて持ってきた、そして
彼らが小さな金属のかんを手に入れたときはいつでも
も
それに、獣脂に、
彼らは白い布をよって入れ
そしてそれをろうそくとして燃やした、明かりを得るためにね。
その後ろうそくがきたんだよ。
その後で、
灯油
そして、その後でガソリン。
そういう次第で私らは年を追って手に入れていったのさ、
そして、それは私の生涯で全部起きているよ。
ああ！とても貧しかった、私らはろうそくなんかについて何も知らなかった、でも彼らは工夫して作っ

たもんさ。
地面の上に
彼らは泥とか砂などのような材料を混ぜた、
少々の草と一緒に、そして
彼らはそれを支える丸太を使ったと思うよ、
そして彼らはそれを交互に積み重ねた、そして、
その間には厚い苔もつめた、それは厚かった、両側
に砂があって、そして、真ん中に突き出た丸太
そんな具合にしてたのさ
土を混ぜたりして。
それからその真ん中で火を焚き続けた、
その丸太の上で。

火が燃えているときは
部屋の中は明るかった。
その後で、彼らはあざらしの脂を燃やし始めた、
一本のより布をつけて、そしてその方法で明かりを
つくった。
ああ！孫よ
やめよう。

〔Alice が質問する〕

ボートが巡ってきたとき
彼らは品物をもってきていた、
そしてそれを売った、そんなわけで私らは物を手に
入れたのさ、
最初はそんなにたくさんではなく、必要なものだけ。

〔Alice が質問する〕

ああ！孫よ、それはとてもゆっくりと巡ってきたん
だ、そんな具合にね。
ほんの二、三年前、私らが年金や物を持つ以前はそ
れは難しいことでもあった。
でも、それから彼らはこちらに服を送ってきた。
それで、私らは年金が始まる前にいくらかのものを
手に入れたんだよ。
それが私らが手に入れたものさ、そんな理由でよ
くなっていったのさ。

〔Alice が彼女が Shuman House に住んだ人を憶
えているかどうか質問する〕

私の兄さん達だけさ
私の兄さん Esaias
そして彼の妻は
私らと一緒に住んでいた、そして、私の兄さんの
Robert もね。
そして、私の兄さんの Charley もいつも私らと一
緒にいた、
私の義理の兄さん（弟）の Alexander もさ。
それから Henry もね、そして、後には彼は結婚し
たよ。
住みたいと思う人は誰でも、彼らは全員私らと一緒
にいた、それでいつもまわりはたくさんの人だった
よ。
それに加えていつもその方角に旅する人達がいた。
狩りに行くことになっている人達もそこを越えて
行った。
それでいつでもそこにはずっとたくさんの人がいた
んだよ。

それから
その男、Joe Ward は私の上のほうに住んでいた、
私の息子が歩き始めた後に。私らは互いにそう頻繁
には会っていなかったよ。
私らがしていたことはわなを仕掛け、狩りをするこ
とだけだった、そして、後で一緒に狩りをしたよ。
誰もいなかった時期はなかった
私も長い間一人きりだったことはなかった。
Francis と彼の妻もいつも
私らと一緒にだった。
時には私の義理の兄さん（弟） Davit もね。

〔Alice が彼はどこでビーズを手に入れたのか質問
する〕

Cadzow が Old Crow に店を出したとき
ああ！それは高価なものだった。
彼はビーズを1つずつ勘定して、それらを毛皮と交
換して売った。
私の息子の Sam が最初の獲物の毛皮を手に入れた
とき、彼は私のためにいくらかそれを買ってくれた。
私はそれでたくさんのお金をつくったよ、
そして、残り
彼はこの杖を作ってくれたのさ。

〔Alice が話す〕

女は皮をなめした。
彼女らは毛の付いたカリブーの皮をなめした。
そして、それでパーカーをつくった、そして
彼女らは毛皮のズボンをつくった、
足の先が付いたやつだよ、このようなね。
それから
その上のまわりには房ベリが付いていた。
それはこのぐらいの長さだった、そして、彼女らは
そのまわりをベルトのように紐で縛った。
それから
彼女らはなめした
皮を、毛皮のズボンを作るやつをね、
そして、彼女らはパーカーを作るために皮をなめし
た。
そして、彼らの亭主のために
毛の手袋も作った。
それから彼女らは帽子を作るのに兎の皮も編み合わ
せた、
そして、男は本当に
暖かかった、たとえ天候が厳しかったとしても、
彼らは暑くて顔を拭いたことだろうよ。
彼らは本当に
暖かだった
そのように身仕度をして。
そして、女も
また
足先の付いた毛皮のズボンを身につけた。
そして
その毛皮のパーカー
内側に毛が付いていた、そんな具合に女は
パーカーを着ていたんだよ。
そして、毛はいつも内側だった、彼らのズボンとパー
カーは全部いつも内側に毛が付いていたのさ、そら
ね。
そして、また彼らは毛皮の手袋も身につけていた。
彼らは兎の皮の帽子も身につけていたよ。
ああ！孫よ、彼らは本当に暖かい身繕いをしていた
よ。
そして
男について言えば
女がなめしている間、彼らはトボガンとかんじきをつ
くった。

彼が作ったトボガンはまず乾燥させなければいけな
かった、そうすることによって、よい状態になるの
さ。

〔Alice が質問する〕

ああ！孫よ
千枚通しで
彼女は穴をあけ、そしてその後は糸だよ。
そして彼女はそれをくり返した、穴をあけ、それか
ら糸を使って。
それはとても
難しかったよ。
近ごろじゃ、針があるからね。
そして、女はそうしている一方で料理もしていた。
そのとき
彼女らはあぶり用の棒を作り、それを使って
彼女らは、火越しに食べ物の固まりを料理したんだ
よ。
時には
紐があったよ
火の上に縛られた、
そして、彼女らは作ったよ
小さな柳の焼き串をね、そして、それを紐に結びつ
けたのさ、
そして、彼女らはせっせと仕事をしながら料理する
肉を火の上につるしたもんさ。

〔Alice が質問する〕

それはとても細い紐だった
皮の紐はそれに縛りつけられた
上の柳にね、
このように、そして、そこに肉がつるされていたよ、
それは、そのようにしっかり縛られていたさ。
それから彼女らは両端をとがらせた棒を取り出して
それを肉に刺して、それを火でそのようにしてまた
料理していた。
そして、彼女らはそれをぐるぐる回し続けた、
そのようにして一日中それを料理していたよ。
そのときお茶はなかった。
お茶はなかった、それで彼女らは食べ物をゆで、そ
の薄いスープを飲んだ、それが彼女らの飲み物の全
てさ

ああ！孫よ、
 男がかんじきを作った後で
 女が
 そのかんじきに詰め物をした、そして男はその後で
 足を差し込むことになっていた。
 そして、もし誰かが皮のテントを作りたいと思っ
 たら、女たちはたくさんのカリブーの皮をなめさな
 ければならなかつたらうよ。
 それにも
 また
 女達は互いに助け合いながら従事し、それを本当に
 早く作った。
 そんな方法で彼女らはやってきたんだよ、でも
 自分の服を作るときは
 自分で作ったのさ。
 ああ！孫と、女達は本当に大変だった、絶対ね。
 男はそんなに一生懸命働かなかつたさ。
 そして、女達は
 そして
 子ども達も
 すり切れた服を着て、古い破れた毛布で眠つたのさ。
 そんな具合だったんだよ、そして女は子どもを身繕
 いさせたんだ、男が狩りに行く準備をしている一方
 でね、
 そして、男達は出かけて行き、他の者達は残された。
 彼女らは子どもの身仕度をととのえて、そして自分
 も身縫いして、それから
 彼女は外に出て行った、そして
 向こうにトボガンがあった、
 その上に
 彼女は皮のテントを円筒形に丸めて、それをもう一
 度叩いた、
 それと
 破れたマットレスの上に、くまるって眠っている小
 さな子どもは
 乗せられた。
 そして、犬はたくさんいなかったよ、それで
 たとえ彼女がそのとき赤ん坊をおぶっていても
 そうしなくちゃならなかつたのさ。
 それから
 彼女はトボガンに全部を縛りつけて、その上に子ど
 もを乗せて
 犬に引き具をつけた。
 そのようにして

トボガン
 上に皮のテントをのせた
 そしてその上に彼女が育てている数だけの子ども達
 を乗せた
 それはかなり高くなつていた、
 そりの縁のまわりはね。
 積み荷はトボガンの前と後ろに縛りつけられた。
 一本の棒が後ろから突き出ている彼女はそれにつか
 まつた。
 そして
 目的地に着いたとき
 彼女らはシャベルで雪をかいた、
 そしてそれからその上に松の大枝を置いた。それか
 ら彼女らはテントを立てる場所一面に松の大枝を置
 いた。
 そしてその後で彼女らはその土台の上にテントの柱
 を立てた。
 上には
 梁をわたした、そして、彼女らはそれにそれらの支
 柱を縛りつけた、
 このようにね。
 もう一方にも梁をのばした、そして、彼女らはそれ
 にもまた縛りつけたんだ。
 その骨組みが出来上がると、
 彼女らはそのまわり全部に皮を縛りつけた
 そのようにね。
 とうとう
 その骨組み全部を作りあげると、その縁の回りに雪
 を積み上げた、
 全部に
 底の回りにね。
 その後で
 その真ん中のところに
 かまど用に
 彼女らは両端に大きな丸太を置いた。
 外で
 彼女らは落木の根元から泥を取つた、
 そしてそれをかまどに積み重ねた。
 両端には丸太が一本ずつあつてその真ん中に
 泥を積み上げた、
 そして、上で火をつけた。
 そして上の方に
 小さな穴があつた
 でも、たとえそうでも

煙がよくたった。
それから彼女らは戸口を何かで覆った、それは暖か
だった。
それから
彼女らは松の大枝を広げて
それをテントに縛りつけた、そしてその後で
彼女らは外でまきを切って、そして
そのまきを持ってきた、
肩にかついで
たとえ彼女らが赤ん坊をおぶっていたとしてもだよ。
そして、かわいそうな赤ん坊は
背中で跳びはねていた、
たとえ泣いたとしても同じことさ。

それから
彼女はたき木を運んできて、それをとても長く切っ
た。
そこから彼女はたき木の山を作った。
こうしている間に彼女はもう子ども達を中に入れ、
そこではたき火がたかれていた、
彼女がこうしている間にもだよ。
彼女がたき木の処理をした頃には
暗くなってきていた
彼女は中に入って
食事に取りかかり出した。
それで全てさ。
ああ！孫よ、それらの哀れな女達は、彼女らはただ
ただ働いていたのさ。
男が帰ってきた
そして、彼らは時には何かをとってきた
そして、時にはそうではなかった。
そうすることによって
彼らはたえず動きまわり、決して一定の場所にとど
まらなかった。
夏も、冬も同じだった。
でも、今日
人々はただ巣にこもって眠っている動物のようにな
っている。

〔Alice が話す〕

孫よ
働くの好きではない何人かの女達、それは、家の中
にいつも煙が充満していたようなもんさ。

涙が
溢れ出てくるよ。
私の母さんの家は主要な開拓地の外にあった、そし
て、そこには煙りはなかったさ。
それから
私らがここにいたとき
Loola が
伝道者が Old Rampart から下りてきた。
彼がそこにいたかどうか知らないよ。
彼はいつも私の母さんの家にやってきたさ。
その隅っこは
人々がここに滞在するとき、私の兄さんのベット
だった、
そして、彼はそこに Hudson's Bay の毛布をおい
て、その上にきれいな寝具を用意していたよ。
彼はいつも母さんのとこにいたんだよ、
そこには煙がたたなかったからだと思うよ。
彼がここ以外のところにいたときは、煙が充満して
いて、それで彼がそこに嫌気がさしたときに、そこ
から逃げるために彼はうちにやってきたんだよ。

ああ！孫よ、そのころはとても厳しかった、そして
人々はとてもよく働いたもんさ。

孫よ、私らは彼らが撃って狩猟した食べ物で生き延
びたんだよ。
もし、私らが一定の場所にとどまっていたら、そこ
には食べ物はなかっただろうよ。

〔Alice が彼らがしていたことは狩りだけだったの
かどうか質問する〕

それで全てさ
そして女達は、
自分で事を運んでいた
そして男達も自分達でね。
ああ！孫よ、哀れな女達には
子どもがいたんだよ、
男が狩りに出かけている間にね。
そんな具合だったのさ。
それ〔皮のテント〕は、そここ縛るので
それは大仕事だったよ。
彼女が目的地に着いたとき、彼女は再びそれを全部
組み立てなければならなかった、それから男は戻っ

てくることになっていた。
私は泣きたい気持ちだったよ、そんな具合で女達は一生懸命働いたんだよ。
女達は決して命令することはできなかったのさ。

彼ら〔孤児〕が訪ねてきたとき
人々は彼らに何かを食べ物を手渡した。
誰でも何かを殺したときにいつでも
彼らに二、三片の肉を与えた、彼らはそれを持って
帰り、火で焼いて食べた。それが彼らのしていたことだよ、
それで孤児は肉を火で料理して食べたのさ、
ああ！孫よ、孤児達は厳しいときを過ごしたよ。

〔Alice は彼女に自分で何人か孤児を養ってたことがあるかどうか尋ねる〕

ああ、私は三人の孤児を養ったよ。
その当時、もしお前が孤児の世話をしたら、それは良いことをしたことになるよみんなに言ったもんさ。

私のこの息子
彼の息子は陸軍にいた〔Sam の息子 Paul〕
そして、そこに彼の息子〔Snooks〕がいる。
そして、それが彼の息子さ。
そして、また
二人の孤児の少女もいたよ。
私の息子の息子の息子、あっちの男の子も孤児になった。みんな小さかった頃に。

しかし、Jenny
と Henry はそこでは
大きいほうだった。
私らは彼らと向こうにいた、彼ら全員が一人前になるようになる迄ね、それから彼女は結婚したのさ。
彼らの母さんとかね。
彼らはずっと前孤児のようだった。
お前のじい様が彼らの世話をしたよ。
お前のじい様の叔父の子ども達がいた、
Fort Yukon に、そして、それ以前は彼らは決して私の兄さん達と離れたことはなかったけれども、
彼らのために私らは兄さんから離れて
彼は彼らの世話をした、でも、私らはただ彼らのうちの一人を連れて行っただけだった。私はただ一人の子どもを持った、そして彼は

何人かの子どもを持った。
ああ！孫よ、私は本当に長生きしているよ。
これが私の息子だった
そして、これが私の息子の子どもだったそれから、
その一人が子どもを持った
そして、その小さな少年〔Snooks〕は今子どもを持っている。

一生懸命働いたんだよ。
家にもって帰って、火で料理しただろうよ、
それは四世代になる。
私は本当に長生きしている。

〔Alice が話す〕

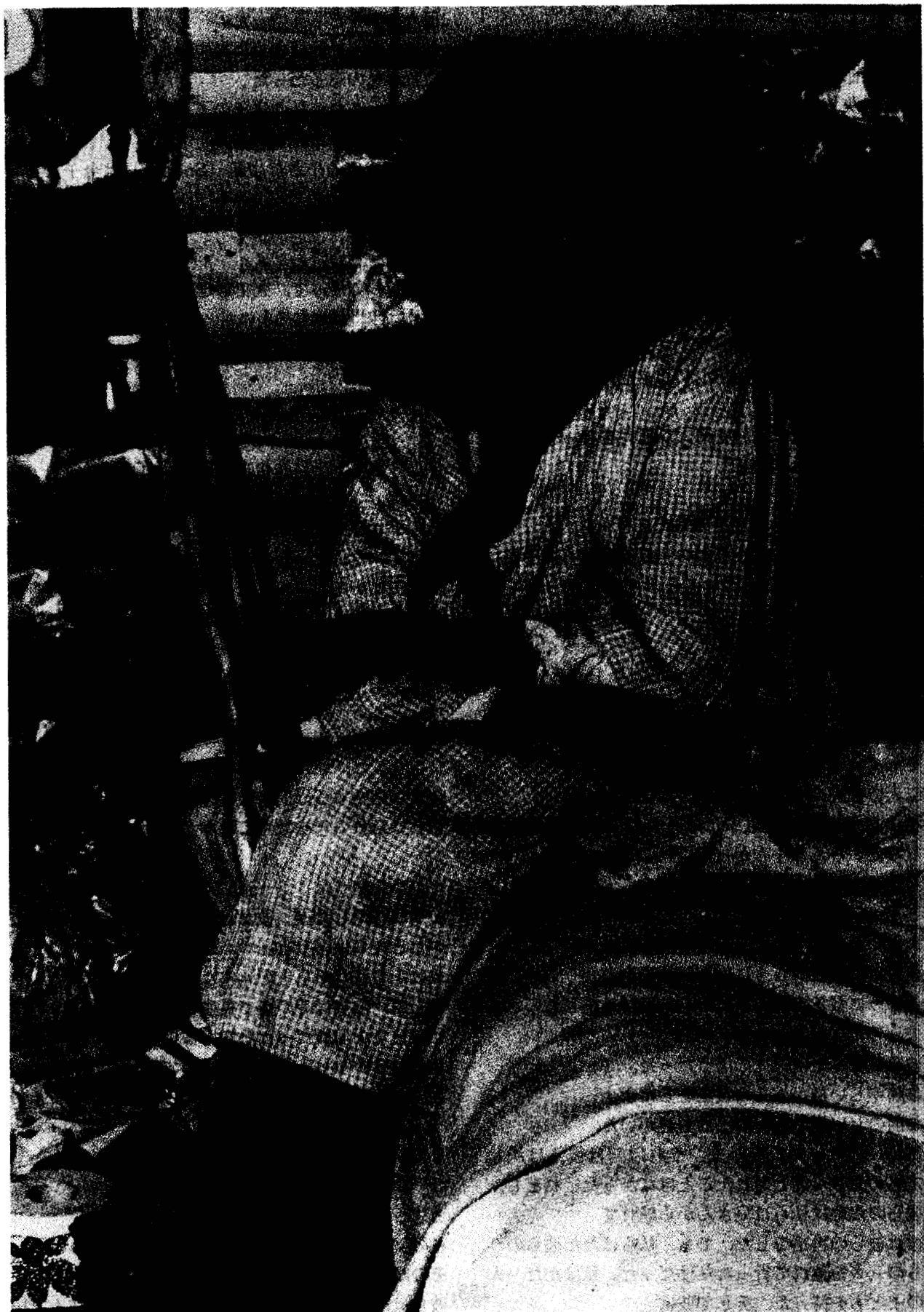
孫よ、私は本当に長生きしたようだよ。
四世代。
この小さな少年が子どもを持った、それで四世代になっている。
もし、私があの子を手に入れていたら、私は辺りを走り回る小さな少女を持つことになったよ。

〔Alice が話す〕

以前に女が一人いた
長生きした、私が言ったように。
彼女が結婚する以前に彼女は長生きしていた、でも彼女は自分の年を数えていなかった。

それから
彼女が結婚した後、彼女は長い間結婚生活を送っていたと彼らは言うよ。
それから彼女の亭主が死んだ。
そして、彼女はその後で長生きした。
私は彼女が何歳だったか知らない。
お前のじいちゃんはそれについていつも話してたのさ。

それから
ついに彼は教会で死んだ
と思うよ。
私の父さんはそれについて話したんだと思うよ。
その時から
彼女は、彼女が結婚したその場所にずっと住んでい



た、と彼は言ったのさ。
彼女の亭主が死んだ後、彼女は長生きした
教会で働きながら。
お前のじいちゃんはいつもこのように言ってたんだ
よ。

さて
私はこの場所から立ち去らないさ、
その女はいつも教会で働いていた、と彼は言った、
それで私もおなじようにしている、私はいつもね、
教会に献金しているよ。
それは私がそこで働いているのと同じことだよ。
彼がその教会を建てていたとき
時々
私は少し彼に金をやっていた。

それから
私は亡くなった人々のために何か見せものを与え
た、
お前のじい様のために
私はベルを手に入れた。
私はそれに100ドル払った。

復活祭が
やってきたとき
いつも私は教会に金も献金していたのさ。

それで
孫よ
お前のじいちゃんは

その女について話した
その人は教会にほとんど住みついでいてそこで死ん
だ、
そして、私はそれと同じことをしようとしたのさ。
そして、今もそうしているよ。

ああ！孫よ、本当に
私らの親類はよく働いた、でも、今はただ全部楽し
いことだけさ。
私らの知りさえしない、遠くにいる私らの友達が私
らにたくさんの金を送ってくれ、私らはそれで生き
延びている。
私らには身寄りがなくて貧しかったんだよ。
本当に
私が子どものときは
私の父さんが死んだときのことは憶えてないよ、そ
れから本当に母さんは一生懸命働いたけど
私らは貧しいままだった。
私は結婚した
たくましい若い男と、それでも彼は死んだ、そして
私は再び身寄りがなくなった。私はとても貧しいま
まだったろうよ、でも、外部の私の友達が私の世話
をしてしてくれている。
私の親類全部が
私の世話を非常によくしてくれていて、私はそれに
感謝しているよ。
そして私は絶え間なく
彼らのために祈ってるよ
それで貧しい人々は安心するだろうよ、それが私が
語っていることさ。

21. 兎の皮の毛布

Belle は寄り合わされて編まれた兎の皮から作られた毛布の作り方を描写しながら、寝具として人々が使っていたものを語る。

孫よ、本当に
私はそれについて全部忘れてしまったよ。
それは本当に大変だった、
そう彼らは言うよ、孫よ。
最初に私が憶えている、私が憶えているのはほんの
少しのことさ。

本当に
その
兎の皮
その兎の皮
そしてまた
カリブーの皮
それらが私らが使ったもの全てさ。

それから
 私らは毛皮の毛布を作った、
 その縁のまわりには房べりが付いていた、
 私らは房べりを作った、そして、そのまわり全部に
 房べりがまわり全部に付けられた。
 そして
 いくらか毛の失われているカリブーの皮
 それを彼らは ditr'uu と呼んでいた、
 それをマットレス用に下に置いた。
 私は枕を見たことがなかった、
 つい最近私らは枕を使い始めた。

そして
 兎の皮
 私らはまわりをぐるぐる切って
 それをかなりの大きさにした
 私らが目のまわりを円く切り込んだので

それは少し大きくなった。
 私らは外にそれをつるして
 それをよって
 もう一つのをとって
 また
 それらを一緒に編んだ、交互にね、
 それを棒切れの回りにとともたくさん巻いた
 そしてそれでそれらを細くした。
 彼らはこのようにして大きな巻き物を作った、だいたいこのくらい大ききの、と思うよ。
 それから私らは兎の毛皮を編み始めた。
 そしてついに
 私らはそれらのうちの二つを作ってしまった。
 そのぼろの毛布は松の大枝の上に置かれた
 そして
 彼らはその上で毛布にくるまりながら
 その中で眠った。

22. 家族の歴史

Chihshoo の正確な位置はまだ特定されていない。Belle の父親が亡くなった後で彼の未亡人と子ども達は彼の親戚に、彼らの一隊、あるいは拡大家族の一部として結びついた。Belle はさらに Ch'eeghwalti', この人物は彼女と彼女の母親が Fort Yukon にいたときそこで亡くなったのが、その人について語る。明らかに Belle の母親は、養子とすることによって子ども達を養おうとしていたけれども、Belle と弟にとって家族と離されることが不幸すぎたので、母親が彼らを取り戻した。Belle は豊かな人々の援助を受けながら、また、様々な親戚のところを旅して回りながら母親が、彼女の最善を尽くして子ども達の生活を補ったことを語る。ついに Belle の母親は娘を結婚させることができ、それでふたたび家族に狩人がいるようになった。ヨーロッパ人が来る前には未亡人はしばしば亡き夫との兄弟と結婚したのであった。

その間に
 私らは十分大きくなった
 たきぎ捜しをしに行くのにね、
 そして、私らはそれに一生懸命従事した。
 私らはいつも母さんを助けた、だって
 彼女は一日中兎のわなを仕掛けに行っていたからね
 それが彼女のしていたことの全てさ。

でも、私らは火を燃やし続けることができたんだ。

それで私らは自分達だけで一つの家に住んでいた、
 私らは私らの反対側に住む住人を誰も持っていなかった。

ああ！孫よ、食べ物がなかったんだよ。
 そのとき、私らの年配の女の親類が
 私らにやってくるように言ったけど、私らはそうしなかった。
 私らはただ自分の家にいただけだよ。

そんな具合だったのさ、そしてとうとう
 私は二匹連れ出した
 犬を弟と一緒にね、
 離れた森にたきぎを少し取りに行くためにね、
 そして、私は木を切ってそこに載せた。
 そして、私は家までそれをどんな風に引っ張ってきたのだろう。
 私がそうしている間、母さんはわなを見回りに出か

けていた。
 彼女は兎をとって帰ってきて、私らはそれを食べて
 生きていた、そして私の年配の女の親類も私らの世
 話をした。
 私のじい様はそのときまだ生きていた、
 Gwats'arikhyaa さ。
 そして、また私の親愛なる叔母
 私の父さんの姉さんは
 じい様よりも長生きしたと彼は言っているよ！
 そして、この女、私のばあ様はとても長生きしたの
 さ。
 そして、彼女はほんとうによく私らの世話をした、
 孫よ、
 そして
 ついに
 私らがほとんど成長したときに、下流辺りで
 Circle で彼らは金を発見したと言った。
 彼らは発見した、彼らが言うことには、そこのすぐ
 上の山でね。
 そしてその斜面に Kha'in'ee と呼ばれる場所もま
 たある、
 Circle の上にね。
 それが彼らが権利を主張する場所なのさ。
 でも、そこは氾濫した、そのとき
 私の父さんの兄さん（弟）である Maggie の父さ
 んがそこにいたということさ、
 今、彼は私の母さんの兄さんだった。
 それで Maggie の父さんの母さんと私の母さんは
 同じ父さんを持っていた、
 二人の父さんも同じだった。

それで
 その
 彼らが言う William Pilot は彼女の弟でもあった。
 そして、その姉さんも
 そして、母さんは同じ父さんを持っていた！
 それでそのとき、私の叔父は Maggie の父さんと
 William Pilot は
 私の母さんの兄さんと弟だった。
 そのとき彼らはそこに私らと一緒にいるべきだった
 その当時そこには私の母さんの兄さん（弟）が
 私らと一緒にいることになっていた、でも
 それからボートがやってきだした。
 たとえそうでも、私らは貿易の品々を見なかったよ

私らはそれをどのようにしたら見るようになったの
 だろうか？
 あそこで
 彼らが金を発見したところはたった一つの場所だっ
 た、
 それらのものがあつたのはね、彼らは働いていたか
 らね。
 ああ！孫よ、貿易の品々がやってき始めるまで長い
 時がかかったのさ。

それから私がほとんど成人したとき
 それがそのときだった、
 彼らが
 本当に
 Circle で金を掘り当てたね。

その
 夏が過ぎ、再び冬がやってきた。

その後で
 もう一つの
 夏がやってきた
 それから
 とうとう
 白人がやってきた、でも彼はここにとどまらなかつ
 た、彼はただボートで通り抜けて行っただけさ。

それから
 そのとき
 その後で
 彼らは金を発見したと言った、
 そして、ボートがやってき始めた。
 そのボートが
 まだきていなかったときに
 彼らは誰かが Ch'aadzahti' を撃ったと言った。
 それは、彼らが金を発見したときの事だった。
 その後で春がやってきた、冬が過ぎ
 春がやってきた。
 そしてその6月に私はなった
 女にね。
 そのずっと前
 その原住民の間にはまだ貿易の品物はなかった、
 私が女になったときにはね。
 私はまだ大人ではなかった

そのときにはね、
母さんが夫を選んだ、
私のために。
そのとき
彼は彼の兄さんと一緒にいて、私は
母さんと一緒だった、
魚狩りの野営地でね、
そして、それが私らがその間にしていたことの全て
さ。
さて、私らは Ft. Yukon についてさえ知らなかった。
人々はその当時、そこに集まっていなかった、
彼らは集まることができなかった
昔はね。
ずっと前、人々はただ
そこで宴会を開いた、そして、それが彼らが村を持
つ理由だった、でも、今日はその場所は大きな町と
なっている。
そんな感じだったのさ、
本当にずっと前はね。

ところで、お前の父さんは前は言っていた、
その夏に
私が女になる前に
誰かが彼を辺りに背負っていたとね、
それはお前の父さんだった、
私が話をしている、ずっと前にね。
ええと、孫よ、私はそれを憶えていなかった、それ
からお前は私に質問した、そう、今それについて話
しているのさ！
私は本当に嘘をつきたくないと思っている。

初秋に
それは私の母さんが私のために夫を選んだときだっ
た。
そして、その
冬が過ぎて
そして、その次の夏が過ぎた。
孫よ
この冬が過ぎて
雪が解けて
その冬、その秋に彼女は私のために夫を選んだ。

そのとき
私は彼の兄さん（弟）と一緒にいた。

それから
その冬が過ぎて雪が解けた
そして、6月私は女になった。
この前に
一つの冬が
過ぎて、春に私は女になった。
それが、彼らが私を結婚させたときだったよ。
私らはみんな教会に行った、
そして、私らは戻ってきたとき、彼は岸辺にテント
をたてていた。
こうしている間に
彼はカヌーを上陸させた、
彼が私と一緒にいたことがないのに、そして、私が
以前彼にあったことがないのに、話を進めて、私を
彼に与えたんだよ。

ああ！孫よ
それから
彼は彼の兄さんのところへ戻って行った。

孫よ
彼は彼の兄さんが大好きだった。
彼の兄さんは Shuman House にいて、彼も結婚し
ていた。
それから彼の息子が生まれた後で、そしてもう一人
の子どもが生まれた後で
ついに、それが私の夫が結婚したときだったんだよ
最初の子どもが生まれた
それから次の子が生まれた
それからついに
母さんが私と彼を結婚させた。
私の貧しい母さんはこのとき一生懸命がんばった、
彼女にとって全てがうまくいくようにね。

ああ、孫よ、彼は本当に
はるか上流に住んでいた、それで
私は彼を知らなかったし、彼に会ったことさえな
かったよ、彼らが彼を与えたときにはね。
私らは長い間一緒に住まなかった、それから私らは
とうとう一緒になった！

ああ！孫よ
私は白人についてさえ知らなかった。
私は他の村についてさえ知らなかった

それは
 ここ Chalkyitsik こそが
 私が大きくなったたった一つの場所だよ。
 上手の地方で
 彼らが Chihshoo と呼ぶ場所で私は生まれた
 それから
 私はここだけで養われた、それで私が
 他の村について知る機会はなかったよ。

私の父さんは Ft. Yukon で死んだ。
 私が父さんが死んだとき、父さんを知らなかった、
 私には彼の記憶さえないんだ。

ええと。それから私の母さん
 私の父さんの兄さん（弟）は
 この辺りにいた。
 その当時
 彼らはそれを Kheezhii と呼んだ、そらね。
 そして、ここの南部に私の母さんの兄さん（弟）が
 いた、
 そして、私の母さんの親戚、でも、私の父さんの親
 戚は全部この辺りにいた。
 彼らは私らを送り帰した、
 そこからこの場所にね、それで私はここにずっとい
 たのさ。

彼らが Gwats'a' Rikhyaa という人には
 四人の子どもがいた。
 それら全員が
 ここに住んでいた。
 そのとき
 他の村からの人々はいなかった
 私らはここにとどまった、そして、男達だけが
 あちらからこちらへ旅した。
 でも、私らは村から村へ旅しなかった、
 私らはただたまたま私がいたところを私らの居住地
 にしたのさ。
 そのとき
 孫よ、余り人々はいなかった
 私はちょっと思い出せないさ。

ええと
 ああ！孫よ、私はたとえそうしたくなくても彼らに
 ついて話し続けている、だってお前と男の人達が質

問し続けるからさ！

ああ！孫よ、そんな風だったのさ。
 皮のテントの底はこのようだった
 そして柱がそっちのほうに真っ直ぐ突き出ていた、
 そして、入口に皮の折り返しがあった。
 そして、てっぺんに大きな穴があった。
 冷たい松の大枝が床一面にあった、
 そして、結婚した夫婦は誰でもそこへ住んだ、
 毛のすり減った古い皮のマットレスに座った、それ
 で全てさ。
 そして、カップもポットもなかった
 まったくね

ああ！孫よ、
 私らはそれについてたくさん語ってきている、たと
 えとても大変な時代だったとしてもね。
 時代がとても大変だったので
 森にいる貧しい人々の何人かはマッチさえ持って
 いなかった、と推測するよ。
 それで、彼らは火をもっている人であれば誰から
 でも一片の燃えている木をもらった、
 そして、それを自分の家に持って帰り燃やし始めた
 のさ。
 私が語っている頃は何と厳しかったことか、
 本気で言っているんだよ。
 私の父さんの兄さん（弟）
 えーと、伝道者に
 弟がいた。
 Nathryah John と呼ばれていたよ。
 そして、お前は Stephen Choo を知っているね
 彼の母さんは
 Ben の母さんだった、そして私の父さんの姉さん
 だった。
 そして、彼は Loola の母さんの父方の叔父だった。
 彼らにはたくさんの子どもがいた。
 それから
 私の父さんの兄さん（弟） Henry Gwaysoo もま
 た
 その一人
 Vats'a' Gehtr'oo の父さん。
 そう私のばあ様の世代の女達全員が結婚した、そし
 て、また父さんの兄弟も全員ね、それが私の話して
 いることだよ。

ええと、それから私の大おばについて言えば
そのうちの一人は Loola の母さんで、私が生まれ
たとき、まだ彼女は亭主とともに生きていたよ、
前に話したようにね。彼女が死んだ、私がそこにい
たときにね
Teetsik にね。

ええと、孫よ
いたよ
本当にたくさんの人が
私の叔母の Eliza の家族も
ここに全員住んでいた。
一緒にね。

そうそのとき
そんな具合だった、そしてついに私は見た
有名な Shahnyaati' をね、
その人はそのときまだ生きていた。
2, 3年後
私が大きくなったとき
その間に彼が死んだ
あの Shahnyaati' が。

ずっと前、彼らは Ch'eeghwalti' が上流の地域に
いたと言っている。
私は彼さえも見た。
彼らが彼を Ft. Yukon に連れてきたとき、私は彼
の死をみとった一人だった。
それは私が自分で働き始めたずっと前だった。

私が Circle に住んでいたとき、何人かの人達が彼
を筏で下ろしてきた。
えーっと、孫よ、Sucker 川の河口に彼らの筏を浮
かべ、彼らは筏を使ってはるばるやってきた。
彼らははるか上流の
Old Crow から彼らは筏に乗ってやってきた。
孫よ、私が語っていることは本当に注目すべきこと
さ。
時々彼らは皮のボートを作った。
皮のボートを、ね
彼らはそれを一緒に縫い合わせた、ねばねばした脂
肪を使ってね、
彼らは隙間に詰め物をした
継ぎ目にそってね、

彼らは脂肪を使っていた
そして、それで
彼らは旅をした。
でも、実際
私は彼らがカヌーを川上で使ったことがあったのか
さえわからないよ。
えーっと、彼らは本当はカヌーが必要なかったんだ
から。
そこにはただ山がある、それでどうして彼らはカ
ヌーをつくったんだろう？

ああ！
孫よ、そのころ本当に
旅をするのは不可能だった。
ここの辺りに住んでいた人々はいつもカヌーを作っ
た。

その頃
初春に彼らはカヌーを作って、その後で
秋まで
彼らはカヌーで辺りを旅した。
彼らは辺りをカヌーで漕ぎまわり、それからその後
で彼らは歩いて旅してまわった、雪が解けるまでね。

彼らは Joe Khariidzee について語っている —
お前は彼らを知りはしない —
そして Circle の Esias —
お前は彼もまた知らない。
ええと、それから
その彼の息子
Stanley Esias —
お前は彼を知っている —
彼の父さん〔Esias〕は私の母さんの姉さん（妹）
と結婚した。
そう
私の母さんは彼にとってただ遠い親戚であっただけ
だよ。
私たちは私のその叔母と冬の間中、彼らが Van Juu
と呼ぶ場所で過ごした。
ああ！私の父さんはその秋に死んでしまった、
それから夏の始めに母さんが私らをここに連れ戻し
た。
私の弟はそのときとても小さかった。
それが、彼らが、伝道者 Loola に私を与えたとき

だった。
それから
その
夏に人々がここに私らを連れ戻し、その秋に私らは
はるか上流に行った、
Old Crow を過ぎて行くほうに
そして、ついに Porcupine の上流の丘で
雪解けがやってきたと思うよ。

ああ！孫よ
そのとき私らは旅した
皮のボートで、私らはムースを殺してボート用にそ
の皮を蓄えたのさ！
そしてその上流で
彼らは皮のボートを使った。
それから私らは下流へ出発した。

さてOld Crow には
彼らが Tl'oo K'at と呼ぶ場所があった。
私らが到着したときには、そこにはたくさんの人達
がいた。
そしてその場所は
すっかり
丸い家々に覆われていた、
そして、その隠し場にね。
そして、彼らはたくさんの獲物を殺しているよう
だった。
カリブーは移動していた
その場所を、それでそのようなことが起きたのさ。

それで
そのとき
彼らは私の哀れな母さんにたべ物を恵んでくれた、
そして、また全員にものをくれた
私らの一隊のね。
その当時、また
そこに食べ物を買っている店もあった
Kheetsik にね。
そこで、人々はカリブーの肉
グリース
脂肪
そして、カリブーの子ども
皮、そしてなめした皮
などを買った、

その当時から、彼らはそれらの品物をカナダに持っ
て行った。
そう、それから
私らは凍りつくまでその場所にいた、そして、その
とき、私の兄さんもまだ私らと一緒にいたよ。
そして
彼は私らから離れなかった。
私の兄さんの Erick は
伝道者と住んでいた
その Loola は、カナダ人の伝道者だったよ。
そして、一番上の兄さんは私らと一緒にいて
彼は足を斧で切った
それで、彼は秋が近づいてくる間、家にいなければ
ならなかった。
そして、芝の家があった
大きい芝の家がそこにいつでもね。
長はそこで
私らが生きていくためにその場所を与えてくれた。

そのとき
私らは貧しく身寄りがなかった、それで母さんは彼
女が私らにできることをした、そして、彼は私らを
助けた、そして私らはその芝の家で暮らした。
そんな理由で
その冬と春の後で
私らは父さんの兄弟と一緒にいるためにここに戻っ
てきた。
そらね、私は父さんが死んだときから後のことを話
しているよ。

それから
私らはここにとどまらなかった、そして、Shu-
man House へ行った、
そこには私の叔父達が暮らしていた
そして、そこで
私らは彼らに加わった。
それから、私らは Neets'aai 地方の北部へも上がっ
て行った。
それが私らのしたことさ、そして、私の母さんはたっ
た二匹の犬とともに、彼らの後についていったんだ
よ、母さんは道を知らなかったのにね、
彼女は私らを彼らの行くところ全部に連れて行った。
ええと、それからね、お前 Lindee'aahti' につい
て聞いている、

そのとき、母さんは彼を“私の母さんの兄さん（弟）”と呼んでいた。
彼は北の方の〔Arctic 村〕に住んでいた。
それから Neets'it Gwich'in が全部一緒に集まった。
彼ら全員がしばらくの間一緒に住んだ後で私らは離れた
そして、旅してまわった、そして母さんは弟を私が前に話した男に与えた、母さんは“叔父”と呼んでいたね。

そして、私らが去っていこうとしたとき、弟はとても泣いた
それで私の父さんの兄さん（弟）は弟と一緒に追いかけてきて、母さんに弟を返した。
それで
その後しばらくの間
私らは私の父さんの兄さん（弟）と一緒に家に戻っていて、その後私らは彼らから決して離れなかった。

23. 有名な人達；キリスト教の伝来

Belle は Ch'eeghwalti' についてさらに語る。彼は彼女が彼の最後の病床で看病した人だ。彼の息子、Roderick のように Ch'eeghwalti' は、よく知られたまじない師だった。Belle はそれから Archdeacon McDonald によって訓練されて Gwich'in の素人伝道者になった William Loola について少し語っている。William Loola は1916年に死んだ、彼の息子 Esaias Loola は長い間 Fort Yukon のリーダーであって、この本の製作に携わっていた Katherine Peter の養父であった。William Loola は Belle の父親の姉(妹)の息子であった。Belle が話題にしている宗教上の本は彼女の描写から同定することができる。讚美歌集と祈禱書の合本は、1873年に出版され Gwich'in の Dagoo (カナダの) 方言で McDonald の初めて印刷された本だった。“大きな聖書”とは1898年に出版され、以前に別々の版で発行された聖書のいろいろな編の訳を全文含んでいた。これらの本は彼らの言語の方言で書き表わされ、そして、彼らの言語の音を部分的にし表現していない書字システムで書かれていたけれども、多くのアラスカの Gwich'in の人々はそれらをよく読み学習をし、それらを基礎として読み書き能力の伝統を発達させた。Belle はどんなに (Gwich'in で) 讚美歌を歌うことが昔、大切であったかを強調している。

お前は Roderick を知っている。
彼の父さんの名前は Ch'eeghwalti' だった。
彼らは彼の父さんはまだ辺りを歩いていたと言う
Roderick が青年になったときにね。
向こうの少女の
父さんは
Peter だった
そして、Peter の父さんの
妹
ええと、彼女と私が
彼の世話をした。
Ch'eeghwalti' は偉大なまじない師だった、と彼らは言ったもんだよ、でもね、だれも彼の世話をする人はいなかった。
彼の子どもがたくさん上流にいた
そして、Old Crow に。

彼にはたくさんいる
今日、生きている子孫がね！それは Roderick の父さん
Ch'eeghwalti' さ。
さて、それから
彼が病気だったとき、私は彼を見た
彼らが彼をここにボートで連れてきたときにね。
そのときから私は彼の世話を始めた
彼が死ぬまでね、私は以前に彼に会ったことは一度もなかった。
彼は上流のほうに住んでいた、それだからさ。
そう
それが私が彼を見た初めてのときだったのさ。
それで、私は彼について語るものは何もないよ。
私は彼の死の床をみとった、それだけさ。
さて、向こうに

名前を Mae という Roderick の子どもがいたんだよ。
もう一人は Laura と名づけられた。
そして、一人の白人がいた
Schafer という名前のね。
そして、その Schafer は Laura と結婚した。
その結婚後
生まれた〔聞き取り不能〕の母さんがね。
それからこの Mae は
息子をもうけた
Richard Martin
その一人
そして、その Margaret には七人の子どもがいた！
七人の子どもがいた、そして彼らは全員男の子だったよ。

そして、それらの
他の人達も、たくさん子どもを持つだろうと私は
絶対思うよ、彼らは本当に
たくさんだろう、そう思う。
Old Crow のあそこでもね。
彼らの子どもの一人の娘が Old Crow に住んでいた
でも、彼女は死んだ、彼女の娘はまだ生きていと
聞いているよ。
その亭主は
はるか向こうの村の出身だった
そして、私は彼の世話をしただけだよ、そう、私が
知っているのはそれですべてさ。

彼らは彼がただ天国のことだけ語っていたと言う。
それから、彼は仰むけになってねて、人々を見上げ
たり、見下ろしたりした、笑いながら、
彼はそうやって、たとえ息をしにくくなっているても
彼はいつも話していた
かなりはっきりと。
女達はいつも
世話をした
病人のね。

孫よ、彼は本当に夢をもつ人（「まじない師」とい
うこと）だった。
でも、彼は言った“私はまじないで悪いことはしな
かった”
そして、彼は私について語った。
彼の父さんだけが、ほとんど—

彼の父さんが彼の怒りをかったのではないかと思う
しかしながら
彼はただ言った“ほとんど”
しかしながら
“私は決してそれで悪いことはしなかった”と彼は
言った。
彼はよいまじない師だったよ。
誰でも
まじない師であれば
当然すべき事をする
よこしまなことはしない、夢は彼の上にもみただあ
る。
私が司祭に尋ねたとき
彼は大丈夫だと言った
人が〔まじない的な〕夢を見ることは。
もし、彼の夢が
よいものなら、夢が彼の上にあるとき
それが彼が私に語ったことだった。
そんな具合なのさ
私らの貧しい親愛なる Roderick はね、そう彼らは
言うよ。

彼の父さんについて言えば
私らが彼について語らないことはよいことである。
さて、〔Loola 一家について言えば〕、
私のすべての人生で彼らと一緒にいたことは一度も
ない。
私が子どものとき、彼らは彼に私をやることになっ
ていた、でも、私は拒否したよ。

彼の妻は、ところで
そっちの出身だった、彼らは彼女が Shahnyaati'
の妹の William Loola と結婚した娘だといってる
よ。
私は一度も見たことがなかったけれどもね。彼はこ
の辺りに住んでいた、でも、そのとき私は他の方向
に住んでいて、それだから私ははるか遠くにいた。
私は決して親愛なる父さんの家族に会ったことはな
かった。

彼が子どもだったときから
彼は伝道者だった、とそう彼らは言う。
それは上流だった、カナダを越えた。
それから、彼はここに下りてきた、と彼らは言う。

その場所〔Rampart〕が移転されたときにね。
こららでは
彼らは彼を決して牧師にはしなかった、そらね。

ああ！彼は長い間伝道者だった。
彼はとても年をとってしまったよ。

私の貧しい親愛なる父さんは本当に
長く生きていた、でも、私は彼を見たことがなかつた。
私が子どものとき、私は上流にいた
でも、それから
私は夫を与えられたとき
私は魚狩りの野営と呼ばれた所にいた。
それが私からが滞在した唯一の場所さ。
ついに、子どもが生まれて、あたりを歩き出した。
それから私は下りて行った
そっちの方へ。

でも、私は本当に
私は家族のところへは決して戻らなかった、そして、
彼らは全員死んだよ。
Loola は、ところで、私の父さんの姉さんの息子だつた、と彼は言っている、
そして、彼は一番年上だった。

彼は
彼の母さんの家族とそのとき過ごしていた、でも
本がなかった
私が語っているその時代にはね。
その本は後で到来したよ。
この位の大きさの本が一冊あった、
あの
讚美歌集
祈禱書
そして、聖書が
小さな本一冊に合わされていた。

それが最初に到来した
Neil
Old Crow の上流の、私の兄さんの Neil は
まだ、生きてると聞いている、彼の父さんは“年
寄り”という名前の
伝道者だった、

本名を McDonald と言うよ。
彼らは彼がそれらの本を全部制作したと言う、
そして、その
大きな聖書さえね。
孫よ
彼らは本当に
とても崇高な働きをした、そう彼らは言うよ。
それはそんなに前のことじゃなかった
それらの本がやってきたのはね。
そして、その本が新しかったとき、私の父さんの兄
さん（弟）が上流に行った、それからその建物が移
転されたとき、彼はこっち側にとどまった。
それが Loola だった
私らは時々彼を目にするだけだった。
でも、私が子どものとき、彼は彼の親類と一緒にこ
こに滞在していただけだった。
そして、私が成長したとき
そのときにボートが往来し始め、兄さんが船長に
なった！
それから私は魚狩りの野営にとどまった、
そこには
私の親愛なるなつかしい叔父〔母さんの
兄さん（弟）〕と彼の家族も住んでいた。

そして、また
Ch'eelil の父さんの家族がいた
亭主とたくさん子ども達、そのとき、そこにとど
まっていた。
結婚していた人々の中に何人か年とった人がいた
私は Ch'eelil の父さんについて話している。
つまり、Ch'eelil の母さんと父さん
そう、それから、それらが私らが住んだ唯一つの場
所だった。
そして、その下、Beaver の上に White Eye があつた、
お前は彼について聞いているはずだ—彼の名前は
White Eye だった。
彼の家の敷地で
一つの町が育つた。
私は妊娠していた
そして、それが私がそれを見たときだった。
はるか遠くに
丘の上に彼らが K'iidootin と呼ぶ場所があつた、
そして、そこを通過して私らは旅をし、それから
私らは戻つた

Fish Camp にね。
 私はその場所を去ろうとしなかった。
 私の子どもが到着した後で
 とうとうほんのしばらくの間、
 と私には思われ、私らは私の兄さん達から離れた、
 でも
 私らはふたたび彼らに決して会うことはなかった、
 私の一番上の兄さんが死にそうで、彼らが私を彼に
 合わせに連れ戻したときを除いてはね。

さて、私らはここに滞在した
 亭主と私
 亭主の希望によってさ、私は自分がこのようになる
 だろうとは考えていなかった、でも、私は唯この場
 所だけに釘付けになっているよ。
 それは私らが伝道者を知った初めてのときだった、
 と思うよ、
 ああ！孫よ
 最近は教えてくれる人は誰もいない。
 その伝道者は本当に一生懸命働いたもんさ。
 毎日
 丸一日、一週間、六日できえ、彼らは毎日説教した！
 彼らは日曜日に二度説教した。
 そして、それに加えて、彼らは私らを教えた。
 孫よ
 彼らは低い声で語った
 内緒で。
 そして、彼らはまたとても大きな声で歌った。
 それで、私らは互いに教え合った、それから、互い
 に教え合いながら私らは一緒に歌った。

ここには、今
 彼らはいると言う
 先生が、でも
 私らは唯それらを聞くだけ
 そして、本を見るだけ
 そして、そんなようなことだけが私らのやっている
 全てさ。
 それから彼らは人々にあまり書くことを教えなかつ
 た、そらね、
 それは天国で無駄なものだった。
 あそこで
 教会で彼らは天国について教えた。
 本当は
 最初は人々はとても熱心に学んだ、でも、それらを
 習った
 年老いた人達は全員死んだ。
 少し習った人達は死に絶えている。
 今日
 私らはまったくその本を学んでいない。
 そんなことでどうしてわかるんだろう？
 孫よ
 それが今日の姿なのさ
 それらの家々では、
 彼らは決して讃美歌を歌わない、
 それは私らが喜ばしい音を作り出すことのできる唯
 一つの方法さ
 本当に、本当に。
 私らは家で当然歌うべきなのさ、
 それは本当によいことだろうよ。

24. 宗教；魚のわな；飛行機の飛来；どのように若者は妻を手に入れたか

Belle はキリスト教が彼女の生活の中でどんなに大切かについて語っている。昔を思い出して、彼女は柳と松の根から編まれた魚のわなの使用について、またどのように最終的に網が用いられるようになったかを語る。彼女が思い起こしているもう一つ新しいことは飛行機である。この出来事は1925年に起きた。それは Fort Yukon でのインフルエンザの流行と Burke, Rowe と John Fredson の活動についての Belle の話から私たちはそれについてわかる。この説明の終わりで、Belle はちょっと伝統的な話を語る。その話のポイントは老人が彼の養子の息子をかわいい娘とでなく、彼の、そして家族の世話をよくするだろう働き者のお針子と結婚させたということである。

ああ！孫よ
 本当に

本当に私はただ
 いつも聖書にすがりついている

そして、私自身もそうさ。
おそらく神は私らを待っている
「私はなぜ誰もそんなに長い間音をたてないのかと
思う」、と彼は言う！
もし私らが歌えば
音を出せば
天国で
神は私らを聞くことだろう。
それが伝道者が教えたことさ
そして、伝道者に共鳴するたくさんの人達がいた、
それが多くの叫びということだよ。

それから
私らがそれについて多くのことを見たとき、私らは
それについてさらに習った
それは本当にとても新しいことで私らにとって興味
あることだった。
聖書それ自体は
それについて私らが語り掛ける人のようだった。
私らが一生懸命それを捜し求めれば
それらはよいことだろう、おそらく。

今
神は生きている
神は現存している
神、神自身は、彼らは言う、戻ってくるだろうと、
神は天から戻ってくるだろうと彼は言う。
そして、本当に
神について習った人たち
神は連れていこう、ただ
神を知っているそれらの人々を
そのようなことを習った人を、彼は彼らを捕まえる
だろう、そして、彼らを連れてその場所へ行くだろ
う、
そういうことなのさ。
信じよ、信じよ、本当に、本当に、時は短い。
聖書が起きるだろうと語ることは
全て現在起きている。

本当に私ら女はとても貧しい
私らは本当に貧しい。

私は貧しかったけれども祝福されている
そして私が主のために働き出したとき
それは私にとってとてもよいことだった。

亭主は
私を教会に残した、そして私は奉仕した。

Sarah Salmon は私を援助した、そして
ここ私家で私も聖書を教えた。
彼は彼らが彼に与えた俗人の読書の文書を持ってい
た、でも、その後で彼はへこたれた。
それでその方法で何かが私に起こった。
私は一生懸命試みた、でも、それからはもう見るこ
とができなかった。

あそこのどこかに私も司祭 Powe の写真をもって
いる
ああ！
彼らは本当に私と彼と彼の妻が好きだった。
私はほんの時々彼らを見た。
私はずっと町の外にいた、私は Fort Yukon にい
なかった。
彼らは私を時々見た。
彼は私が辺りにいる間に任じられた。
彼は主教になった。

〔彼らは Burke 夫人やその家族、そして古い写真
について話した〕

下に
Yokon あたりに
この位の大きさの砂州があった、ね。
その真ん中に
あそこに
彼らは作った
尖った柱を、
それは彼らによって渡された、それから、彼らは松
の根を土から抜いた
彼らはその根を取り出し、それで
彼らは
本当に長くて
細いものを編んだ、それでその中は長かった、そし
て
それから、彼らは根の網細工を作った、両側から延
ばしながらね、そして、上流に上ってきた鮭はどれ
でもその中に入って行った。
鮭がその中へさ。
すぐその、ほんの小川に彼らは彼らの魚のわなを

仕掛けた。
そこで、そのようにわなを作ったのさ。
それは、はるかそっちの方に伸びている。

そして
それには丸い入口が付いていた
そして、その中には小さな白色魚が
泳いでいた。
その底に私らはかばの木の皮を置いた。
そして
彼らは座るものを作った、彼らはそれをとても強力
にした。
そして、それでそこに魚を追い立てた
非常にたくさんいた
それらはピチピチとはね音を立てた。
魚のわなをもっていない人達は
すくい網を作った
口の回りに柳の枠が付いた丸いすくい網、長く作っ
た。
そして、魚はうまくその中に入った。
魚のわなが横切っているところにすくい網があって、
それが魚が入ってくるところだった。
そして、魚が入っているのを見ると
彼らはその網をほどき、魚を取り出した。
そして、そんな具合にその当時、人々は鮭を捕まえて
いたのさ、
魚網がなかったとき。
私らはどんな風に魚網を手にいれたのだろうか？

そして、テントについて言えば、ほんの二、三人の
人々だけがテントを持っていた、そして
彼らはそれらのテントを長い間持っているのさ（煙
で）黒くなっていた。
そんな感じだったのさ、そして、とうとう私らは魚
網を得て、その後そんなに長くかからずに
Fishwheels さえ手に入れた、その後すぐ私らは初
めて既製の魚網を得た。
彼らは網を編み
そのてっぺんの縁にそって一つのラインを走らせ、
そこから編んだ
一部の人だけがそれらを待った。
彼ら全部ではなくてね。

そして

夏に
そして、冬に彼らは兎をわなにかけた、そして、
時々合間に小川に魚のわなをかけた。
そんな感じだったよ。
ああ、孫よ、時は厳しかった。
彼らは魚網を作り、それを森の外で使って、生計を
立てた
彼らは本当に互いに助け合っていた。
ほかには何もなかった。
彼らは唯あるものだけで間に合わせた。
おお！孫よ、本当に厳しい時代だったよ。

孫よ
本当に
私らは飛行機が飛んでこようとは思わなかった。
裕福な男が
操縦していた、と彼らは言う。
そのとき
その
医者 Burke,
彼と
Bishop Rowe
そして
John Fredson 三人は人々の世話をしていた。
村を廻り、大きい丸い入れ物にスープを入れて持ち
ながら。

その間、人々は
本当に次々に死んだ。そして、彼らがよくなり出し
たとき
飛行機がやってくるだろうと言われた。
病気のたくさんの人々が毛布にくるまって外に出て
きた。
私もその中にいた。
それはこのあたりを飛んでいた
学校のすぐ後ろを—
飛行機は大きなとんぼのようだった。
ああ！孫よ、彼らはそれが Porcupine に着陸する
ことになっていると言った。
大型ボートで運搬路を越えて
私らは全員そこへ行った。
重い病気の人でさえそこにいったんだよ。
飛行機があんなに飛び回るなんて本当に驚き！
それで、私もそこに行った

私でさえね。
それから
彼らは私らを乗せ始めた。
私らはそれを試み始めた。
私らはまた支払った。
おお！お前のじい様はいつもほんの少し金を持っていた。
Nena Peterson と私はその飛行機に乗る準備をした。
ああ！孫よ、彼は私らを彼らが17マイルと呼ぶところまで連れて行った。
本当に面白かったよ。
ああ！孫よ、それから人々は戻り、飛行機に乗って再びでかけて行った。
彼らは私らにそれになれることを教えた
のることになれることを。
さて、それは
そんなに前のことではなかった
飛行機が飛び始めて、ここに飛んできはじめたのはね。

私はいつでも川の下流で起こったことは見ていなかった。
私らは上流に住んでいた。

ああ！孫よ
私は自分が何を信じているのか知らない。
ずっと前に私の亭主が死んだ
医者 Burke はそこで説教した、そして、そのときから私らは祈りはじめた。
そのときから、私らはいつでも祈ろうとした。
それで全てさ。
いまや私の亭主は行ってしまった、それで私はそうしているのさ。
私は祈る、それが私のすること全てさ。
彼が任じられる前に私らは祈り始めた。
それから
Bishop Rowe が私らに堅信式を施した
それが全てさ。
そして、私らはただ森の中にいた、それが私らの流儀だった。
私らはずっと前から祈りを始めた。

それから
私らは祈った、そして私らが“主よ”と言うとき、

彼は私らが祈ることを欲し、そして、それが私らがしたことさ、そして、それが真実、そして彼は聞かなければならないただ一人の人。
そして、もし私らが心からそうしないとすればそれはよいことではない。
人々がそこに村をかまえる前でさえ、私らはそれについて聞いていた。
Fort Yukon の人々がよく集まったとき
彼らは交互に後ろへ前へ行った、そして、私らは聞いた、それが全てさ。
地球が現存して以来、彼らはこの辺りに全て居留地を持ち続けている。
Nenana で
そして、Tanana で、それらの全てが私の時代の前のことさ、そんな具合に彼らはずっと前から暮らしていた。

私は彼の仕事について多くはわからない。
そんなにずっと前からではないが白人がその町を始めた
と私は聞いていた。

それ以前は
ただ現地の人達だけだった。

私の生まれる前は、彼らは互いに訪問し合ったと聞いている。
言ったように、私はそれについて多くは知らない。

人々は決して結婚しなかった。
いた
人々が語る年老いた男が。
昔々、一人の年老いた男が若者を養っていた。
そして
その美男子の若者は
彼と一緒に過ごしていた。
さて、彼は息子のために女を手に入れることになっていた。
二人はその朝、小型そりを引っ張って去って行った。
彼はそのとき犬を持っていなかったからさ
若々しい女と青年は彼らの持ち物を小型そりにのせて引きずっていた。
さて、彼らは去って行った、そして、途中で彼は小

さな丸いテントを立て、そして息子を待った。
 そのとき、彼は息子の妻を得ることになっていた。
 ああ！そのみばえのよい女は去った
 彼女らはみんな去った。
 それから彼らのほうに現れた
 一人の醜い少女が
 彼女の足先の付いた毛皮のズボンをはき、
 そして、とても白くて柔毛質の毛皮のパーカーを着
 ていた。

手には房べりの付いた毛皮の手袋、
 そして
 彼女は毛皮の編み込まれた紐の付いた服を積んだそ
 りを引きずっていた
 そして、彼女は
 通りすぎた。
 それがその人だった。
 彼が息子のために得たね。

25. もう一つの結婚話；昔の皿と料理

Belle はもう一つの伝統的な話を始めている。今度は老人がその若者の刻む能力をテストすることによっ
 てどのように養女のために夫を得たかについてである。ふたたび美男子ではなく働き者が勝利を得る。彼女
 はかばの木製の皿について語り、それから、赤く熱い石を水の中に入れることにより、どのように食べ物
 が木の入れ物でゆでられたかを述べる。

さて、誰かが結婚させた
 貧しくて、痩せこけた小さな娘と。
 このことは私らの気分を確かに害した。

後ほど
 いくらか経ってから、彼女は大きな家族のテントを
 たてた
 その中は暖かだった
 そして彼女は古いぼろぼろの服でそこにいて暖かく
 していたと思われる。

それから
 それから
 彼女は働き始めた。
 結果的にたくさんの子どもがいた
 それからその子ども達はみんな大きくなった。
 その後で
 彼はそれについて語り始めた、この男は自分の結婚
 について語った。
 ああ！
 近くを歩いているみばえのよい女たちがいた、私は
 そのときその一人が欲しかった、でも親父は同意し
 なかった。
 見るのにさえあたわなない貧しい小さな女がいた、
 そして、父は彼女を杖で呼び止めた、それは私を内
 心泣きたくさせた、と彼は言った。

でも、実は女は私を裕福な男にするのだった
 そのときはわからなかったけれども、と、
 彼は言った。誰かが二人を結婚させた、
 そんなことが起こっていたのさ！
 いや、どの伝道者が彼らを結婚させることになっ
 ていたというのか？

そんなようではなかった
 人々は結婚について知らなかった。
 ある男がまた二人の娘を養っていた、彼は彼女らの
 母さんと結婚したんだと思うね。
 二人の若々しい女がいた、そして、彼は二人を彼の
 反対側に住まわせていた。
 彼は二人のために小さな芝の家を立てた。
 とうとう
 彼らは作った
 そりを
 そして、それらの間に彼は置いた
 それを支える小さな棒切れをね、
 木の泥でね。
 そして、それらをきれいにする人は誰でも娘らと結
 婚することになっていた。
 そのとき、みばえのよい若者達が迎りにやってきた
 小さなナイフを持った、
 あそこにあるようなのを、彼らはそれらを首の回り
 に下げている鞆に入れていた。

そして、彼らはそれを取り出して薄い枝を刻み始めた。

ああ！彼らは唯ごちなく急いで切って、それからそれを横たえ、外に出て行った。

とうとう貧しい醜い男が現れた。

ああ！

あわれなその男は入ってきて、そして、娘達の間座り、その棒切れを拾いあげた、ということさ。

ああ！孫よ、彼は刻んだ

親父がその彼を見ている時にね。

そのへやの反対側で、彼はそれを注意深く刻んだ

そして、すばらしく細いその棒切れを作った。

彼がゆっくりと立ち上がり、出て行こうとしたとき

親父は杖で彼を止めた。

それから彼は彼女と結婚したのさ！

彼は戻って、彼のぼろぼろの服を持ってきた

それで全てさ。

それが私らがよくやった唯一の方法さ。

私らは天国について何も知らなかったのさ。

ああ！孫よ、金が発見されたのはそんなに前のことじゃないと彼らは言う、

そんなに前じゃないのさ。

その後すぐに品物が出回り始めた。

皿があった。

すず製の茶碗と皿があった、カナダからのね

そして、やかん

私はカナダ人のやかんを持っている、そこらにあるけどね

そして、それで全てさ。

そのやかんは

銅で中くらいの大きさのやかんさ

そうさ。

そして、また

フォークと

ナイフ

そして、カナダからの屠殺用のナイフがかなり出回っている。

私らは木を使って働いた、そして

ある種類のシャベルを使ってね。

かばの木の皮の皿について言えば

彼らはそれをかなり小さく使って

それから、それを固定させた

根でね。

彼らは道具を用いてそれを行った、持っていたのは大きな千枚通しだけだったけど、

そのとき、彼らは針を持っていなかった。

それから

彼らは作った

かばの木の皿を、そして

私はどんな具合にするのか知っているよ。

そして

彼らは少し食べ物を作るときには、彼らはこの大きさにかばの木の皮の皿を作ったんだよ。

それから

彼らはそれを乾かして

腱でその端の回りを縫った、そして、それ用のカバーを作った。

それが彼らがしていたことさ。

それから

彼らはまた作った

ある方法で根からバスケットをね。

私が歩きはじめたとき

彼らはこの辺りでかばの木の皮のバスケットをたくさん作っていた。

私は彼らがそれらを外部に持ち出してさえいたと思う。

David できえ

かばの木の皮のバスケットを作っていたよ。

そして、彼らはそれをよい値で売った。

孫よ、ずっと前は

彼らは自分達でかばの木の皮の皿を作っていたと思うのさ。

彼らはそれを掘り出した

かばの木の

切り株を

その木から

そして、大きなスプーンを作ったらしい。

彼らはこのようなスプーンを作った

彼らは丸くもした

彼らが今それらを作っているように。

私は彼らがそれを水を飲むように使ったと思うよ。

そして、また

ずっと前に、丸い入れ物がなかったとき

私らは石で水を沸かしていたと彼らは言う。
 彼らは太い木を彫ったと思うよ。
 木の塊で
 だいたいこの大きさの、彼らはその中を刻んだ、そ
 して、そこに大きな内側を作った。
 それから外で
 彼らはずいぶんたくさんの小石を集めた。
 それから、彼らが料理するときには、大きな火を起
 こしてその上にそれらの石を置いた。
 それから
 彼らは丸い入れものに注いだ
 彼らが沸かすことになっている水をね。
 その中に
 彼らはゆでようとする肉を入れた。
 その大きく彫られた木の中にね。
 そのとき、火は本当に強くなり、それで石はすぐ赤
 熱になった。
 それから、彼らはその中に石を入れて
 ああ！彼らはゆでる間、その食べ物をかき回し続け
 た
 それをゆでるときはね。

彼らはそれをほっとくことは絶対しなかった
 その石が冷めるまで
 肉は長い間ゆでられた。
 ああ！孫よ、肉はそのなかでよく料理された、そう
 彼は言う。
 後になって、丸い入れ物で料理したときの薄いスー
 プは好まれなかったが、石で料理したときの薄い
 スープは本当によい味だったと彼らは言っている。
 肉は本当においしくその中で料理された。
 そうやっていたんだよ。
 丸い入れ物はなかった。
 彼らは火で石を暖めた
 肉の準備をする間、それから
 木の入れ物に
 彼らは食べ物を入れて、そこに熱くなった石を投げ
 入れた
 そして、肉はただ
 長い間ゆでられた。
 それが彼らがしていたことについて私の知っている
 全てだよ。

26. 昔の生活；森の人々；宗教の伝来

放浪の狩りの生活について少し語った後で、Belle は再び人々が如何に昔は近代と比べて深く死を嘆いた
 かを話題にする。彼女はお茶や円い入れ物のような品物が始めて到来したとき、またはじめての交易所にど
 のように人々が反応したかを語る。彼女がかって雑木林の人について聞いた話を語り、自然や恐ろしい超自
 然の存在についてあれこれと考える。彼女は彼女の生活におけるキリスト教の影響について語り、彼女の地
 方で働いていた McDonald と現地の俗人の伝道者を話題にする。

私は Old Crow の辺りにもいた。
 私はそっちの側にもいた。
 私は Circle の辺りにもいた。
 私は三度下流へ行った。
 Fairbanks へ
 もまた
 私はその辺りに 2, 3 度行った、
 それで全てさ。
 そして、Fish Camp の辺りで
 私らは狩りをして生計を立てた、それで全てさ。
 それで全てさ。
 それから、私は子どもの頃、私ははるか上の上流に
 行った

そっちの川の、それで全てさ。
 私はとてもたくさんの場所には行っていない、私は
 ただここにいるのさ。

私は決してそこでじゃこう鼠の狩りをしなかった、
 私は単にそこにいただけだよ。

私は二度そこへ行っているが
 私はその種の仕事はしなかった
 私の亭主だけがそうしていたよ。

たとえ私が妊娠していたとしても、私は前に生んだ
 ほかの子どもをおぶっていた。

〔Alice : 妊娠しても彼女は働いていた〕

夫は妻を助けなかった。

たとえ

背中の子どもが

本当にひどく泣こうともね。

さて

彼らがまさに移動しようとしたとき、彼らは全てを束ねて、子どもの身繕いをさせて、全てをそりに縛りつけた、二匹の犬とともに、時には三匹の。

時にはたった一匹の犬。

母さんは

生涯に全部で二匹の犬を手に入れた。

ある人々は三匹の

そして、ある人は四匹。

孫よ、女達は本当によく働いた。

さて、

お前の母さんは

背中にお前をしょっていた、妊娠していたのに、彼女はお前をしょい続けて、それで怪我をした、ね。

そのころでさえ、彼女らはまだそうし続けていた。女らはずっと子どもをしょっていた、それで全てさ、私らはそうしたもんさ、

しかし、ごく最近私はもう人々が子どもをしょっているのを見かけないね。

私らが子どもをおぶった時、背中には物があった、椅子のようなね、そして、子どもはそこに後ろ向きに座った、そして、そんな方法で子ども連れて歩いた。

彼らは物を運んだ

犬につけて。

ああ！孫よ、私は本当にそれについて多くは知らないよ。

私は唯ここにただけで、カヌーを使う以外にはどこへも出かけて行かなかった、

それで全てさ。

私らは決してその地方を旅しなかったし

私らはここに家をつくっていただけさ

ちょうど今のようにね。

でも

私らは秋がやってくるまで旅して回った。

〔Alice が質問した〕

ああ！孫よ、人々は互いにとても尊敬しあってたもんだよ。

見知らぬ人がやってきたとき、彼らはその人に対して愛情を示した。

そのとき

誰でもが客の回りに集まってきた。

ああ！孫よ、私は本当にそれについて知らないよ。

時には、彼らは一つの場所に滞在した、

そして時には、彼らはあちらこちらと移動した冬の間、トボガンで、それで全てさ。

ところで

彼らが食物で運送することになっているときだけ、彼らは犬を使った。

彼らがその場所へ行くことになっているときだけが犬を使う唯一のときだった。

そして、

彼女らも荷物を運んだ。

彼女は赤ん坊をおぶっていたことだろう、でも、たとえそうでもその下につけて荷物も運んだ

そんな具合に彼女らはしていたのさ。

〔Alice が質問した〕

ああ！

人々は互いに尊敬しあった、孫よ。

その当時、誰かがけがしたとき

たとえ彼らはその人に関係のない人でも、人々は集まって、悲しんだもんださ。

余り聞かなかった

死について

私が小さかったときには。

いくらか前に二つの伝染病が発生して、そのときから人々が順々に死にだした。

ああ！人々はそのとき唯災難に見舞われただけだったらしい。

ともかく彼らは明らかに誰かが傷ついたというニュースを聞いて、泣いたのさ。

そして、死の知らせがあったときは彼らはとても苦しんだ。

でも、それから伝道者は人々が死をととても嘆き悲しむことを防いだ、彼らは防いだ

彼らがそうすることから

そして人々は

もうそうしていない、彼らはひどく嘆き苦しむことができない。

そのとき、彼らは火を起こして、その火の中にさえ入って行くことになっていた、そう言われている。

私はそれを見たことはない。

でも、私は見たよ

悪い知らせが

彼らにもたらせられたときに、どのように彼らみんながそれらを嘆くのかね。

私はもしそれが今日起こったならどんな具合になるのかと思うよ。

彼らは他の人でもずい分思いやったんだよ。

〔Alice が質問した〕

それから

彼らが狩りをしていたとき

彼らがそうしていたとき

女はたくさん縫い物をしたよ、

その当時、日々たくさんの縫い物をした。

彼女らはたくさんしなければならぬ仕事をもって

いた、そして、亭主が留守のとき

彼女らは縫い物をしたし、皮をなめしていた。

それも

そして、また

おお、孫よ

私らは犬の世話もした。

私らは犬の世話もした、

そして、私らはどのくらいの間、彼らがでかけていた予定かわかっていた。

そして、彼らが

家に戻るようになっていたそのときに

私らは彼らのための食べ物を準備した。

そして、彼らが何か殺したとき、女はたとえ赤ん坊をおぶっていても、肉を取りに行った、

女は肉を取りに行った、それが彼女のしたことだよ

彼女は犬のこり〔dog pack〕をつかった、彼女が赤ん坊をおぶっているときにね、そして、その犬のこりに肉を入れた、

そんな具合に彼女は犬を使ったのさ。

ああ！孫よ

女の亭主が留守のとき

彼女はよく働いた。

彼女は彼のいない時にたくさんの仕事をした。

彼女は火を燃やし続け、また、まきと水をたくさん供給し続けた。

こうしている間に

彼女は縫い物をした、そして、彼女が皮なめしをしていたのは、夫の留守なのさ、

彼女は皮の準備をした、それが彼女のしていたことだよ。

女達はじっとしてはいなかった。

ああ！孫よ

私はただ本当に正しく話を語っている。

Ben が生きていたとき彼はいつもおおげさに言っていた。

でも、私はあつた通りに話をしている。

〔Alice が質問した〕

私はそれについて多くは知らない、私はよく知らないときにはそれについて語りたくないもんだよ。

さて、そのとき

私が結婚して、そこを一人で立ち去ったよ、ちょうど今のようにね、そんな具合だったのさ。

私は彼らがしていることを知らなかった。

当時、人々は人を訪問するのに多くの時間をさかなかつた。

彼らは多くは訪れなかつた、彼はただ狩りをした、それが全てだよ。

私らは毛皮のためにも狩りはしなかつた。

私らは何のために狩りをしたのか？

私らは物を買うことを知らなかった。

ついに私の人生の間に

私らは毛皮のために狩りをし始めたと思う。

それ以前

彼らはその上流でそうしていた、そして

誰かが毛皮を買った、そして、彼らは革ぐつを買っ

た、
彼らはカリブーの皮を買った
そして、毛の付いてカリブーの皮
そして、乾燥した肉も
そして、彼らのつくった獣脂。
それらは貿易商が買ったものだった、
それから、彼らはそれらを売った。

それから
それは
土曜日だった
みんな
人々は
店に行って
肉と獣脂を買ったんだよ
彼らはそれを交換した。
それはかなり目新しく目立ったことだった。
そして、貧しい人々は森からただカリブーの子の皮
をもって来た、それで全てさ。
そして、白人にとってここに色々なものを全部もっ
て来ることは本当に大変なことだった。
彼らはここからいかにしたらたくさんものを持って
てくることができたのだろうか？
彼らはただ麻袋に入れてその仕事を全部やってのけ
た。
そんな具合だったのさ。
その当時はとても厳しかった。
彼らは少し持っていた
でも、彼らは決してたくさん持ってくることができ
なかった。
彼らは一日の交換に十分な食物を店に持っていた、
そう彼は言う。

〔Alice が質問した〕

そのとき
彼らは彼らの居留地のある Ft. Yukon の下流で銅
の丸い入れ物を得た、ね。
それは私らが店を持つ前のことだった。

それから
そのころから、みんなが持っていた中くらいの銅の
丸い入れ物が到来した。
それらはそんなに大きくなかった、と彼らは言う。

その中で
彼らは少しの肉をゆでた
それから、彼らはその薄いスープを飲んだ。
時には彼らは喉が乾いていて、そのとき、普通の水
を飲んだかも知れない。
お茶はなかった。
森の中にある何かだけだった、そのような何か。
それから
彼らは小さな動物を捕まえたけれども
時には、彼らはそれを火で料理した
彼らは端の尖った棒を作った、彼らが jol と呼ぶや
つをね
そして、それで彼らは物をあぶった。
時々私らはそうした。
ちょうどそのようにね。
そして、彼らが常食としていた食べ物は何でもその
ように料理された。
そして、彼らがゆでることのできるものは彼らはゆ
でた、そして、その薄いスープを飲んだ。
たとえそうでも、人々はその当時、本当によい生活
をしていた。
孫よ、今、私らは色々な種類のもを食べている、
そして、人々はただ順々に死ぬ、そんな風に私には
思えるよ。

〔Alice が彼女が雑木林の人について知っているか
どうか尋ねた〕

私はそれについて知らないよ。
彼らは今日もまだ雑木林の人がいると言うよ！
Arctic 村の辺りに
でも、私は本当にそれについて知らないよ。
昔
飢餓があった
そして、人々は凍え死んだ。
ええと、そのとき
前に女が
生き残っていて、雑木林の中に入った。
時には男も生き残った
そして、彼もまた雑木林の中に入って行っただろう
よ。
彼らはほら穴を持っていた
それは自分自身のために作られていた

そして、それらの人々は
土の中に住んだ、それは今でもまだそうなのかもしれない、でも、私にはわからない。

そして、本当に
死

人々は凍え死んだ
でも、一人の男は逃れ、自分で土の中に穴を掘った、
そして、その中にとどまった。

あるいはある
女がそうした
そうしただろうと私は推測するよ、彼女は逃れ、それから誰かが彼女を見つける、そう言われているよ。
Venetieの辺りで
そこで
その辺りにはたくさんの小川がある。
男はそこで彼女に出会い、彼女を発見した、そう彼らは言う。それで、その男はそれについて語った、と彼は言っている。

それで、人々はほとんど死んでしまって、生き残って一人で暮らした、そういう人について彼らは語っているのさ。

〔Aliceが彼女がその人を見たことがあるかどうか尋ねた〕

まさか、実のところは
私はどうしたら雑木林の人を目にすることができた
だろうか！
私らはただそれについて聞いているだけさ、それで全部さ。

Bellaは雑木林の人を見た
でも、彼女は死んだ。
Francisの妻。
孫よ、彼らはKheetiskに住んでいて、下ってきた
そして、狩りもしたかもしれない。

それから、彼らは野営をしていたんじゃないかと思うね。
そして暖かいのでテントの垂れぶたを開いていた。

それから
頂上には何も無い雑木林だけの丘があった。

そして、ちょうどそのとき
彼女が目覚めたんじゃないかねえ。

それから
彼女は反対側のむきだしの砂利の丘の上で何かを見た
彼女は彼女の反対側のすぐ向こうに何かを見た。
そして、男がいた、彼女のほうへやってくる！

ああ
そして、小さな柳が育っている、そこを、すぐそこを
通り過ぎてその砂利の丘に座った。
こうしている間、彼女はFrancisを起こした。

それから
彼らは二人で彼を待った、と思うね。
彼は立ち上がり、それから再び消えた
彼女は彼について言った、
彼女が私に話したように、
それで全てさ。

それは真実だと思うよ、孫よ、
そして、彼らはそのエスキモーについて語っている
だってエスキモーはその山の中にいる、
でも、そこは狩りをするのによい場所だったと言われて
いる、そして、彼らが住んでいるところへはそんな
に遠くない、それでたぶん彼が語っていることは
彼らのことらしいのさ。

そう、それが彼女が私に雑木林の人について語った
話だよーお前は彼についてかなり語っている。
〔Aliceがたとえ司祭がいなかったけれども、前から人々は
信仰があったかどうか尋ねる〕

そこには司祭はいなかった
でも、信仰のあつい人々がいた
昔は
それから司祭がやってきた、彼らは言う、でも
本当に
人々は神のことばを学び、励み、
だんだん彼らはそれを理解するようになった。
そのとき本さえなかった。
その“年寄り”と呼ばれた伝道者は
それらの本を作った、そして
彼らは彼が非常に年老いるまで本を作ったと言う、
それがこの辺りに本がある理由さ。
そして今では

彼らは、このような本はもうないだろうと
いう。

孫よ

人々は本当に

たくさんを教えられた。

私らはいつも祈っている、それで全てさ。

日曜日に二度、そして、毎日。

ああ、孫よ、二、三年後

私の息子が大きくなってきたとき、そのとき、すべ
てが変わった。

そして、だんだん悪くなり続けている、今日のように。

死もそうなのさ。

後で、人々はただ私らを銃で絶滅させるかもしれない

それは、そうなるかもしれない。

それから

また

人々は互いに撃ち合い、そして

彼らは本当によい事をしていると考えている、

彼らはそのようになるだろうと言っている。

今日ではそんなようなのさ。

でも、何人かの人達はまだ信じている、彼らがずっと
以前にしてたように、

神のように、そう言われている

生きている人々がいる

そのように

〔Alice が彼女に Dagoo を読むことができたかど
うか尋ねた〕

いや

ずっと前に

お前のじい様が死んだちょっと前に、あそこで、教
会で

David が

伝道者になろうとしていた、そして、彼らは彼を外

部へ連れ出した

そして、彼が不在の間、私は伝道者の代わりになっ
た。

それは、お前のじい様が死んだ後のことだった。

みんなが私の家に入ってきて、私は彼らに聖書を教
えた。

それから

私は視力を失った。

私は視力を失って

それが私をこのようにしたのさ、今の私のようにね。

私が、今、物を見ることのできる方法なんてないの
さ。

その冬、私は McDonald に会った。

彼は私を彼の膝の間に立たせた、そして、彼が座っ
ているときに、私は彼の頭よりも高くなっていた。

まさか、本当に。

それが私が彼に会ったときだった。

そして、ずっと以前に

私が大きくなったとき、それが彼が死んだときだっ
た。

もう一方の斜面をこえて、彼の妻が戻ってきていた
とき

私は彼女を見た。

本当に

“年寄り”という名の伝道者は、

よく働いた。

そら、お前のじい様の父さんも

Teetl'it で

上流で

Eagle で

そして、Teetsii の下流で、彼はそれらの全部の場
所で教えた。

それが、お前のじい様の父さんだよ、“年寄り”と
いう名の伝道者はそうしていた、

彼と一緒に。

そして、私のじい様は上流の伝道者だった

彼はそこで彼の伝道者だった。

そして、それで全てさ。

訳者あとがき

本書「SHANDAA : In My Lifetime—University of Alaska Press 1988」は本僻地教育研究施設で取り組まれている共同研究「環太平洋地域のへき地教育—北海道・アラスカ・ロシアマガダン地域との比較研究」の基礎文献として翻訳されたものである。著者ビル・フィスター氏はアラスカ大学側の共同研究者の一人である。

本書は前書きで述べられているように、アラスカに住む、ひとりのアサバスカンインディアン、Belle Herbert の生涯を通して、アラスカの歴史的、地理的、そして社会的風土を浮きぼりにしようと努めている。原著はアサバスカンのことばで語られた Belle Herbert のことばが英語訳と対応させて記述されている。本書の題名「SHANDAA」はアサバスカンインディアンのことばで「私の生涯の中で (in my lifetime)」という意味である。日本語訳にあたっては全て、英語訳に基づいている。

本書との出会いは3年前にさかのぼる。1990年夏、前述の共同研究の立案のためにアラスカ大学フェアバンクス校を訪問し、モハット学部長、ビル・フィスター氏と出会って、我々の構想を説明したときがそもそも発端である。私の希望を聞き入れて、ビルはユーコン河流域のアサバスカンの村へ連れていったり、アサバスカン文化のリーダーであるあの偉大なピーター・ジョン氏と出会えるチャンスを作ってくれたりした。また、アラスカの人々でもめったに参加することのできないメモリアルポトラッチにも参加できる幸運にも恵まれた。この強烈な体験が本書を翻訳する大きな動機となっている。

幸い、本書の翻訳の推進役となった金澤克美がアラスカ大学フェアバンクス校に短期留学した時に、同様の体験をした。特に、彼女の場合、アサバスカンの村で短期ではあるが生活を共にすることが出来たことは本書に登場する Belle の心の世界を感じとる上で役立っているように思われる。Belle の語り調の表現のかもしれないニュアンスを的確に捉えることはわれわれの力量を越えるものがあつた。しかし、われわれが直接出会ったアサバスカンの人々との交わりで得た体験は、遠い昔の Belle の姿を心の中に投影出来たという点で収穫であつた。このことが翻訳の不十分さを補い得ていれば幸いである。なお、本書の翻訳にあたっては加藤富夫教授から助言と英

訳の校正にお力をいただいた。素訳のニュアンスを出来るだけ壊さないようにとの配慮から、校正に苦心された様子である。本書の翻訳にかかわってなにか問題があるとすれば後藤にその責任がある。

編者と翻訳の約束をして、本書を日本に持ち帰ってから、3年の年月が過ぎたが、今読み返してみると本書の持ち味は時間を越えてその価値を持ち続けているように思われる。

我々は本書を通して、Belle Herbert を知り得たことは幸いである。なぜなら、彼女こそ、アラスカそのものであるからである。

最後に、我々に本書の翻訳の機会を与えてくれたビル・フィスター氏に感謝の意を申しあげる。

後藤 守 (北海道教育大学札幌校教授・僻地教育研究施設長)

金澤 克美 (北海道教育大学大学院教育学研究科院生)

加藤 富夫 (北海道教育大学札幌校教授・僻地教育研究施設研究員)